史跡 斎宮跡

平成15年度発掘調査概報

2005年3月

斎宮歴史博物館

第１４０次調査区全景（上空から）

第１４１次調査区　ＳＦ 8945（南西から）

序

史跡東部では、これまでの調査の成果により、平安時代を中心とした斎宮跡の様相が明らかとなっていることに対し、史跡西部では解明が進んでいませんでした。このことを踏まえ、平成14年度から史跡西部の状況を把握するために幅4mのトレンチによる計画調査を5ヵ年計画で実施しています。

平成15年度については、2ヶ所の計画調査を行ないました。史跡東部で行なった第140次調査は、主神司区画南部の状況把握を目的としたものです。また、史跡西部で行なった第141次調査は、「初期斎宮」の状況を把握するもので、5ヵ年の計画の2年目に当たります。それぞれの成果については本文のなかで各担当が述べておりますのでぜひ御味読ください。

史跡斎宮跡では約30年間にわたり発掘調査を継続しており、かなりのデータが蓄積されているわけですが、それでも毎年の調査によって新たな発見や疑問点が出てきます。地元は言うまでもなく、日本国民共通の財産として、史跡斎宮跡に関する「知の情報」を今後も提供し続けていきたいと思います。

史跡斎宮跡の保存と調査研究・整備にあたりましては、地元明和町在住の方々、明和町および関係機関、斎宮跡調査研究指導委員をはじめとする諸先生方や文化庁から、有形無形の援助を頂いております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

２００５（平成１７）年３月

斎宮歴史博物館
館長　吉村裕之

例　　言

1　本書は、斎宮歴史博物館が平成15年度に国庫補助金を受けて実施した史跡斎宮跡発掘調査（第140・141次調査）の概要をまとめたものである。

2　明和町教育委員会が、国庫補助金の交付を受け調査主体となって実施した史跡現状変更等に伴う緊急発掘調査の第142次調査報告書は、別途明和町教育委員会が刊行している。

3　遺構の実測にあたっては、日本測地系による国土調査法（旧国土座標）の第Ⅵ座標系を基準とし、方位は旧国土座標による座標北で示している。

4　遺構時期区分の指標となる土器の分類と時期認定については、「斎宮跡の土器」（『斎宮跡発掘調査報告』Ⅰ　斎宮歴史博物館　2001年）による。

5　遺構表示記号は次のとおりである。

ＳＢ；掘立柱建物　ＳＤ；溝　ＳＥ；井戸　ＳＦ；道路　ＳＨ；竪穴住居　ＳＫ；土坑

ＳＸ；土壙墓・墓　ＳＺ；落ち込み・その他　ｐｉｔ；柱穴

6　遺物実測図は実物の４分の１を基本とし、資料の性格に応じて変更したものもある。遺物写真はとくに指定したもの以外は縮尺不同である。

7　出土遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行『新版標準土色帖』（1995年版）に拠る。なお、施釉陶器の釉薬の色調については、大日本インキ化学工業株式会社発行「日本の伝統色」（第５版）に拠る。

8　遺物の文字表現には、材質の差による漢字の偏に必ずしも従うことなく、「わん」は「椀」、「つき」は「杯」を用いている。

9　第Ⅱ－２表の土器計測はＳＫ8842全出土土器に対して行い、その方法については平成13年度発掘調査概報に準じた。第Ⅱ－19図および第Ⅱ－20図は本報告に掲載した土器のデータを用いて作図した。

10　本書の執筆は、竹内英昭・小濱　学・才木　薫があたり、目次および文末に記した。編集は調査研究グループで行った。また、発掘調査および資料整理については、西村秋子・杉原泰子・八木光代・長島悠子のほか、次の学生諸氏の参加があった。

清野陽一・大久保幸枝（以上、三重大学）

目　　次

Ⅰ　前言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小濱　学・・・1

Ⅱ　第140次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・竹内英昭・才木　薫・・・7

Ⅲ　第141次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小濱　学・・・46

挿　図　目　次

第Ⅰ－1図　史跡斎宮跡位置図……………………… 2
第Ⅰ－2図　平成15年度発掘調査区位置図 ………… 3
第Ⅰ－3図　斎宮跡方格地割区画名称………………… 5
第Ⅰ－4図　史跡斎宮跡における大地区……………… 6
第Ⅱ－1図　第１４０次調査区　大地区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ図…… 7
第Ⅱ－2図　第１４０次調査区　位置図……………… 7
第Ⅱ－3図　第１４０次調査区　土層図・平面図……… 8
第Ⅱ－4図　第１４０次調査区　ＳＢ8853・8854・8855 平面・断面図……… 10
第Ⅱ－5図　第１４０次調査区　ＳＢ8857・8858・8859・8860 平面・断面図、ＳＢ8858　柱穴土層断面図 …… 11
第Ⅱ－6図　第１４０次調査区　ＳＢ8861・8862・8863 平面・断面図……… 12
第Ⅱ－7図　第１４０次調査区　ＳＢ8856 平面・断面図……… 13
第Ⅱ－8図　第１４０次調査区　ＳＥ8850、ＳＫ8842 平面・断面図……… 14
第Ⅱ－9図　第１４０次調査区　ＳＫ8852 平面・断面図……… 15
第Ⅱ－10図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（1）‥ 16
第Ⅱ－11図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（2）‥ 17
第Ⅱ－12図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（3）…… 19
第Ⅱ－13図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（4）‥ 20
第Ⅱ－14図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（5）‥ 21
第Ⅱ－15図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（6）‥ 22
第Ⅱ－16図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（7）‥ 23
第Ⅱ－17図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（8）‥ 24
第Ⅱ－18図　第１４０次調査区　建物変遷図 ………… 26
第Ⅱ－19図　第１４０次調査区　ＳＫ8842土師器供膳具法量散布図 …… 27
第Ⅱ－20図　第１４０次調査区　ＳＫ8842土師器供膳具口径分布図 …… 27
第Ⅱ－21図　第１４０次調査区　西加座南区画東半北部建物群配置図…… 28
第Ⅲ－1図　第１４１次調査区　大地区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ図…… 46
第Ⅲ－2図　第１４１次調査区　位置図……………… 47
第Ⅲ－3図　第１４１次調査区　土層断面図………… 48
第Ⅲ－4図　第１４１次調査区　遺構平面図第１検出面部分 ………… 49・50
第Ⅲ－5図　第１４１次調査区　遺構平面図第２検出面部分 ………… 51・52
第Ⅲ－6図　第１４１次調査区　ＳＢ8946 平面・断面図……… 53
第Ⅲ－7図　第１４１次調査区　ＳＨ8885・8886 平面・断面図……… 54
第Ⅲ－8図　第１４１次調査区　ＳＨ8903・8917 平面・断面図……… 55
第Ⅲ－9図　第１４１次調査区　ＳＫ8883、ＳＸ8880 平面・断面図……… 56
第Ⅲ－10図　第１４１次調査区　ＳＢ8931・8932・8933・8934 平面・断面図……… 57
第Ⅲ－11図　第１４１次調査区　ＳＢ8935・8936 平面・断面図……… 58
第Ⅲ－12図　第１４１次調査区　ＳＨ8888・8891 平面・断面図……… 59
第Ⅲ－13図　第１４１次調査区　ＳＨ8884 平面・断面図……… 60
第Ⅲ－14図　第１４１次調査区　ＳＦ8945 平面・断面図……… 61
第Ⅲ－15図　第１４１次調査区　ＳＢ8937・8938・8939・8940・8941・8942平面・断面図……… 62
第Ⅲ－16図　第１４１次調査区　出土遺物実測図（1）‥ 66
第Ⅲ－17図　第１４１次調査区　出土遺物実測図（2）‥ 67
第Ⅲ－18図　第１４１次調査区　出土遺物実測図（3）…68
第Ⅲ－19図　第１４１次調査区　出土遺物実測図（4）‥ 69
第Ⅲ－20図　第１４１次調査区　出土遺物実測図（5）‥ 70
第Ⅲ－21図　道路側溝検出状況 …………………… 73
第Ⅲ－22図　道路跡想定図 ………………………… 74

写 真 図 版 目 次

巻頭　第１４０次調査区全景、第１４１次調査区道路遺構
第Ⅱ－１　第１４０次調査　遺構（1）…… 38
第Ⅱ－２　第１４０次調査　遺構（2）…… 39
第Ⅱ－３　第１４０次調査　遺構（3）…… 40
第Ⅱ－４　第１４０次調査　遺構（4）…… 41
第Ⅱ－５　第１４０次調査　遺物（1）…… 42
第Ⅱ－６　第１４０次調査　遺物（2）…… 43
第Ⅱ－７　第１４０次調査　遺物（3）…… 44
第Ⅱ－８　第１４０次調査　遺物（4）…… 45
第Ⅲ－１　第１４１次調査　遺構（1）…… 78
第Ⅲ－２　第１４１次調査　遺構（2）…… 79
第Ⅲ－３　第１４１次調査　遺構（3）…… 80
第Ⅲ－４　第１４１次調査　遺構（4）…… 81
第Ⅲ－５　第１４１次調査　遺構（5）…… 82
第Ⅲ－６　第１４１次調査　遺構（6）…… 83
第Ⅲ－７　第１４１次調査　遺構（7）…… 84
第Ⅲ－８　第１４１次調査　遺構（8）…… 85
第Ⅲ－９　第１４１次調査　遺構（9）…… 86
第Ⅲ－10　第１４１次調査　遺物（1）…… 87
第Ⅲ－11　第１４１次調査　遺物（2）…… 88
第Ⅲ－12　第１４１次調査　遺物（3）…… 89
第Ⅲ－13　第１４１次調査　遺物（4）…… 90
第Ⅲ－14　第１４１次調査　遺物（5）…… 91
第Ⅲ－15　第１４１次調査　遺物（6）…… 92

表 目 次

第Ⅰ－１表　平成１５年度発掘調査一覧…… 4
第Ⅱ－１表　第１４０次調査区緑釉陶器出土地点・破片数一覧…… 25
第Ⅱ－２表　第１４０次調査区ＳＫ8842出土土器組成表　27
第Ⅱ－３表　第１４０次調査区遺構一覧表…… 29
第Ⅱ－４表　第１４０次調査区掘立柱建物一覧表…… 30
第Ⅱ－５表　第１４０次調査区出土遺物観察表（1）…… 31
第Ⅱ－６表　第１４０次調査区出土遺物観察表（2）…… 32
第Ⅱ－７表　第１４０次調査区出土遺物観察表（3）…… 33
第Ⅱ－８表　第１４０次調査区出土遺物観察表（4）…… 34
第Ⅱ－９表　第１４０次調査区出土遺物観察表（5）…… 35
第Ⅱ－10表　第１４０次調査区出土遺物観察表（6）…… 36
第Ⅱ－11表　第１４０次調査区出土遺物観察表（7）…… 37
第Ⅲ－１表　第１４１次調査区遺構一覧表 …… 63
第Ⅲ－２表　第１４１次調査区竪穴住居一覧表 …… 64
第Ⅲ－３表　第１４１次調査区掘立柱建物一覧表 …… 64
第Ⅲ－４表　第１４１次調査区出土遺物観察表（1）…… 75
第Ⅲ－５表　第１４１次調査区出土遺物観察表（2）…… 76
第Ⅲ－６表　第１４１次調査区出土遺物観察表（3）…… 77
第Ⅲ－７表　第１４１次調査区緑釉陶器出土地点・破片数一覧…… 77

Ⅰ 前 言

1 調査の経緯と概要

史跡斎宮跡は、後に斎宮歴史博物館が建設された古里地区での宅地開発計画に伴い昭和45年に発掘調査が始まり、文化庁の補助事業として昭和48年から開始した範囲確認調査を経て、昭和54年3月27日に国の史跡に指定された。県は史跡指定に伴い斎宮跡調査事務所を設置して発掘調査に当たり、平成元年からは斎宮歴史博物館を建設し、史跡解明の計画調査を継続して実施している。

斎宮跡の発掘調査は、これまでの発掘調査成果の蓄積から史跡東部に存在すると考えられる平安時代の斎宮跡解明が中心となって進められてきたが、史跡西部に所在すると想定されてきた飛鳥・奈良時代の斎宮跡を解明することも重要な課題として残っており、この課題解明のため平成13年度には第132次調査として面調査を実施している。

発掘調査

史跡東部の調査では、斎宮寮の中枢部である内院地区の可能性が強い牛葉・鍛冶山地区の調査、その最北端の寮庫推定区画について、これまでの数次にわたる調査で区画の解明がほぼ終了しているが、この両者の区画間の神殿推定区画については、西半部の解明が進んでいるものの、東半部については不明な点が多いため、平成14年度の第136次調査に引き続き、本年度は第140次調査を実施した。

史跡西部の飛鳥・奈良時代斎宮跡の調査は対象地域が広いため、効率を考えてトレンチ調査による範囲確認調査を平成14年度から5カ年計画で開始することとなった。今年度も引き続き斎宮歴史博物館南側の旧竹神社周辺で第141次調査を実施した。なお、各次数の調査内容については本文を参照されたい。

2 調査体制

史跡斎宮跡の調査・整備に関する業務は、斎宮歴史博物館調査研究グループが担当した。当報告に関わる組織は以下の体制で行った。

平成15年度

泉 雄二（主幹兼グループリーダー）
竹内英昭（主査）
伊藤裕偉（技師兼学芸員）
小濱 学（主事兼学芸員）

平成16年度

新田 洋（主幹兼グループリーダー・平成16年8月31日迄）
竹内英昭（主査・平成16年8月31日迄、主査兼グループリーダー・平成16年9月1日から）
小濱 学（主事兼学芸員）
柴山圭子（主事）
才木 薫（専門業務補助職員・平成16年9月1日から）

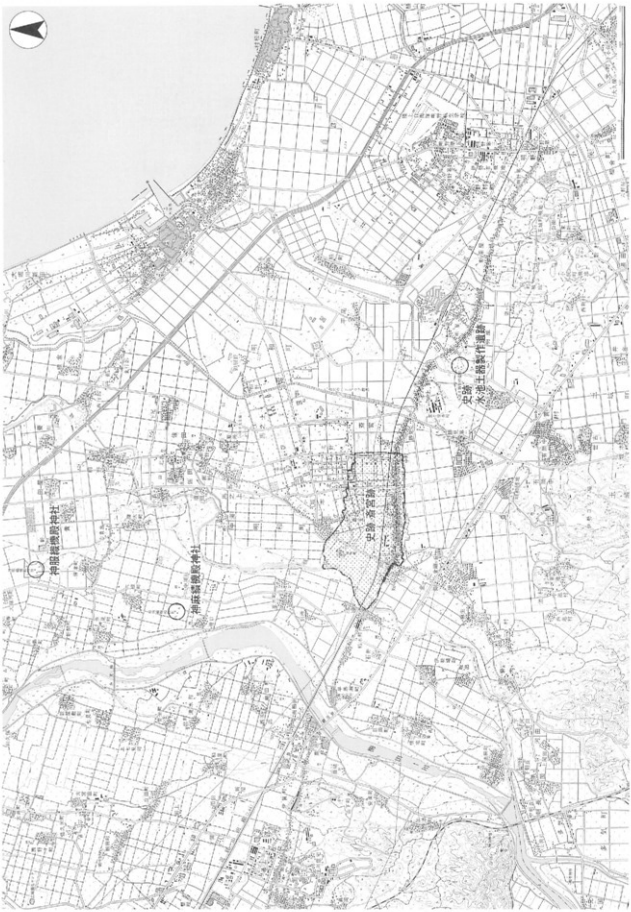
3 調査研究指導委員会議

斎宮跡の調査・整備について指導・助言を得るため、斎宮跡調査研究指導委員会議を実施している。平成15年度は、第1回を平成15年7月18日（金）、第2回を平成15年10月15日（水）に開催した。指導委員の方々は下記のとおりである（順不同・敬称略）。

上村 喜久子（名古屋短期大学教授）
狩野 久（京都橘女子大学教授）
北原 理雄（千葉大学教授）
佐々木 恵介（聖心女子大学助教授）
鈴木 嘉吉（元奈良国立文化財研究所所長）
所 京子（聖徳学園岐阜大学教授）
八賀 晋（三重大学名誉教授）
町田 章（奈良国立文化財研究所所長）
渡辺 寛（皇學館大學教授）

4 発掘体験塾

今年度から、当館の体験事業として「みんなで掘ろう斎宮－発掘体験塾－」と銘打ち、成人を対象に一般公募を行なった。事業の内容としては、発掘調査の実地体験、室内講義、整理作業といった、一連



第Ⅰ－１図　史跡斎宮跡位置図（１：50,000）　国土地理院発行　1/25,000「松阪」「明野」（平成４年）より

第Ⅰ－２図　平成 15 年度発掘調査区位置図（1：10,000）

の発掘調査を、8ヶ月（月1～2回程度）・計15回に分け行ない、好評のうちに終了した。第141次調査と並行して行ない、計画調査を第141-1次、体験発掘塾の調査部分を第141-2次と便宜上分けたが、本概報では、第141次調査として報告している。

なお、本概報作成にあたり、下記の人の助言を得た。（順不同・敬称略、所属は平成15年度当時）

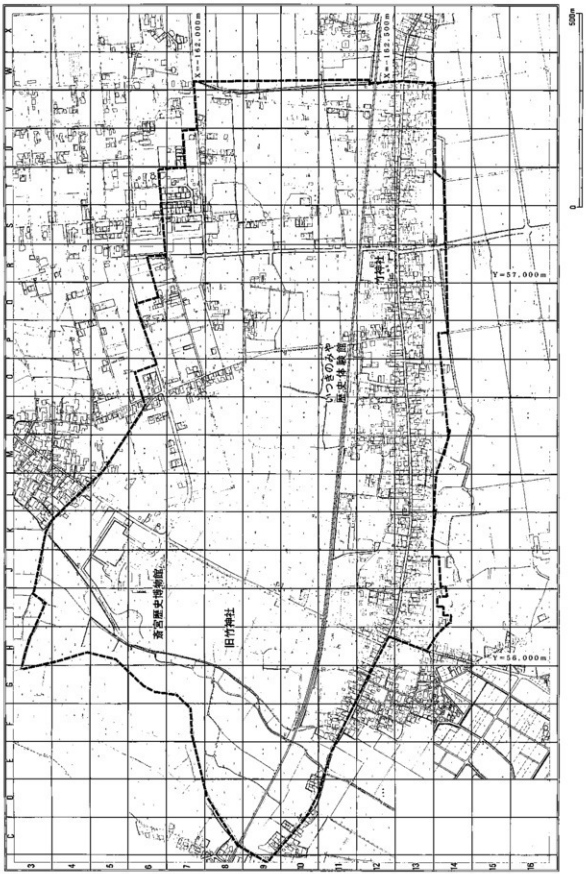
上村安生（三重県生活文化部）、大川勝宏（三重県教育委員会）、尾野善裕（京都国立博物館）、木野本和之（亀山市教育委員会）、中野敦夫（明和町）、山中　章（三重大学）、渡辺博人（各務原市）、大川　操・角正芳浩・新名　強・萩原義彦（三重県埋蔵文化財センター）・森川常厚（嬉野町教育委員会）

（小濵　学）

調査次数	地区	面積（㎡）	調査日時	位置	土地所有者	現状変更名	保存地区区分
140	S 10	535.0	15.6.4～15.8.12	明和町斎宮字西加座	明和町	計画発掘調査	2
141	G・H 9	533.0	15.8.19～15.11.12	明和町竹川字中垣内	明和町・個人	計画発掘調査	1・2
142－1	M 11	3.5	15.5.7	明和町斎宮字広畑	個人	住宅改築	4
142－2	M 11	33.0	15.6.19～15.6.21	明和町斎宮字牛乗・木葉山	明和町	水道管布設	3
142－3	K 13	30.0	15.7.22～15.7.25	明和町竹川字南裏	明和町	水道管布設	3
142－4	M 6	136.0	15.7.31～15.8.2	明和町斎宮字出在家	個人	建物建築	3
142－5	R・S 7	236.0	15.8.18～15.8.22、15.10.1～15.10.2	明和町斎宮字西前沖	個人	道路造成	4
142－6	S 12	33.0	16.11.4～16.11.7	明和町斎宮	個人	建物建築	4
142－7	J 12	330.0	15.9.26～15.10.18	明和町竹川字東裏	個人	公民館改築等	4
142－8	Q 9	13.0	15.12.17～15.12.18	明和町斎宮字下園	個人	住宅改築等	4
142－9	N 13	5.2	16.1.6	明和町斎宮	個人	浄化槽設置等	4
142－10	Q 12	5.8	16.1.14、16.1.15	明和町斎宮	個人	浄化槽設置	4
142－11	Q 7	154.0	16.2.9、16.2.12	明和町斎宮字案殿	個人	建物改築	4
142－12	P 11・12	8.0	15.12.26	明和町斎宮	個人	建物建築	4
142－13	S 10	3.0	15.7.24	明和町斎宮	個人	浄化槽設置	4
142－14	O 13	3.0	15.11.5	明和町斎宮	個人	浄化槽設置	4
142－15	Q 6	3.5	15.4.22	明和町斎宮字案殿	個人	住宅改築	4
142－16	K・L 7	480.0	16.3.9～16.3.31	明和町竹川字古里	個人	発掘調査（住宅準塾に伴う）	4
142－17	H 11	45.0	16.3.10～16.3.12	明和町竹川字中垣内	個人	建物改築	3
142－18	R 13	32.0	16.3.19～16.3.23	明和町斎宮字中西	個人	建物建築等	4
142－19	N 13	3.8	16.3.30、16.3.31	明和町斎宮	個人	浄化槽設置	4

第Ⅰ－1表　平成15年度発掘調査一覧

第Ⅰ－３図　斎宮跡方格地割区画名称（1：5,000）



第Ⅰ－４図　史跡斎宮跡における大地区（2002年）

Ⅱ　第140次調査

(6AS10　西加座南区画)

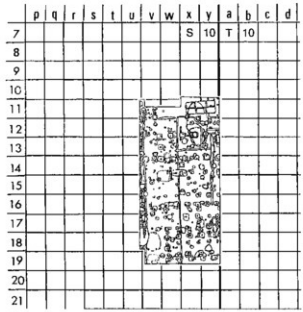
1　調査の契機と経過

第140次調査区は、平成14（2002）年度に実施した第136次調査区の南に隣接する位置にあたる。現況は畑である。史跡東部に展開する方格地割の内で、「西加座南」区画と呼ばれているブロックの道路の東半にあたる。

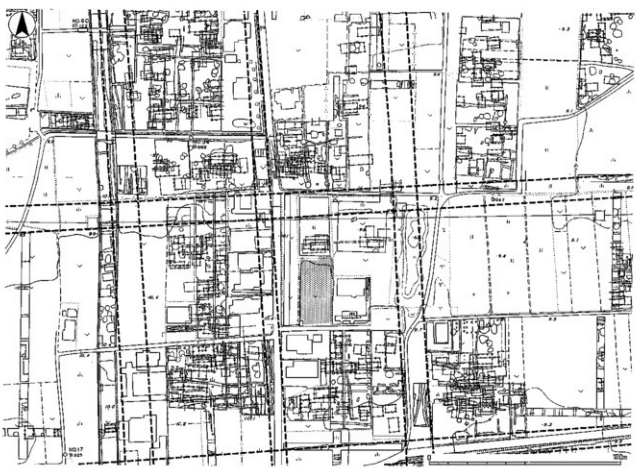
「西加座南」区画は方格地割の中央部付近にあり、その南の「鍛冶山西」区画は斎王の居所を想定した「内院」と呼ぶ区画である。

「西加座南」区画は、平成元年の第83次調査等で確認された正殿と脇殿とを柵で四周を囲んだ祭殿風建物の存在から、斎宮寮十三司のうち、祭祀関係を管掌する「主神司」の想定地でもあり、今回の調査はその実態解明を目的として行なった。

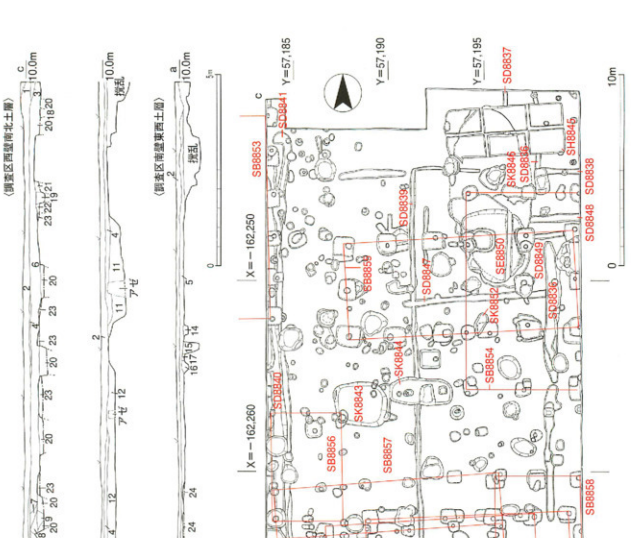
調査は平成15（2003）年6月4日より開始し、



第Ⅱ－1図　第140次調査区　大地区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ図（1：800）



第Ⅱ－2図　第140次調査区　位置図（1：2,000）　※破線は想定される方格地割側溝の位置



1　客土
2　耕作土
3　7.5YR3/4 暗褐色 ＋ 7.5YR6/6 橙色混砂質土
4　7.5YR5/4 にぶい褐色砂質土
5　7.5YR4/2 灰褐色砂質土
6　10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土　遺構埋土
7　7.5YR4/2 灰褐色砂質土（5YR6/6 橙色少混）
8　7.5YR5/3 にぶい褐色砂質土（5YR6/6 橙色少混）
9　7.5YR3/1 黒褐色砂質土
10　7.5YR3/1 黒褐色 ＋ 7.5YR7/6 橙色混砂質土　遺構埋土
11　10YR2/2 黒褐色砂質土　遺構埋土
12　10YR2/2 黒褐色砂質土　遺構埋土
13　10YR2/3 黒褐色砂質土　遺構埋土
14　7.5YR3/2 黒褐色砂質土　遺構埋土
15　7.5YR3/2 黒褐色砂質土　遺構埋土
16　7.5YR5/2 灰褐色砂質土　遺構埋土
17　7.5YR4/3 褐色砂質土　遺構埋土
18　7.5YR7/4 にぶい橙色 ＋ 7.5YR3/2 黒褐色混砂質土　遺構埋土
19　7.5YR3/2 黒褐色砂質土　遺構埋土
20　7.5YR3/2 黒褐色 ＋ 5YR6/6 橙色混砂質土　遺構埋土
21　7.5YR3/2 黒褐色 ＋ 5YR6/6 橙色混砂質土　遺構埋土
22　5YR6/6　橙色 ＋ 7.5YR4/2 灰褐色混砂質土　遺構埋土
23　7.5YR7/4 にぶい橙色砂質土　地山
24　7.5YR6/6 橙色粘質土　地山

第Ⅱ－３図　第１４０次調査区　土層図（１：100）・平面図（１：200）

同年8月12日に埋戻しまで含めて終了した。最終調査面積は535㎡で、7月26日（日）に現地説明会を開催し、約140名の参加があった。

2　調査区の層位

調査区は当初、南北33 m、東西16.5 mのほぼ座標南北方向に設定し、耕作土から人力により掘削したが、検出された遺構の状況から判断し、北西隅部と北東部に調査区を拡張した。

層位は、上層から耕作土、床土、床土直下で橙色粘質土の地山に到達したため、地山面で遺構の検出を行なった。

遺物は表土層から混入していたが、床土により多く包含されていた。しかしながら全体的に遺構検出面までの深度が浅いためか、ほとんどが遺構に伴うものであり、出土総量は遺物収納箱130箱程度である。

調査前の標高は10.1 mほどで、宅地化された箇所を除くと、周辺で最も高所にあり、その北および南側に向かうに従って低くなる。

3　遺　構

今回の調査区では奈良時代から平安時代にかけての遺構を中心に確認している。遺構は掘立柱建物、井戸、土坑、竪穴状遺構、溝のほか、現時点では建物又は柵等の柱穴と捉えることができないピットが多数検出された。なお、掘立柱建物の主軸方向は、南北棟・東西棟を問わずすべて座標北（N軸）を基準として表記している。

（1）掘立柱建物

確認された掘立柱建物は11棟で、奈良時代末から平安時代中期にかけて5回以上変遷すると考えられる。

ＳＢ8853　調査区の北西隅付近で確認されたもので、建物の主軸はＮ1°Ｗ偏で、ほぼ南北方向をとる。建物の規模は南北5間で、10.7 mをはかる。東西方向は調査区外へ延びるため不明である。柱掘形は方形で、一辺0.8～1.0 m程度の規模をもつ。

ＳＢ8854　調査区の北東で確認されたもので、主軸はＮ0°で南北方向の建物である。建物の規模は南北4間、東西2間で、南北10.4 m、東西5.9 mとなる。柱穴の重複関係から井戸SE8850及び土坑SK8846より新しいことがわかる。柱掘形はやや不整形な方形で、一辺0.8 m程度の規模をもつ。

ＳＢ8855　調査区の北半部で確認されたもので、主軸がＮ3°Ｗ偏となる東西方向の建物である。建物の規模は東西5間、南北2間で、東西12.1 m、南北5.0 mとなる。柱穴の重複関係からSB8854より新しいことがわかる。柱掘形は方形で、一辺1.0～1.2 m程度の規模をもつ。

ＳＢ8856　調査区の中央西端付近で確認されたもので、主軸がＮ1°Ｗ偏の南北方向の建物である。建物の規模は南北3間、東西2間で、東西3.7 m、南北5.6 mとなる。柱掘形は円形で、径0.3～0.4 m程度の規模をもつ。

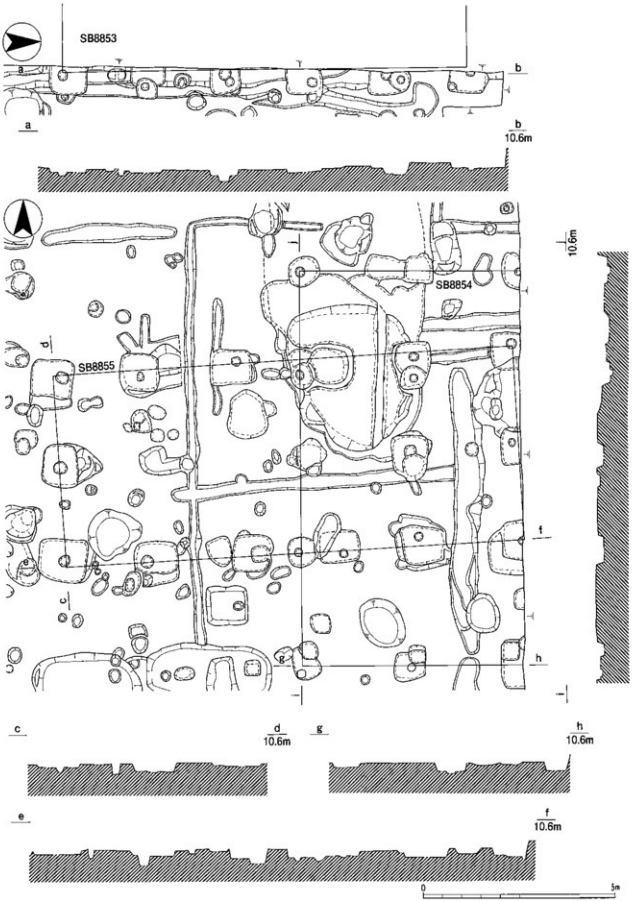
ＳＢ8857　調査区の中央やや南寄りで確認されたもので、主軸がＮ4°Ｗ偏となる東西方向の建物で、東西5間、南北2間の身舎の北面に庇がつく。身舎は東西11.8 m、南北5.2 m、庇を含めると南北7.8 mとなる。柱穴の重複関係から、SB8858・SB8859・SB8860のいずれよりも新しいことがわかる。柱掘形は方形で、一辺0.6 m程度の規模をもつ。

ＳＢ8858　調査区の南東、東壁沿いに確認されたもので、主軸がＮ1°Ｗ偏の南北方向の建物である。建物の規模は南北3間、東西2間で、東西4.5 m、南北8.6 mとなる。柱穴の多くに柱の抜取り痕があり、焼土が含まれている。柱掘形は方形で、一辺0.8～1.0 m程度の規模をもつ。

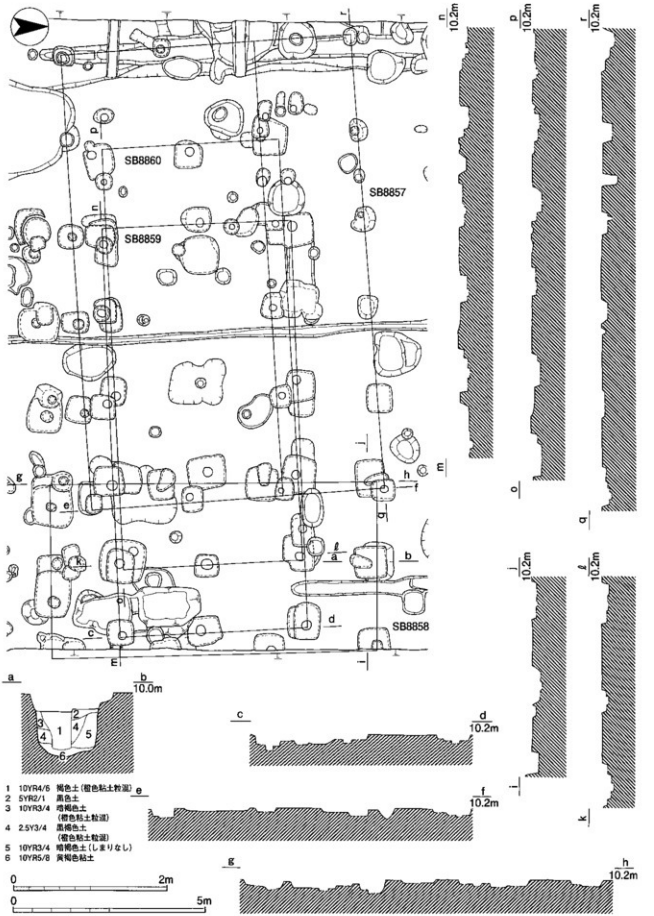
ＳＢ8859　調査区の中央やや南寄りで確認されたもので、主軸がＮ3°Ｗ偏となる東西方向の建物である。建物の規模は東西5間、南北2間で、東西10.7 m、南北5.0 mとなる。SB8860と柱穴の重複が大きい。柱掘形は方形で、一辺0.7～0.9 m程度の規模をもつ。

ＳＢ8860　調査区の中央やや南寄り、SB8859と重複する位置にあり、主軸がＮ3°Ｗ偏となる東西方向の建物である。建物の規模は東西5間、南北2間で、東西11.2 m、南北4.0 mとなる。柱掘形は方形で、一辺0.7～0.9 m程度の規模をもつ。SB8859より新しい。

ＳＢ8861　調査区の南端近くで確認されたもので、主軸がＮ5°Ｗ偏となる東西方向の建物である。建



第Ⅱ－４図　第１４０次調査区　ＳＢ 8853・8854・8855 平面・断面図（1：100）



第Ⅱ－５図　第１４０次調査区ＳＢ 8857・8858・8859・8860 平面・断面図（１：100）、ＳＢ 8858 柱穴土層断面図（１：50）

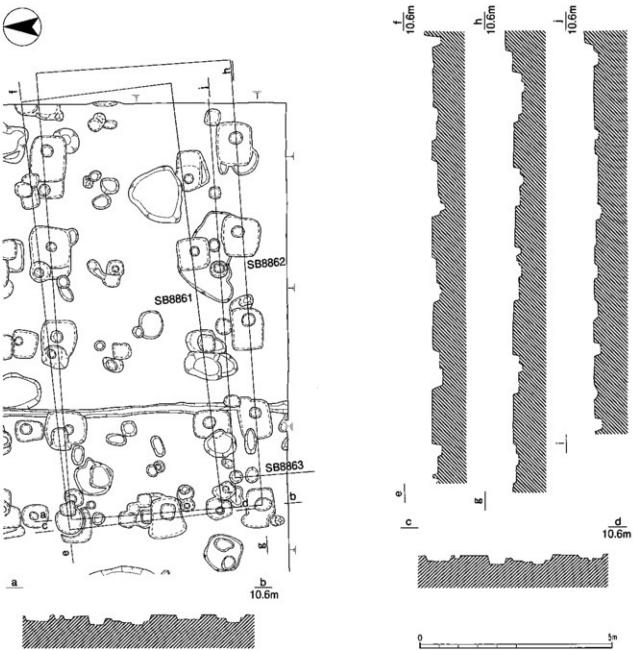
物の規模は東西５間、南北２間で、東西 11.2 m、南北 4.0 mになるものと推定できる。東西方向中央には束柱と思われる柱列が伴う。柱穴の重複関係からSB8862より新しいことがわかる。柱掘形は方形で、一辺 0.6 ～ 0.8 m程度の規模をもつ。

ＳＢ 8862　調査区の南端近くで確認されたもので、SB8861と大きく重複する位置にあり、主軸がＮ４°Ｗ偏となる東西方向の建物である。建物の規模は東西５間、南北２間で、東西 11.0 m以上、南北 5.0 mとなる。柱穴の重複関係からSB8858より新しいことがわかる。柱掘形は方形で、一辺 1.0 m程度の規模をもつ。

ＳＢ 8863　調査区の南端で確認された柱穴列で、柱穴も小さく、欅または槲の可能性もある。東西方向５間ないしそれ以上となり、建物跡とすればＮ３°Ｗ偏となる。柱掘形は円形で、径 0.4 m程度の規模をもつ。

(2) 井戸

ＳＥ 8850　周辺の状況から判断して、土坑ないし井戸と推定したが、掘立柱建物SB8854及びSB8855の柱穴と重複するために、掘削は行うことができず、調査の最終時点に実施した溝掘り調査で、



第Ⅱ－６図　第１４０次調査区　ＳＢ 8861・8862・8863 平面・断面図（1：100）

井戸であることが判明した。

井戸掘形は不整円形。長径4m、短径3mほどで、井戸枠痕跡は方形となる。確認できた南北方向の大きさ1.7mをはかる。検出面より深さ1m程度まで掘削を行った。検出できた範囲では井戸枠等の構築物は確認できなかった。

出土遺物として土師器・須恵器・製塩土器があり、後述する土坑SK8846より新しいことが重複関係の検討から確認できた。

(3) 竪穴状遺構

ＳＨ 8845 調査区の北東隅で確認された東西方向6.1m、南北方向2.6m、深さ約0.2mの長方形の遺構で、土坑SK8846と重複し、SK8846より新しい。底面は平坦で竪穴住居跡に類する構造だが、これに伴うとみられる柱穴は遺構内には存在しないが、遺構周辺に小規模なピットがあり、SH8845に関連する可能性はある。

遺構内から土師器・須恵器・土錘が出土した。

(4) 土坑

調査区内からいくつかの土坑が確認されたが、近現代の土取り穴を除くと、奈良後半の土坑3基、平安前期の土坑2基および後期の土坑1基に分かれる。

ＳＫ 8842 調査区の南西隅近くで確認された土坑で、長径4.0m、短径約2.7m、深さ0.2mほどの楕円形となり、底面はほぼ平坦である。多量の土師器のほか、須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器が出土した。

ＳＫ 8843 調査区の中央やや西寄りで確認された長辺2.8m、短辺2.3m、深さ約0.3mの長方形の土坑で、底面はほぼ平坦である。出土遺物は少量で、土師器・須恵器が出土した。

ＳＫ 8844 調査区のほぼ中央、SK8843と隣接する。長辺3.3m、短辺1.4m、深さ0.3mの狭長な長方形の土坑で、底面の中央付近が0.1m弱ほど一段掘り窪められている。出土遺物は少なく、土師器が少量出土したのみである。

ＳＫ 8846 調査区の北東隅付近で確認された長径7m以上、短径4.2mの楕円形の土坑だがSB8854などの掘立柱建物の柱穴と重複するため、上面のみの検出に留めた。したがって、当遺構が土坑以外のものである可能性も否定し難い。出土遺物は土師器・須恵器・土錘などである。

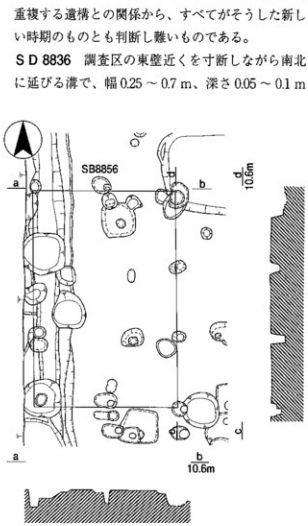
ＳＫ 8851 調査区の南西、SK8842に接して築かれた土坑で、SK8842とかろうじて重複すると思われるが、新旧関係は明らかでない。出土遺物も土師器・黒色土器・須恵器・灰釉陶器・製塩土器などがあり、SK8842との時期差も見出しがたい。

ＳＫ 8852 調査区の中央やや東寄りで確認された長径1.2m、短径0.55mの楕円形に近い土坑。埋土中に土師器皿と陶器小椀が入れ子状となり、さらに回転台土師器などとともに伏せて並べられた状態で出土しており、墓であった可能性もある。

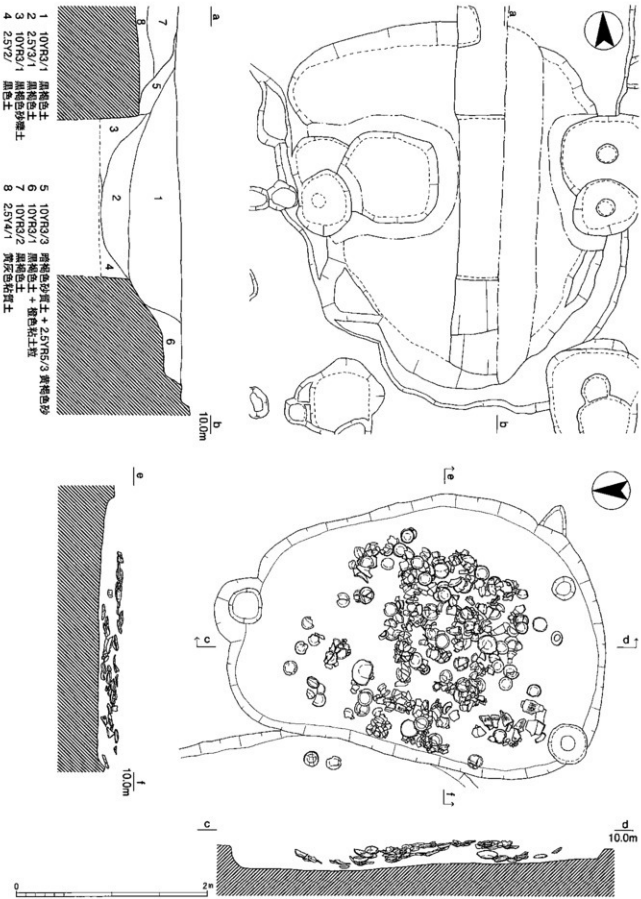
(5) 溝

調査区内からいずれも南北あるいは東西方向をとる溝が9条ほど確認された。これらはいずれも出土遺物が限られ、時期を比定することが困難なものがほとんどであり、なかには斎宮とは直接関係のない比較的新しいものも含まれていると思われる。ただ、重複する遺構との関係から、すべてがそうした新しい時期のものとも判断し難いものである。

ＳＤ 8836 調査区の東壁近くを寸断しながら南北に延びる溝で、幅0.25～0.7m、深さ0.05～0.1m



第Ⅱ－7図 第140次調査区 ＳＢ 8856平面・断面図（1：100）



第Ⅱ－８図　第１４０次調査区　ＳＥ 8850、ＳＫ 8842 平面・断面図（1：40）

をはかり、かなり削平を受けているものと思われる。奈良時代から平安時代にかけての土師器・須恵器片を含む。

ＳＤ 8837　調査区の北東隅近くでのみ検出されたSD8836に沿う南北溝で、幅0.2 m、深さ0.05 m程度をはかる。埋土中に少量の土師器・須恵器片を含む。

ＳＤ 8838　調査区の北壁近くで検出された東西溝で、削平が著しいため、部分的に寸断している。幅0.15～0.3 m、深さ0.05 mほどで、南北溝のSD8839と連結するとみられることから、SD8839と一連のものかもしれない。埋土中に平安時代の土師器片を少量含む。

ＳＤ 8839　調査区中央を南北に延びる溝で、幅0.2～0.3 m、深さ0.05～0.1 mをはかる。埋土中に平安時代の土師器・須恵器・緑釉陶器片などを含む。

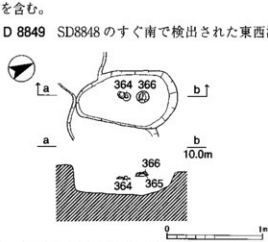
ＳＤ 8840　調査区の西壁に沿って検出された南北溝で、幅0.8～1.0 m以上、深さ0.15～0.2 mをはかる。埋土中には平安中期までの土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器・製塩土器片などの遺物が含まれている。

ＳＤ 8841　調査区の北西で検出された幅0.4 m、深さ0.05 mほどの溝で、SD8840から派生して延びる。埋土中に土師器片等が含まれている。

ＳＤ 8847　調査区の北東で検出された東西溝で、幅0.25～0.35 m、深さ0.05 mをはかる。埋土中には土師器・須恵器片が含まれている。

ＳＤ 8848　調査区の北東で検出された溝で、SD8847と平行する。幅0.4 m、深さ0.05 mをはかる。埋土中に平安時代の土師器・黒色土器・須恵器片などを含む。

ＳＤ 8849　SD8848のすぐ南で検出された東西溝で、幅0.25 m、深さ0.05 mをはかる。SB8855と重複し、SB8855より古いと考えられる。土師器片が出土している。（竹内英昭）



第Ⅱ－９図　第１４０次調査区　ＳＫ 8852 平面・断面図（1：40）

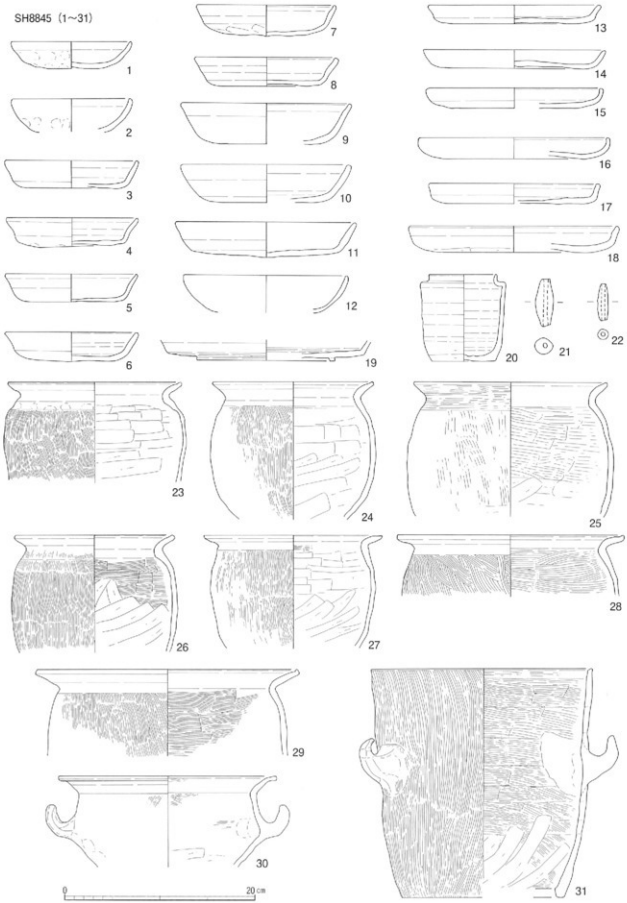
4　出土遺物

ここでは主な遺物について、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』[1]、都城編年[2]および猿投窯の編年[3]をもとに記述する。なお遺構出土遺物の種類に関しては、第Ⅱ－３表も併せて参照されたい。

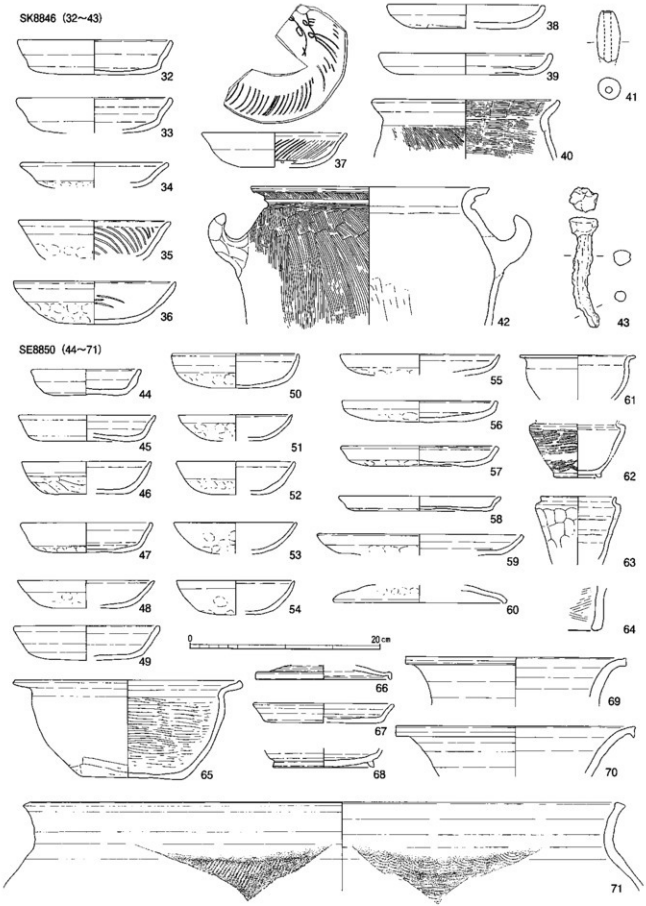
ＳＨ 8845 出土遺物（1～31）　1～18、23～31は土師器。1・2は杯Ｇ。調整は粗雑で、胎土に雲母や砂粒を多く含む。3～11は杯Ａで口径が13.7～15.2cmのもの（3～8）と、18.0～19.1cmのもの（9～11）とに分かれる。7は底部外面をヘラケズリし、口縁部をヨコナデするｂ手法で調整され、他はいずれも底部未調整のｅ手法で調整されている。12は椀Ａで、口縁部のヨコナデの範囲が端部付近に限られる。13～18は皿Ａ。形態的には口縁部が内弯して立ち上がるもの（15・16）、垂直気味に立ち上がるもの（17・18）、口縁部を強くヨコナデした結果外反する新しい要素を持つもの（13・14）に分けられ、ほとんどのものがヨコナデ・ナデで調整されるが18のみ底部外面をヘラケズリしている。23～27は甕Ａで、外面はタテハケ、内面は上半をヨコハケ、下半をケズリ調整する。多くは外面に二次被熱の痕跡と煤の付着が見られる。28・29は甕Ｃで、共に口径が体部最大径より大きく、口縁部が外方へ大きく開くのが特徴で、８世紀終わりごろの所産と考えられる。30は鍋Ｂ。31は甑。19は須恵器盤。20は須恵器壺Ｅで外面下部1/4程を回転ヘラケズリし、底部には回転糸切り痕が残る。21・22は管状土錘。

これらの遺物は概ね斎宮Ⅰ－３～Ⅱ－１段階までの範疇に収まる。

ＳＫ 8846 出土遺物（32～43）　32～40・42は土師器。32～35・37は杯Ａで口縁部内外面を強くヨコナデする32～34と、内面に斜放射状暗文や螺旋状暗文が施される35・37がある。36は椀Ａで内面に退化した粗雑なミガキが確認できる。38・39は皿Ａで口縁部が内弯気味に外上方へ立ち上がるもの。38は底部外面をケズリ調整されている。40は甕Ａで内外面とも細かいハケメで調整される。口縁



第Ⅱ－10図 第１４０次調査区　出土遺物実測図（1）（1：4）



第Ⅱ－11図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（2）（1：4）

部は鈍くつまみ上げられ、肩部から体部にかけてなだらかに広がる。8世紀後半のものか。42は甕Aに把手の付く甕B。41は管状土錘。43は鉄釘で腐食が激しく断面形態は不明である。

これらの遺物は斎宮Ⅰ－4段階に相当すると考えられる。

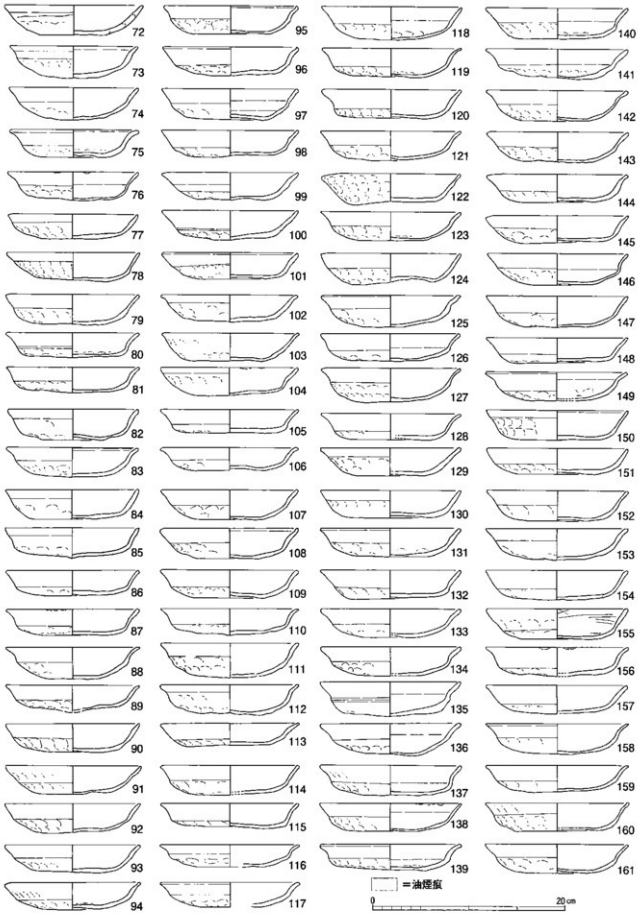
ＳＥ8850出土遺物（44～71） 44～63・65は土師器。44～49は杯A で、調整は多くが口縁部の広い範囲をヨコナデするｅ手法によるものである。46は外面をヘラケズリし、口縁端部のみヨコナデするｃ手法で調整されている。50は杯G。51～54は椀A。多くは口縁部のヨコナデが端部付近に限られる。55～59は皿A。57・58はほぼ平らな底部に強く外反する口縁部を持ち、55・56に比べ新しい要素を持つものである。59は口径21.5cmと大形で、口縁部のヨコナデの範囲が比較的狭く端部に明瞭な面を持つ。斎宮では皿Aのｂタイプに分類されているものである。60は土師器の蓋。ハケやヘラミガキなどの調整は見られない。61は鉢。62・63は壺E。62は外面を粗雑なミガキ、内面をナデ調整されている。63は内外面ともナデ調整されており、内面には粘土紐積み上げ痕が明瞭に残る。65は壺Bで体部内面を粗いハケメ、外面は上半の磨耗が激しく明瞭ではないが、底部付近のみヘラケズリしているようである。口縁端部が若干内側に肥厚する。66～71は須恵器。66は杯B蓋。67は皿A。68は杯B。69は甕A。70は口縁部に自然釉の付着が見られる壺で、猿投編年NN－32号窯式期のものであろう。71は甕B。64は志摩式製塩土器。

これらの遺物は斎宮Ⅰ－3～Ⅱ－1段階の範疇に収まる。

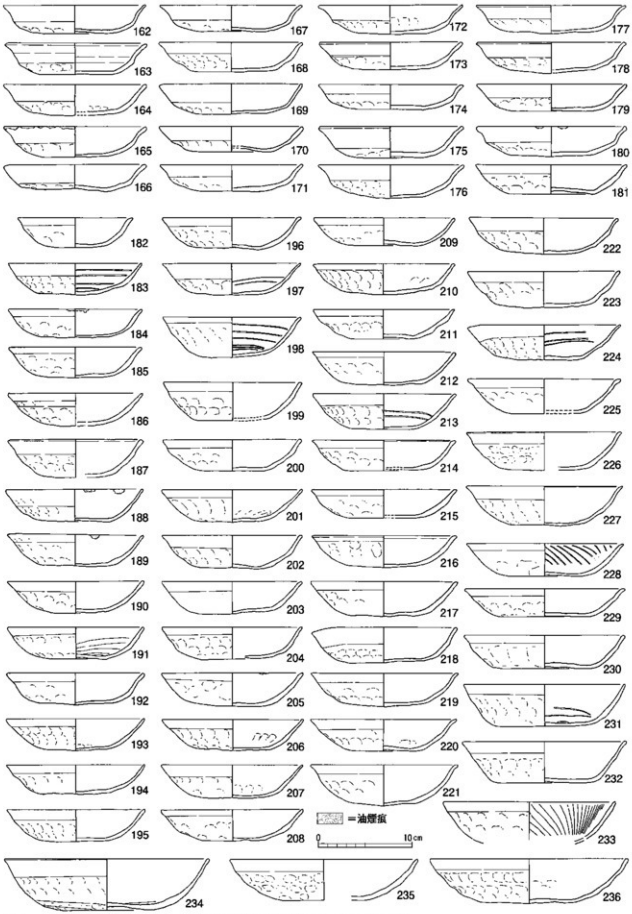
ＳＫ8842出土遺物（72～353） 一括して廃棄されたと考えられる資料である。72は土師器杯G。73～181は土師器杯A。薄手で焼き歪みしているものが多い。いずれも口縁部をヨコナデ、底部をナデ・ユビオサエで調整し、口縁部が外側へ強く屈曲するものが多く認められる。法量差は見られない。182～236は土師器椀A。口縁部のヨコナデの幅は杯Aに比べ狭く、内面に粗雑なミガキの見られるものがある。大部分が口径14～17cm内外に収まるが、口径20cm前後の大形品や12cmの小形品など規格外のものも認められる。なお杯・椀には口縁端部に油煙痕の残るものが若干ある。237～318は土師器皿A。aタイプ、bタイプのものが見られる。bタイプのものは口縁部が大きく外へ開くものと、内弯気味に立ち上がり、口縁端部に明瞭な面を持つものとに分けられるようである。法量差は見られない。319～325は土師器皿B。ハの字に開く脚部に大形のbタイプの皿がつくもので、口径は皿Aに比べ大きく、皿部の底部外面に板やヘラ状工具による調整の痕跡が残るものが多い。326・327は土師器高杯。脚部は9面に面取りされる。328～331は土師器甕A。小形のものは底部内面のケズリが省略されている。336～339は土師器壺B。口縁端部が内側へ肥厚し、端部は外傾した面をもつ。332は胴部が短小化した土師器甕C。333～335は甕Cもしくは大形の甕A。340は甑。内外面とも底部付近をケズリ調整している。341～344は灰釉陶器。341・343は椀、342は段皿、344は皿である。いずれも猿投編年K－90号窯式期のものと考えられる。345～350・352は緑釉陶器。345・346は段皿。348～350は椀。348・349は貼り付け輪高台で、底部内外面に三叉トチンの痕跡が残る。350は内面に除刻花文が施される。347は皿で、削出しの円盤高台となり、京都産のものと思われる。352は時期的に長岡京期～平安京初期までさかのぼる初期緑釉陶器の火舎。軟質焼成で、淡い黄緑色の緑釉がかかる。351は須恵器盤A。353は鉄鎌。

これらの遺物は緑釉陶器の火舎を除き、斎宮Ⅱ－3段階に相当するものである。

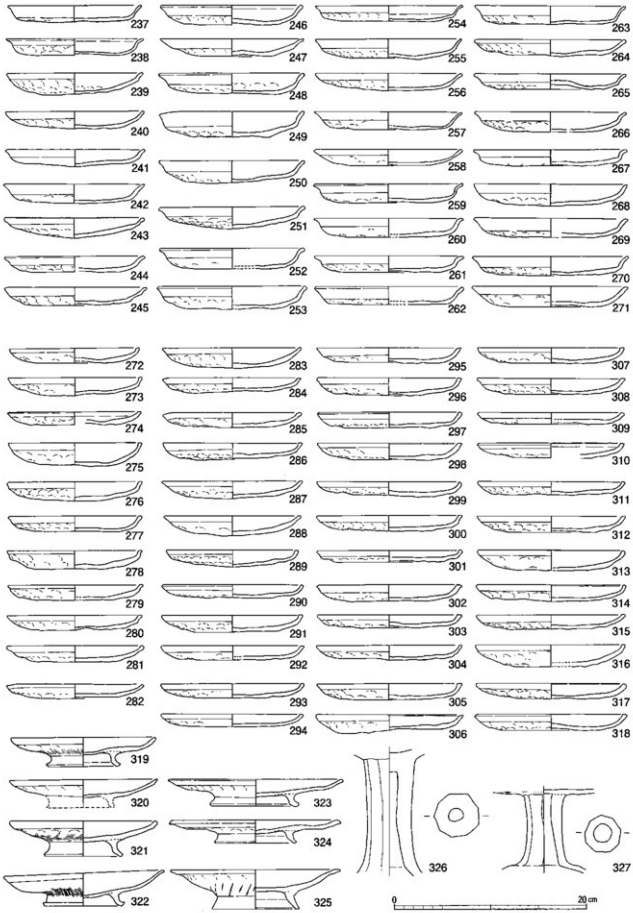
ＳＫ8851出土遺物（354～363） 354～360は土師器。354～357は杯Aで口径13cm強の小形のもの（354・355）と、15.0～16.3cmの大形のもの（356・357）に分けられる。口縁部のヨコナデが2段になるものは端部内面がやや窪む。358・359は椀A。360は大型の皿A－aタイプのもの。これら土師器供膳具は先出のＳＫ8842のものと比べ全体的に厚手の作りとなっている。361・362は灰釉陶器の皿で、やや厚手の器壁に外方へ開く角高台を持ち、共に三叉トチンの痕跡が見られる。362は底部外面に「十」字形のヘラ記号が刻まれている。いずれも猿投編年K－14号窯式期2段階～K－90号窯式期1段階の



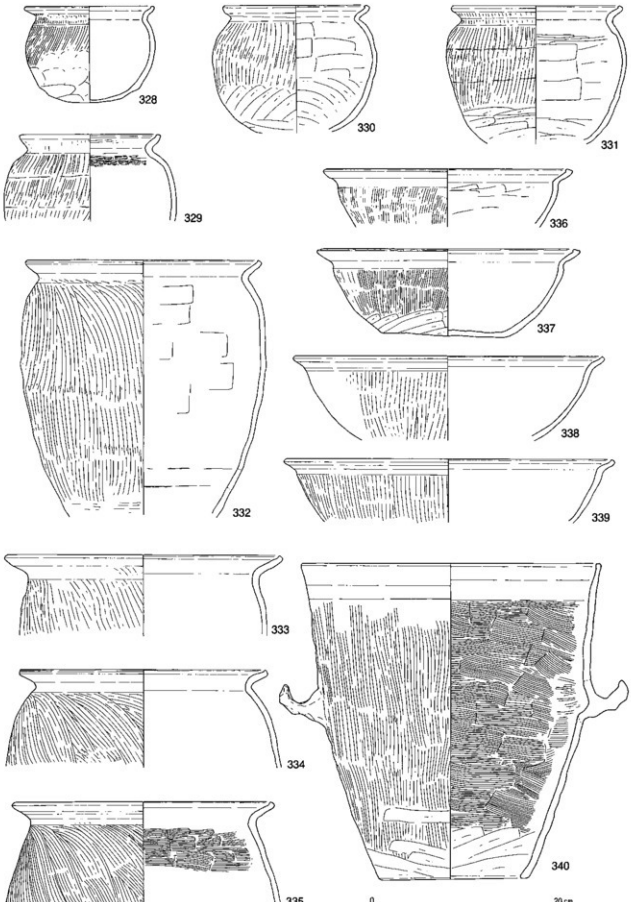
第Ⅱ－12図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（3）（1：4、SK8842 出土）



第Ⅱ－13図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（4）（1：4、SK8842 出土）



第Ⅱ－14図　第140次調査区　出土遺物実測図（5）（1：4、SK8842出土）



第Ⅱ－15図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（6）（1：4、SK8842 出土）

ものであろう。363は平坦な底部に直線的に立ち上がる口縁部を持つ須恵器杯A。

これらの遺物は斎宮Ⅱ－3段階古相の時期に相当すると考えられる。

ＳＫ8852出土遺物（364～366） 364は回転台土師器の台付小皿。台形状のいわゆる「柱状高台」部分は裾広がりとなり、扁平な小皿が付く。366は土師器杯。胎土は黄白色で、口縁端部が外側へ屈曲され鈍い面を有する。以上2点は斎宮Ⅲ－2段階に比定できる。365は陶器小椀。無高台で底部外面の糸切り痕が明瞭に残る。

ＳＤ8837出土遺物（367） 器高が2.5cmと低いが、口縁部外面のヨコナデが2段になる杯A。口縁端部内面は強いヨコナデによりやや窪む。厚手の器壁に外反度の弱い口縁形状は斎宮Ⅱ－1段階のなかでも古い要素をもつものであろうか。

ＳＤ8840出土遺物（368～372） 全て土師器である。368～370は杯A。いずれも口縁部のヨコナデが2段となる。371はⅢAのbタイプ。372は甕Aで体部外面をタテハケメ、内面をナデ調整している。

これらの遺物は概ね斎宮Ⅱ－3段階に相当すると考えられる。

ＳＢ8855出土遺物（373～378） いずれも土師器。373・374は椀A。374は狭い底部に外上方へまっすぐ広がる口縁部を持つ。376はⅢAのbタイプ。口縁端部に明瞭な面をもつ。375は口縁部が強く外反するⅢAのaタイプ。377は杯A。口縁部のヨコナデは幅広だが弱く、外面のユビオサエ痕が明瞭に残る。口縁端部の外反度は小さい。378は甕。口縁端部が内側に肥厚し、外傾する面を持つ。体部外面はやや粗いハケメで調整されるが、内面のヨコハケメは細かい。

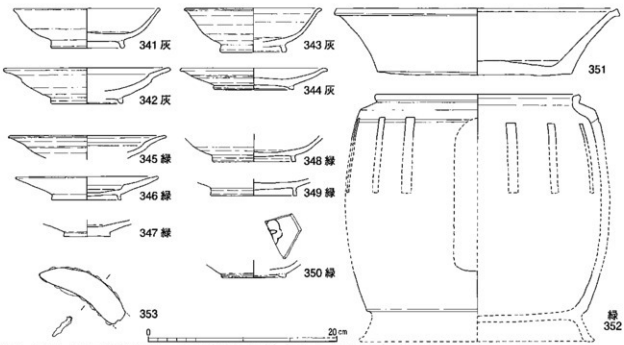
これらの土器は概ね斎宮Ⅱ－3段階に比定できる。

ＳＢ8860出土遺物（379・380） 379は土師器甕A。口縁端部が内側に肥厚しほぼ水平となる面を持つもので、体部外面をハケメ、内面をナデ仕上げされる。380は黒色土器A類。ヘラミガキは省略され内面には工具ナデによる調整痕が残り、全体的に粗雑な感をうける。また斎宮跡の黒色土器ではⅡ－4段階から一般的に見られる口縁端部内面の沈線が欠落している。

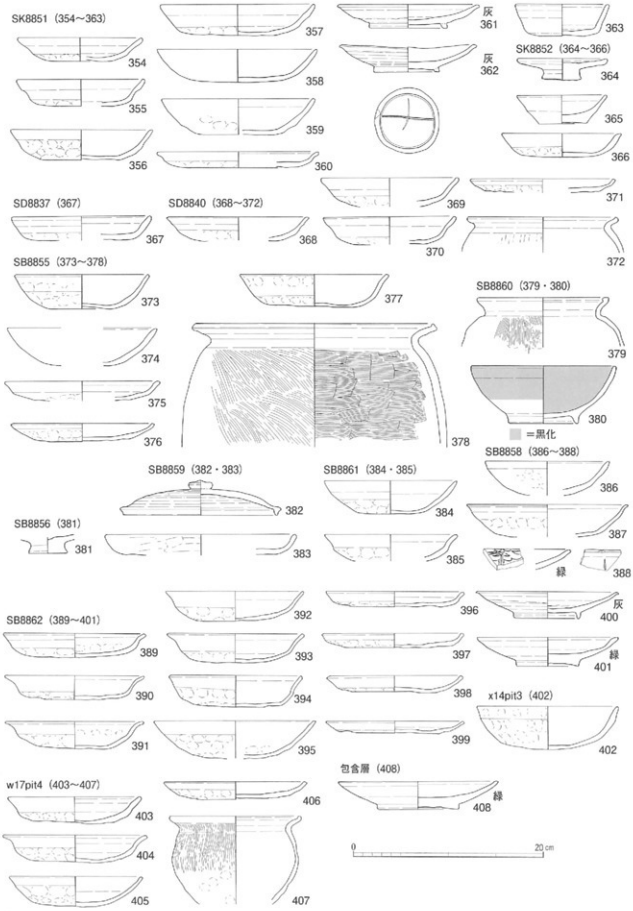
これらの土器はともに斎宮Ⅲ－2段階に相当すると考えられる。

ＳＢ8856出土遺物（381） 回転台土師器の台付小皿。高台部分は台形状を呈し、底部には糸切り痕が残る。斎宮Ⅲ－2段階に相当する。

ＳＢ8859出土遺物（382・383） 382は須恵器杯B蓋。断面三角形の口縁端部は内傾し、外側に端面を持つ。猿投編年O－10号窯式期のものであろうか。383は土師器ⅢAで口径20.1cmと大形のもの



第Ⅱ－16図　第140次調査区　出土遺物実測図（7）（1：4、SK8842出土）



第Ⅱ－17図　第１４０次調査区　出土遺物実測図（8）（1：4）

である。口縁部は緩やかに外上方へ立ち上がり、底部外面をヘラケズリ、口縁部をヨコナデするｂ手法で調整されている。斎宮Ⅰ－３～４段階に比定できると考えられる。

ＳＢ 8861 出土遺物（384・385） 384 は狭小な底部に直線的に立ち上がる長い口縁部を持つ土師器の椀Ａ。外面のユビオサエが明瞭に残る。385 は土師器杯Ａ。器壁がやや厚く口縁部の外反度が大きい。

これらの土器は概ね斎宮Ⅱ－３～４段階に相当すると考えられる。

ＳＢ 8858 出土遺物（386～388） 386・387 は土師器椀Ａ。386 は底部から口縁部にかけて緩やかに内弯しながら立ち上がり、口縁端部の狭い範囲をヨコナデされる。器壁は若干厚い。387 は口径 16.9cm と大形で、器壁が薄く口縁端部は強くヨコナデされ外反する。これらは斎宮Ⅱ－３段階のものと考えられる。388 は緑釉陶器の輪花皿。外面にはヘラによるキザミ目が、内面には除刻と断面三角形の粘土を貼り付けた輪花が施される。猿投窯系で９世紀後半のものであろう。

ＳＢ 8862 出土遺物（389～401） 389～399 は土師器。389～394 は杯Ａ。口縁形態はヨコナデの強弱により外反度が強いタイプ（389～391・393）とそれほど外反しないタイプ（392・394）に分けられるが、法量差は見られない。395 は椀Ａ。396・397 は皿Ａのａタイプ、398・399 はｂタイプとなる。これらの土師器供膳具は斎宮Ⅱ－３段階に比定できる。400 は灰釉陶器皿。薄手の皿にやや幅広でくずれた三日月高台が付く。猿投編年Ｋ－90 号窯式期のものであろう。401 は京都産の緑釉陶器皿。口縁部は体部中ほどで僅かに内側へ屈曲し、端部内面は肥厚する。斎宮Ⅱ－３段階のものと思われる。

ピット出土遺物（402～407） 402 は土師器杯Ｇ。丸い底部から口縁部が大きく内弯して立ち上がり、口縁端部がヨコナデされる。斎宮Ⅰ期に相当するものであろう。403～407 は同一ピット出土遺物である。403・404 は土師器杯Ａ。405 は土師器椀Ａ。406 は土師器皿Ａのｂタイプ。いずれも斎宮Ⅱ－３段階に比定できる。407 は小形の土師器甕Ａ。口縁端部内面がやや肥厚する。斎宮Ⅱ－２～３段階のものであろう。

包含層出土遺物（408） ＳＫ 8842 直上で出土しており、本来はＳＫ 8842 に伴う可能性が大きい緑釉陶器皿である。素地は硬質で赤紫色、釉は濃緑色を呈する。高台は削り出しの蛇の目高台となる京都産のもので、斎宮Ⅱ－３段階に比定できる。（才本　薫）

次数	地区	グリッド	遺構・層名	緑釉破片数	備考
140	Ｓ 10	v11	表土	1	
140	Ｓ 10	v13	pit10	1	
140	Ｓ 10	v14	表土	1	
140	Ｓ 10	v15	pit1	1	
140	Ｓ 10	v16	SB8860	1	
140	Ｓ 10	v18	SD8840	1	
140	Ｓ 10	v18	SK8842	22	（第Ⅱ－16 図 345～350・352）
140	Ｓ 10	v18	包含層	3	内１点は図示（第Ⅱ－17 図 408）
140	Ｓ 10	w15	SD8839	1	
140	Ｓ 10	w17	pit4	1	除刻花文あり
140	Ｓ 10	w17	包含層	1	皿の見込み部分に除刻花文あり
140	Ｓ 10	w18	SB8861	1	
140	Ｓ 10	w19	pit8	1	
140	Ｓ 10	w19	SB8862	1	（第Ⅱ－17 図 401）
140	Ｓ 10	y12	SB8854	1	
140	Ｓ 10	y14	撹乱	1	
140	Ｓ 10	y17	撹乱	4	
140	Ｓ 10	y17	SB8858	1	（第Ⅱ－17 図 388）
140	Ｓ 10	y17	包含層	1	

第Ⅱ－１表　第１４０次調査区緑釉陶器出土地点・破片数一覧

５　まとめと検討

（１）掘立柱建物群の変遷について

今回の調査で確認された掘立柱建物は 11 棟で、柱掘形の重複や建物方位、そして出土遺物を参考にして、所属時期の不明なものを除き、おおむね建物群として以下の５時期の変遷を考えることができる。

第１期　SB8853・SB8854 が相当し、ほぼ座標方向に近いＮ１°Ｗ偏の建物方位をもつ南北方向の建物群で、建物規模は梁行２間で、桁行が５間のものと４間のものがある。

柱掘形の重複関係からするともっとも古く位置づけられるもので、奈良時代末期～平安時代初期のⅠ－４～Ⅱ－１段階に相当する可能性が高い。

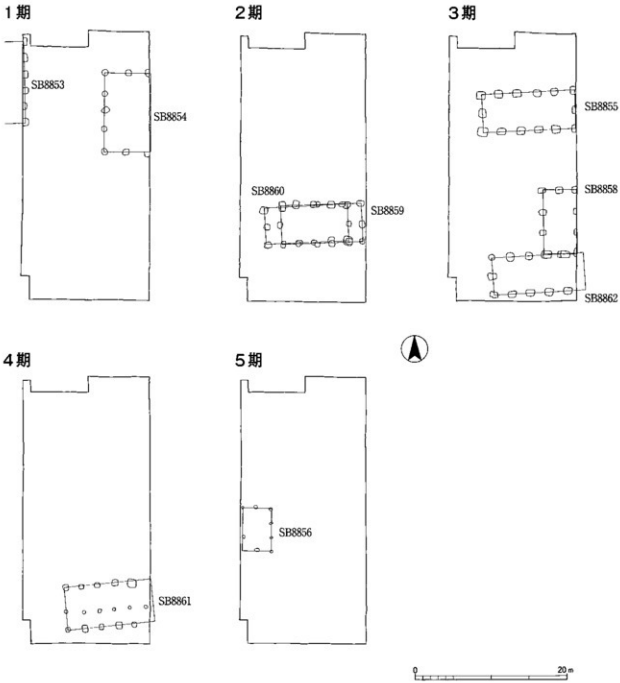
第２期　SB8859・SB8860 が相当し、座標北から３°Ｗ偏方向に建物の主軸をおくもので、５間×２間の東西方向建物である。平安時代前期前葉のⅡ－１段階頃に建てられた可能性が高い。SB8860 は重複関係から SB8859 より新しい。ただし柱穴柱痕と思

われるピットの埋土上面からⅢ－２段階の黒色土器椀などが出土しており、これがSB8860の下限を示すものだとすれば平安時代後期まで下る可能性をもつことになる。

しかしながら、柱掘形は方形で大きく、建物方位はSB8859とほぼ同じで、しかも後述するが第136次調査区等で確認されているように、西加座南区画の平安時代前期の建物群と同一規格の建物となることから、この時期の建物として認識しておきたい。

第３期　SB8855・SB8862が相当し、Ｎ３～４°Ｗ偏する建物の主軸をおく５間×２間の東西方向の建物群で、ほぼ同じ大きさの建物が南北に並ぶ。Ⅱ－３段階に相当し、平安時代前期中～後葉にあたる。

なお、SB8858も柱穴内の遺物からすると当該期に属する可能性が高い。３間×２間の南北建物で、方位はＮ１°Ｗ偏の主軸をとり、SB8855・8862とは方位も建物規模も異なる。この建物は、柱抜き取り痕に焼土を多く含むなど、火災を被った可能性



第Ⅱ－18図　第１４０次調査区　建物変遷図（1：500）

があり、重複関係からするとSB8862より古く位置づけられる。

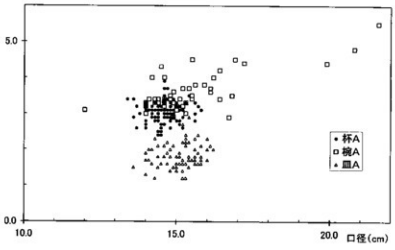
第４期　SB8861が相当し、Ｎ５°Ｗ偏に主軸をおく５間×２間の東西方向の建物で、束柱を伴う。Ⅱ－３～４段階の平安時代前期後葉～中期前葉にあたる。

第５期　SB8856が相当し、Ｎ１°Ｗ偏と、建物主軸が再び座標北に近くなる。３間×２間の南北建物で、柱掘形が以前のものと比べ、円形で小さくなる。Ⅲ－１段階以降のものと思われ、平安時代後期にあたる。

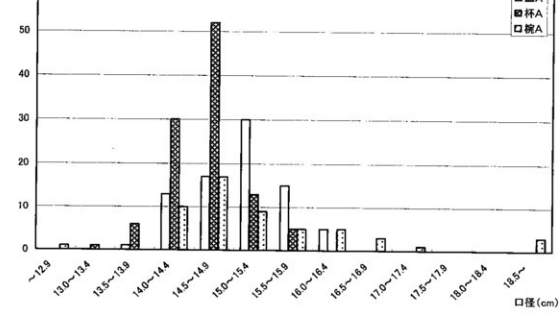
SB8857については、遺構の重複関係から第２期のSB8859より新しい建物であるが、出土遺物に乏しく、時期比定が困難である。柱掘形が円形でやや小さくなることから、平安中期以降に下る可能性がある。

種別	形態	計測数値 (1/12=1)	個体数 (個)	土師器 機種別比率	比率
土師器	供膳	4952.8	412.7	96.99%	
	(ロクロ)	0.0	0.0	0.00%	
	貯蔵	0.0	0.0	0.00%	
	煮沸	134.8	11.2	2.64%	
	祭祀	19.0	1.6	0.37%	
	その他	0.0	0.0	0.00%	
	小計	5106.6	425.5	100%	97.12%
黒色土器	供膳	2.0	0.2		
	貯蔵	4.5	0.4		
	小計	6.5	0.6		0.12%
須恵器	供膳	10.0	0.8		
	貯蔵	6.0	0.5		
	その他	2.0	0.2		
	小計	18.0	1.5		0.34%
灰釉陶器	供膳	81.5	6.8		
	貯蔵	5.2	0.4		
	その他	0.0	0.0		
	小計	86.7	7.2		1.65%
緑釉陶器	供膳	39.5	3.3		
	貯蔵	0.0	0.0		
	その他	1.0	0.1		
	小計	40.5	3.4		0.77%
製塩土器		0.0	0.0		0.00%
土錘		0.0	0.0		0.00%
総計		5258.3	438.2		100%

第Ⅱ－２表　第１４０次調査区
ＳＫ８８４２出土土器組成表



第Ⅱ－19図　第１４０次調査区　ＳＫ８８４２土師器供膳具法量散布図



第Ⅱ－20図　第１４０次調査区　ＳＫ８８４２土師器供膳具口径分布図

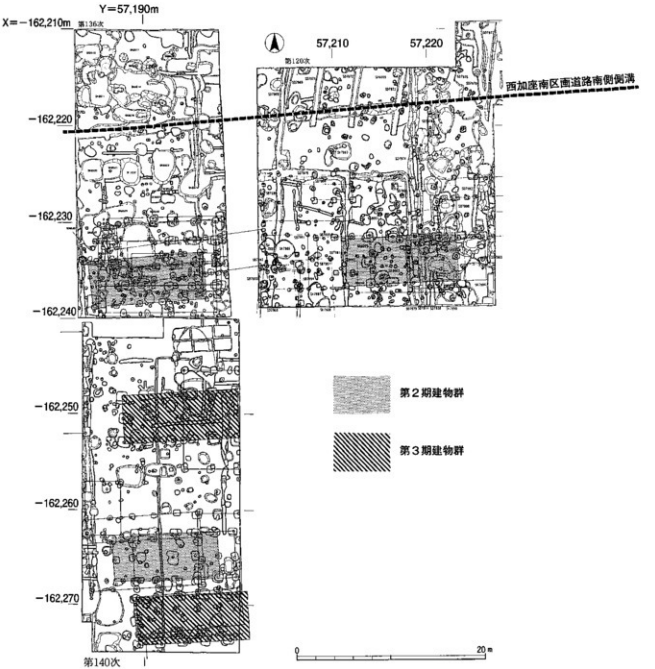
(2) 土坑 SK8842 出土土器について

土坑 SK8842 から多量の土器類が出土したが、そのうちの 97%は土師器で、さらにその 97%程度が杯・皿・椀などの供膳形態のものである。

この一括の土器群は、斎宮跡の土器編年でいう第Ⅱ期第３段階として捉えられるもので、この段階の土師器供膳具は、法量の規格化が進み法量分化が明瞭でなくなるとともに、次第に杯Ａ・椀Ａの形態上の差も不分明となっていく傾向にある。

ＳＫ 8842 出土の土師器の供膳具もそれぞれの法量がきわめて近似し、杯Ａと椀Ａの区別も形態を一見するだけでは区別し難いものが含まれるが、口縁部と底部の境や底径の大きさなどの形態上の特徴に加え、杯Ａでは椀Ａと比べ口縁部のヨコナデの範囲が広いなどの手法上の特徴から区別が可能である。また、椀Ａの一部には内面にごく粗いヘラミガキが施されているものがみられ、口径 20cm 以上の大形のものがある。

杯Ａは口径 14 ～ 15cm、器高３cm 前後、皿Ａについても口径 15cm 前後、器高２cm 弱が最も集



第Ⅱ－21図　第１４０次調査区　西加座南区画東半北部建物群配置図（1：400）

中する。椀Aについても杯Aと近似する。これはⅡ－3段階の基準資料となっているSK7430出土資料と比べてもほぼ同じ傾向にある。

施釉陶器は、K－90号窯式のものが主体であるが、緑釉陶器のうち円盤状高台となる皿（347）は京都産とされるものである。また、特筆すべきものに緑釉陶器の火舎（352）がある。これは喫茶の風習と関連させるなど、椀・皿などの供膳具に緑釉が用いられる以前の特殊な用途で製作されたものとされる。

これまで火舎などの初期の緑釉陶器は、斎宮跡では同じ西加座区画の86次調査区からも出土しているが、奈良時代末～平安時代初期に京都洛北で生産されたもので、今回の場合小破片のみの出土だが、50年近く伝世されて後、廃棄されたことになる。

（3）西加座南区画の課題について

昨年度に引き続き西加座南区画の調査を実施し、方格地割内の建物配置が次第に明らかとなりつつある。

西加座南区画は、区画内を中央道路によって東西に分断されることが判明しており、方格地割施工直後の状況として、西半区画には東西140尺、南北120尺の掘立柱塀に囲まれた祭殿風の建物があり、140次調査地のある東半区画には、西加座南区画の北側にあたる西加座北区画と同様、東西方向の建物がある時期に東西二棟並びで整然と配置されている可能性を考えた。今回の調査で確認された SB8860はまさにこれに合致する配置となることが判明した。第136次調査で確認された SB8543の南側柱列と SB8860の北側柱列との距離は2,430cmほどで、尺度でいえば81尺にほぼ相当することとなる。

平安時代前期前葉での建物の規格は明らかとなりつつある。しかしながら、西加座南区画全体の建物がどのような変遷を経ていくのかまでは、現時点では把握しきれていない。

また、西加座北区画の場合、整然とした建物群を側柱倉庫群と捉え、斎宮寮の寮庫に当てているが、同じような建物配置をとる西加座南区画東半区画を、これと異なる性格のものと考えるか否かは判断できていない。

建物方位は、ほぼ座標方向に沿うものと、N 4°W前後偏るものとに大別できる。第136次調査もこれとほぼ同様の結果を得ている。これに対し、斎宮の遺構変遷を考える上で重要な指標となる斎宮の

遺構名	遺構の種類	地区	グリッド	時期（斎宮編年）	出土遺物	遺構の性格・重複関係
SD8836	溝	S10	y11～16	平安～	土師器（杯・皿・盞・椀・甕）、須恵器（杯蓋・杯身・壺・甕）	SK8846・SH8845より新。
SD8837	溝	S10	y11	平安前期～	土師器（杯・皿・甕）	SH8845より新。
SD8838	溝	S10	v12,w12,x12,y12	平安前期	土師器（杯・皿・甕）	SK8846より新。
SD8839	溝	S10	w12～19 x18・19	平安～	土師器（杯皿類）、須恵器（甕）、緑釉陶器	SB8862・SK8844より新。
SD8840	溝	S10	u11～19 v12～19	平安～	土師器（杯・高杯・蓋・甕）、黒色土器A類（杯）、須恵器（杯蓋・壺・甕）、灰釉陶器（椀・段皿）、製塩土器	SB8853・SB8856・SB8857・SK8842・SK8851より新。
SD8841	溝	S10	v11・12	平安？	土師器（杯皿類・甕）、灰釉陶器？	
SK8842	土坑	S10	v18・19	平安前期（Ⅱ-3）	土師器（杯・皿・台付皿・高杯・甕・壺・椀）、須恵器（鉢・壺・甕）、緑釉陶器（椀・皿・段皿・壺）、灰釉陶器（椀・段皿）	SB8857より古。SK8851との関係不明。
SK8843	土坑	S10	v14・15、w14・15	奈良後期（Ⅰ-3）	土師器（杯・皿・椀・甕・鍋）、須恵器（壺・甕）	SB8856より古。
SK8844	土坑	S10	w14・15、x14・15	奈良後期？	土師器（杯皿類・壺・甕）	
SH8845	竪穴状遺構	S10	x11・y11	奈良後期（Ⅱ-1以前）	土師器（杯・皿・椀・高杯・鉢・壺E・甕・把手甕・長頸壺）土器）、須恵器（杯身・鉢・壺・甕）、土錘	SK8846より新。
SK8846	土坑	S10	x11・12 y11・12	奈良後期（Ⅰ-4）	土師器（杯・杯B・皿・椀・蓋・壺E・甕・把手甕・長頸甕）、黒色土器A類、須恵器（杯蓋・杯身・壺・甕）、土錘	未掘（検出のみ）
SD8847	溝	S10	w13,x13,y13	平安～	土師器（杯・甕）、須恵器（杯蓋・杯身・壺）	
SD8848	溝	S10	y12		土師器（杯皿類・甕）、黒色土器A類、須恵器（甕）、近世陶磁器類	
SD8849	溝	S10	y12	平安～	土師器（杯皿類・甕）	
SE8850	井戸	S10	x12・13 y12・13	奈良後期（Ⅱ-1以前）	土師器（杯・皿・椀・高杯・蓋・鉢・壺E・甕・ミ甕）、須恵器（杯蓋・杯身・高杯・皿・壺・甕）、製塩土器	方形掘形の井戸、上層検出のみ。SK8846より新。
SK8851	土坑	S10	u17・18 v17・18	平安後期（Ⅱ-2・3）	土師器（杯・皿・高杯・蓋・甕）、黒色土器A類、須恵器（杯身・高杯・甕）、灰釉陶器（椀・皿）、製塩土器	
SK8852	土坑	S10	x13・14	平安後期（Ⅱ-2・3）	土師器（鉢・台付椀・甕・ロクロ台付皿）、陶器（小椀）、灰釉陶器（椀）、土錘	土壙墓 SB8854・SB8855より新。

第Ⅱ－3表　第140次調査区遺構一覧表

度会郡への16年間にわたる移転期間は、斎宮の土器編年ではⅡ－２段階のうちと考えている。

したがって第136次調査では建物方位の変化と関連させ、Ⅱ－２段階からⅡ－３段階にかけての時期に建物配置に大きな変動があった可能性を考えたわけであるが、第136次調査でみた建物方位が４°前後西偏する方向から座標方向へという変化は、今回は当てはまらない結果となり、再考の必要が生じた。

また今回の調査結果では、Ⅱ－３段階にあたる第３期でもSB8855とSB8862の２棟が、建物方位や規模、柱掘形の大きさ、梁行の柱揃いなど、ほぼ規格的といってよいものであり、これに先行するSB8858を雛型建物とみなと、この時期に西加座区画で火災等が原因で数棟単位の官舎の建て替えがあった可能性を示唆するものである。

なお、この時期に相当する斎宮の火災としては、「日本三代実録」貞観９（867）年の条に斎宮寮の官舎12棟の焼失記事があるが、それとの関係は今後の付近の調査の課題とし、即断は避けたい。

今回の調査区のなかでは、平安時代前期を通じて、とくに他より規模の大きい中心的な建物となるようなものは確認できず、やはり西加座南区画東半区画は、等質的な建物群からなる状況が確かめられた結果となった。　（竹内英昭・才木　薫）

<註>

(1) 駒田利治・泉雄二・倉田直純「斎宮跡の土器」（『斎宮跡発掘調査報告』Ⅰ　斎宮歴史博物館　2001年）

(2) 古代の土器研究会編『古代の土器２　都城の土器集成Ⅱ』（1993）

(3) 齋藤孝正『越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器　日本の美術６』(2000)

遺構名	地区	グリッド	ピット番号	ピット遺物の時期	建物時期	規模 [東西間(m)×南北間(m)]	柱間 東西－南北	主軸方向	方位 (N.基準)	備考
SB8853	S10		u11	P1・P2						
			u12	P2	Ⅰ-4	＊×５　(10.7)	＊－21・22	南北	N１°W	
			v12	P9						
			v13	P3・P4						
SB8854	S10		x12	P2						
			x13	P3	Ⅰ-3～4					
			x14	P5・P8						
			y12	P1・P5	P1: Ⅰ-3～4					
			y14	P3・P7						
SB8855	S10		v13	P6・P9	P9:Ⅱ-3					SB8850・SB8854より新しい。
			w13	P7						
			w14	P2・P3						
			x13	P1・P5						
			x14	P7・P10						
			y12	P3・P4	Ⅱ-3	５（12.1）×２　(5.0)	2.4－2.4	東西	N３°W	
			y13	P3						
			y14	P4・P6						
SB8856	S10		u15	P1						
			v15	P2・P6・P7	Ⅲ-2	５（3.7）×３　(5.6)	1.9－1.9	南北	N１°W	SK8843より新しい。
			v16	P4・P7・P8	P4:柱痕跡・Ⅲ-2					
SB8857	S10		v16	P9						北廂庇建物。SB8858・SB8859・SB8860より新しい。
			v18	P3						
			w16	P1・P2・P6		５（11.8）×２　(5.2) 庇　(7.8)	2.3・2.4－2.5・庇2.6	東西	N４°W	
			w18	P2・P11						
			x16	P3・P7						
			y17	P10						
SB8858	S10		x16	P1・P4	P4:Ⅱ-1～3					柱抜取り痕あり。焼土含む。
			y16	P5						
			x17	P6	Ⅱ-3	２（4.5）×３　(8.6)	2.2・2.3－2.8・2.9	南北	N１°W	
			y17	P5	Ⅱ-2・3					
			v18	P8・P9						
SB8859	S10		w17	P6・P7・P10						
			x16	P2・P4						
			x17	P1・P7	Ⅱ-1	５（10.7）×２　(5.0)	1.9・2.0・2.1－2.4・2.5・2.6	東西	N３°W	
			y16	P5・P7	P5:Ⅱ-1					
			y17	P2・P4	P2:柱痕跡・Ⅱ-1					
SB8860	S10		y16	P5	Ⅲ-2					
			y17	P2・P4	P2:柱痕跡・Ⅲ-2	Ⅱ-1	５（10.8）×２　(4.6)	2.1・2.2－2.3	東西	N３°W	SB8858・SB8860より新しい。
			x17	P4						
			y17	P1・P11						
SB8861	S10		w18	P5・P6・P13						SB8862より新しい。
			w19	P1・P2						
			x18	P2・P5	Ⅱ-3～4	５（11.2）×２　(4.0)	2.1・2.2・2.3－2.0	東西	N５°W	
			x19	P2	Ⅱ-3・4					
			y18	P1・P7・P11	P1:Ⅱ-3					
			y19	P4・P6	P4:Ⅱ-4,P6:Ⅱ-2～3					
SB8862	S10		w18	P5・P8・P9						SB8858より新しい。
			w19	P9・P14						
			x18	P1	Ⅱ-3	５（11）＋×２　(5.0)	2.4－2.5	東西	N４°W	
			x19	P8						
			y18	P2・P6						
			y19	P2・P5						
SB8863	S10		w19	P3						
			x19	P3・P6・P7		５（10）×＊	2.0－＊	東西	N３°W	
			y19	P1・P7						

第Ⅱ－４表　第１４０次調査区掘立柱建物一覧表

番号	遺跡名	所在地	時代 遺構	遺物	遺構	遺物	調査・採集の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	文献番号
1	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	12.6	2.6	—	外：口縁部にボケ点，口縁部直下一次？ボケ 内：口縁部にボケ点，体部に連続ボケ？	ウンモを多く含む	良好	浅黄橙 10YR3/4	3/12		046-08
2	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	12.7	—	—	外：口縁部直下に一次ボケ？，体部ボケ一次？ボケ 内：口縁部にボケ点，体部ボケ一次？	赤色粒状少量，雲母，ウンモを多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	2/12		049-04
3	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	14.0	2.9	—	外：口縁部にボケ，体部ボケ 内：口縁部にボケ，体部ボケ	赤色粒状，白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		049-03
4	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	13.7	3.2	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ一次？ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ一次？ボケ	赤色粒状少量含む	良好	赤橙 2.5YR7/6	10/12		045-04
5	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	13.8	2.9	—	外：口縁部にボケ，体部一連連続ボケ 内：口縁部連続ボケ，体部一連連続ボケ	赤色粒状少量，白色粒多く含む	良好	赤橙 2.5YR7/8	4/12		049-06
6	上福岡	埼玉	S 10 - y11 - y13 S58B0[illegible]	14.0	3.1	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ一次？ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ	白粒状・ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	9/12		046-01
7	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	14.9	3.2	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ（1本） 内：口縁部にボケ，連続ボケ	赤色粒状・ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		049-05
8	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	15.2	3.0	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ一次？ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ一次？ボケ	赤色粒状・ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	9/12		048-02
9	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	18.1	4.3	—	外：口縁部にボケ，連続一連連続ボケ一次？ボケ 内：口縁部にボケ，連続一連連続ボケ	白粒状・ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		046-07
10	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	18.0	4.0	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ	粗品	良好	橙 5YR6/8	8/12		050-01
11	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	19.1	3.8	—	外：口縁部にボケ，連続連続 内：連続	赤粒多く含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		045-02
12	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	17.4	—	—	外：ボケ多？，口縁部連続ボケ 内：ボケ	赤色粒状・ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		045-04
13	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	17.9	2.6	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ	赤粒多く含む	良好	橙 5YR7/6-8	9/12		046-11
14	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	19.0?	2.0	—	連続	白粒状多く含む	良好	赤橙 2.5YR7/8	1/12		048-05
15	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	18.5	2.1	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ一次？ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ	粗品	良好	橙 5YR6/8	2/12		048-06
16	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	19.0	2.2	—	連続	赤色粒状多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	2/12		046-03
17	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	17.8	2.1	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ 内：口縁部にボケ，連続連続	赤色粒状多く含む	良好	橙 5YR7/6	6/12		050-03
18	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	22.8?	2.8	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ？ 内：口縁部にボケ，連続ボケ	赤色粒状多く，雲母多く含む	良好	橙 5YR6/8	1/12	最想的に1/4の推測	047-03
19	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	—	—	高台径 14.6?	高台径内：無連続ボケ，底部連続ボケ？（反時計回り），高台内面：ボケ 外：ボケ	白色粒多く含む	良好	外：橙 10R6/6 内：明黄 2.5Y7/	高台 2/12		047-04
20	堀越遺	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	7.6	9.1	底部 4.0	外：口縁部一連連続ボケ，体部下1/4 回転ボケ？（反時計回り），底部連続連続ボケ 内：回転ボケ	白色粒多く含む	無	橙 2.5YR6/8	口縁部 2/12 底部完存		047-05
21	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	底 5.5 体 4.1	厚 0.5 厚 0.4	厚 0.4 厚 0.4	底部：白粒多く含む 体部：白粒多く含む	白粒状多く含む	良好	浅黄 2.5Y8/4	完存		048-04
22	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	底 5.1 体 4.1	厚 0.4 厚 0.4	厚 0.4 厚 0.4	底部：白粒多く含む 体部：白粒多く含む	白粒状少量含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	完存		048-03
23	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	18.2	—	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ（円的な形状） 内：口縁部にボケ，全体上半無紋上段ボケ，下半ボケ（1）？	赤粒・ウンモを多く含む	良好	赤橙：10YR7/4	4/12	外面：表裏共に下半部、剥落	047-01
24	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	17.1	—	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ 内：口縁部にボケ，体部上下無紋上段ボケ，下半ボケ（1）のみ？	赤粒・ウンモを多く含む	良好	C.L.R.=黄橙 10YR7/4	1/12	外面：表裏共に下半部、口縁部2箇所一連連続ボケ有	045-03
25	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	20.2	—	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ？（2/3ボケ，下1/3ボケ） 内：口縁部にボケ，連続ボケ？（2/3ボケ，下半ボケ）	赤粒多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	2/12		049-02
26	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	16.8	—	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ	赤粒多く含む	良好	明黄橙 10YR7/6	底部完存 口縁部 1/12	外面：表裏共により著変	045-01
27	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	18.8	—	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ（円的な形状） 内：口縁部にボケ，連続ボケ，体部上半無紋上段ボケ，下半ボケ（1）	白色粒多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	2/12	口縁部内面一部表，裏面共により著変部分有，剥落有	045-02
28	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	23.6	—	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ（円的な形状） 内：口縁部にボケ，連続ボケ	赤粒・ウンモを多く含む	良好	明黄橙 10YR7/6	2/12		049-01
29	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	27.7	—	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ	赤粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	3/12		047-02
30	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	22.6	—	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ，連続一体部上半無紋，体部下半ボケ？	赤色粒状少量含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		050-02
31	上福岡	埼玉	S 10 - y11 S58B0[illegible]	23.3	24.2	16.9	外：口縁部連続ボケ，体部ボケ？上下1/3ボケ？ 内：口縁部にボケ，連続ボケ？上下1/3ボケ？	赤粒多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	口縁部完存 胴部下半 1/2		043-01
32	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	16.2	3.6	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ	白粒・ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	5/12		036-06
33	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	16.4	3.6	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ一次？ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ	白粒・ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	5/12		038-02
34	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	18.5	—	—	外：口縁部にボケ，連続一連連続ボケ一次？ボケ 内：口縁部にボケ，連続連続	赤色粒状多く，ウンモを多く含む	良好	明黄橙 10YR7/6	2/12		036-04
35	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	15.9	—	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ一次？ボケ 内：口縁部にボケ，体部連続結節紋	白粒多く含む	良好	橙 2.5YR6/8	2/12	外面に煤付着	036-02
36	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	17.0	4.5	—	外：口縁部にボケ，連続一連連続ボケ一次？ボケ 内：ボケ，ボケ？，ボケ？	白粒・ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		036-03
37	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	15.9	3.6	—	外：口縁部にボケ，連続一連連続ボケ一次？ボケ 内：口縁部にボケ，連続一連連続結節紋・2-2段構造結節紋	赤色粒状多量，ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	5/12		038-01
38	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	16.4	2.5	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ？ 内：連続	赤色粒状・ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		036-05
39	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	18.1	2.2	—	外：口縁部にボケ，連続ボケ 内：口縁部にボケ，連続ボケ	赤色粒多く，白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/8	3/12		038-03
40	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	13.6?	—	—	外：口縁部にボケ，体部ボケ？ 内：口縁部一連連ボケ？	白粒状・ウンモを多く含む	良好	浅黄橙 2.5YR8/4	5/12	口縁部外面に煤付着	036-01
41	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	—	胴 8.7 底 6.2	胴 8.7 底 6.2	胴部：ボケ？ 底部：ボケ？	白粒多く含む	良好	橙 7.5YR6/6	9/12		039-04
42	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	24.6	—	—	外：口縁部ボケ，胴部ボケ？，底部ボケ？ 内：口縁部ボケ，体部上半ボケ？	白粒多く含む	良好	黄橙 10YR8/6	4/12		037-01
43	金城鳥山	静岡	S 10 - y12 S58B0[illegible]	底 5. 115	厚 0. 1.0	厚 0. 58					完存		043-02
44	上福岡	埼玉	S 10 - y12 - 13 S58B0[illegible]	11.0	2.2	—	外：口縁部ボケ，連続ボケ 内：口縁部ボケ，連続ボケ	粗品	良好	橙 5YR6/8	3/12		042-09
45	上福岡	埼玉	S 10 - y12 - 13 S58B0[illegible]	14.0	2.2	—	外：口縁部ボケ，連続ボケ，ボケ 1? 内：口縁部ボケ，連続ボケ	赤色粒状・ウンモを多く含む	良好	赤橙 7.5YR7/6	2/12		041-03
46	上福岡	埼玉	S 10 - y12 - 13 S58B0[illegible]	13.6	3.4	—	外：口縁部ボケ，連続一連連ボケ？ 内：口縁部ボケ，連続一連連ボケ	赤色粒状・白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		042-01
47	上福岡	埼玉	S 10 - y12 - 13 S58B0[illegible]	13.9	3.1	—	外：口縁部ボケ，連続ボケ 内：口縁部ボケ，連続ボケ	粗品 ウンモを多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12		041-04
48	上福岡	埼玉	S 10 - y12 - 13 S58B0[illegible]	14.0	2.9	—	外：口縁部ボケ，連続一連連ボケ一次？ボケ 内：口縁部ボケ，連続一連連ボケ	白色粒状少量，ウンモを多く含む	良好	橙 7.5YR6/8	1/12		039-07
49	上福岡	埼玉	S 10 - y12 - 13 S58B0[illegible]	15.6	3.7	—	外：口縁部ボケ，連続ボケ 内：ボケ	赤色粒状・白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/8	5/12		041-05
50	上福岡	埼玉	S 10 - y12 - 13 S58B0[illegible]	13.4	3.6	—	外：口縁部ボケ，連続一連連ボケ一次？ボケ 内：口縁部ボケ，連続一連連ボケ	赤色粒状・ウンモを多く含む	良好	明黄橙 10YR7/6	6/12	口縁部内面2箇所剥落 一部に煤付着	042-02
51	上福岡	埼玉	S 10 - y12 - 13 S58B0[illegible]	12.0	2.7	—	外：口縁部ボケ，連続一連連ボケ 内：口縁部ボケ，連続一連連ボケ	赤色粒状・白色粒多く含む	良好	赤橙 7.5YR7/8	2/12		041-07
52	上福岡	埼玉	S 10 - y12 - 13 S58B0[illegible]	12.5	3.5	—	外：口縁部ボケ，連続一連連ボケ一次？ボケ 内：口縁部ボケ，連続連続	赤粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	1/12		042-03
53	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	12.9	2.3	—	外：全体的に摩滅著しい 内：ボケ	赤粒多く，ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		041-06
54	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	12.4	3.6	—	外：口縁部ボケ，連続一連連ボケ一次？ボケ 内：口縁部ボケ，連続一連連連続	赤色粒状・白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		041-08
55	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	16.6	—	—	外：口縁部ボケ，連続ボケ 内：口縁部ボケ，連続ボケ	白粒多く含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		042-04
56	上福岡	埼玉	S 10 - y12 - 13 S58B0[illegible]	16.2	2.3	—	外：口縁部ボケ，連続ボケ，ボケ 1? 内：口縁部ボケ，連続ボケ	赤粒多く，ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		042-05
57	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	16.5	2.1	—	外：口縁部ボケ，連続ボケ 内：口縁部ボケ，連続連続	赤粒多く，白色粒多く含む	良好	赤橙 7.5YR7/6	4/12		039-05
58	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	17.9	1.6	—	外：口縁部ボケ，連続ボケ（円的な形） 内：口縁部ボケ，連続ボケ	白粒多く含む	良好	橙 5YR6/8	6/12		039-06
59	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	21.9	2.5	—	外：口縁部ボケ，連続ボケ？ 内：口縁部ボケ，連続ボケ？	白色粒多く，ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	1/12		047-06
60	上福岡	埼玉	S 10 - y12 S58B0[illegible]	18.1	—	—	外：口縁部ボケ，不明連続？ 内：口縁部ボケ，不明連続？	赤色粒状・ウンモを多く含む	良好	橙 5YR6/8	1/12		042-07

第Ⅱ－5表　第140次調査区出土遺物観察表（1）

番号	出土遺構		遺物	法量				調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
	区	種類	器種	口径	器高	底径	(cm) その他							
61	土師器	鉢	S 10 ~ x12 · 13 SX8606	12.0	—	—		外：口縁部横ナデ，体部ヘラ 内：口縁部横ナデ，体部ナデ	赤色粒多く白色粒多く黒色粒少し	良好	橙 7.5YR7/6	4/12		041-01
62	土師器	壺E	S 10 ~ x12 · 13 SX8606	—	—	高台径9.0	高台高0.7	外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，高台ヨコナデ 内：口縁部ヨコナデ，体部ナデ	赤色粒多く白色粒少し	良好	橙 5YR6/8	高台分12		042-10
63	土師器	壺E	S 10 ~ x12 SX8606	7.0	—	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ナデ 内：ナデ	赤色粒多く白色粒少し	良好	橙 5YR6/8	2/12	粘土紐積み上げ後内面ナデ調整	043-02
64	掘立士器		S 10 ~ x12 · 13 SX8606	—	—	—		外：ナデ ガラ 内：ナデ	白粒多く，ウンモ多く黒色粒少	良好	橙 5YR6/8	小片	赤褐式須恵器	041-04
65	土師器	鉢A	S 10 ~ y12 SX8606	24.0	10.4	10.0		外：口縁部横ナデ，体部下1/3ヘラケズり 内：口縁部横ナデ，体部ヨコナデ，底部ナデ	白粒多く黒色粒少し	良好	橙 5YR6/6	9/12		044-01
66	縄文器	粗B深鉢	S 10 ~ x12 SX8606	14.1	—	—		外：天目釜，2段横ケズリ 内：ナデ	白粒多く含む	良好	N N6/	2/12		039-03
67	須恵器	鉢A	S 10 ~ x12 SX8606	14.0	2.0	12.0		外：口縁部横ナデ，底部ナデ 内：回転ナデ	白粒多く含む	良好	灰白 5Y7/1	口縁部1/12 底部3/12		039-02
68	須恵器	甕B	S 10 ~ x12 SX8606	—	—	10.0		外：体部横ナデ，底部回転ケズり，高台ヨコナデ 内：ヨコナデ	白粒多く含む	良好	N N6/	7/12		039-01
69	須恵器	壺A	S 10 ~ x12 SX8606 S 10 ~ x12 · 13 SX8606	23.0	—	—		外・内：口縁部回転ナデ	白粒多く含む	良好	N 5Y5/1	4/12		037-02
70	須恵器	盾	S 10 ~ x12 SX8606	21.0	—	—		外：内：回転ナデ	白粒多く含む	良好	外：褐灰 10YR5/1 内：灰 5Y6/1	1/12	口縁端に自然釉付着	038-04
71	須恵器	鉢B	S 10 ~ y13 SX8606	45.4	—	—		外：口縁部回転ナデ，体部ケズり後ナデ調整 内：口縁部回転ナデ，体部ヨコナデ，底部ナデ	白粒多く含む	良好	N 7.5Y6/1	1/12		040-01
72	土師器	甕G	S 10 ~ x18 SX8642	14.6	3.2	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ	白粒多く含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	6/12		024-05
73	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	13.4	3.4	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多・ウンモ多く黒色粒少	良好	浅黄橙 7.5YR8/6	3/12		026-07
74	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	13.5	3.4	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ	微細な白粒混合	良好	橙 5YR6/6	3/12		023-03
75	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	13.6	2.9	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多・白色粒少・ウンモ多く含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	3/12		026-05
76	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.46	13.8	3.0	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	ウンモ・石英粒含む	良好	明赤褐 2.5YR5/8	6/12	口縁端部3ヶ所に煤付着	016-08
77	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.74	13.7	2.6	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少し	良好	橙 7.5YR7/6	完形		004-08
78	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.77	14.5	3.1	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少し	良好	浅橙 5YR8/4	完形		003-06
79	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.93	14.5	3.2	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く白色粒少	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	8/12		006-04
80	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.5	2.6	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く微細な白粒少	良好	浅黄橙 10YR8/3	4/12		014-04
81	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.5	2.7	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	微細な白粒混合・赤色粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	ほぼ完形	内面一部煤黒	012-08
82	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.80	13.7	3.2	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少	良好	橙 5YR7/6	3/12	外面に煤黒	018-02
83	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.8	13.8	3.0	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多・ウンモ多く含む	良好	明黄橙 10YR7/6	5/12	口縁部端部一部に煤付着	052-04
84	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.9	14.1	3.1	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く白色少	良好	浅黄橙 2.5Y8/4	ほぼ完形		014-09
85	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.8	14.1	3.2	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	白色粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	9/12		016-03
86	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.92	14.1	2.6	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	2/12		018-05
87	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.3	2.8	—		外：口縁部ヨコナデ，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	2~3mmの微細多く含む	良好	橙 5YR6/6	ほぼ完形	口縁部端部の一部に煤付着	020-06
88	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.6	3.2	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	3/12		021-09
89	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.97	14.0	—	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	白色粒・石英粒含む	良好	橙 2.5YR6/6 ~ にぶい黄橙 10YR7/3	5/12	内面一部，底部外面1/2に煤黒	025-05
90	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.49	14.1	3.1	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く，ウンモ多く白色粒少	良好	橙 5YR7/6	9/12		003-04
91	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.2	3.0	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目，ハケ目 内：ナデ	白色粒多く含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	完形	外面底部内側一部煤黒	002-05
92	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.27	14.2	3.2	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く白色粒少	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	ほぼ完形		003-02
93	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.42	14.2	3.0	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	白色粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	7/12		006-09
94	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.41	14.2	2.9	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く白色粒少	良好	橙 5YR7/6	7/12		020-01
95	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.44	14.2	3.0	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	白色粒多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	6/12		013-09
96	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.43	14.2	3.1	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少し，ウンモ多く含む	良好	橙 5YR6/8	6/12		025-06
97	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.46	14.3	3.2	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	白色粒・微細なウンモ多く含む	良好	橙 5YR6/8	7/12		009-06
98	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.47	14.3	2.8	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	白色粒・微細なウンモ多く含む	良好	橙 2.5YR6/6	6/12	内面に煤黒	009-06
99	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.5	2.9	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少し，ウンモ多く含む	良好	橙 5YR7/6	8/12		011-01
100	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.3	3.1	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目，底部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	微細	橙 7.5YR7/6	ほぼ完形		012-04
101	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.3	2.8	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒多く含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	9/12		015-06
102	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.90	14.3	2.8	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	5/12		017-02
103	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.80	14.6	3.0	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少	良好	橙 5YR6/8	6/12		007-07
104	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.6	3.0	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒多く，石英粒含む	良好	橙 7.5YR7/6	ほぼ完形		011-08
105	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.6	2.5	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少	良好	橙 7.5YR7/6	2/12		012-02
106	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.6	2.4	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	白色粒多く	良好	橙 5YR7/6	3/12		016-02
107	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.6	3.1	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	白色粒多く	良好	橙 5YR7/6	3/12	内外面一部煤黒	016-05
108	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.6	3.2	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少，ウンモ多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形	口縁部端部3ヶ所に煤付着	017-03
109	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.6	2.9	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少，ウンモ多く含む	良好	にぶい橙 5YR7/4	3/12		021-08
110	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.36	14.6	2.8	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	白色粒・石英粒含む	良好	橙 5YR6/6	9/12		023-02
111	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.4	—	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	5/12		025-02
112	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.5	3.2	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少，ウンモ多く含む	良好	橙 2.5YR6/8	完形	口縁部歪みあり	005-01
113	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.63	14.5	2.9	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	白色粒・ウンモ多く含む	良好	橙 5YR6/8	8/12		009-09
114	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.5	3.1	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	微細	良好	橙 5YR7/6	底部のみ欠損		011-09
115	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.5	2.7	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒多く，白色粒少	良好	橙 5YR6/8	9/12		023-10
116	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.5	2.6	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	白色粒少量含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12		008-01
117	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.5	2.6	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	白色粒・ウンモ多く含む	良好	橙 5YR6/8	4/12		026-06
118	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.46	14.6	3.5	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒比較的多く	良好	浅橙 5YR8/4	完形		003-03
119	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642 No.92	14.6	3.1	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	白色粒多く，白色粒少	良好	浅黄橙 10YR8/4	完形	やや歪む	003-07
120	土師器	甕A	S 10 ~ y18 SX8642	14.6	3.1	—		外：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目 内：口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削り，底部ヨコナデ，ハケ目	赤色粒・ウンモ多く含む	良好	橙 2.5YR7/6	ほぼ完形		004-04

第Ⅱ－6表　第140次調査区出土遺物観察表（2）

番号	出土遺構 区	出土遺構 番号	出土遺構 種別	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
121	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.61	14.6	3.1	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	赤色鹿粒多く含む	良好	C.5Y-橙 5YR7/4	口縁完形		005-05
122	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.62	14.6	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干含む	良好	橙色 7.5YR7/8	8/12	口縁部歪曲	006-01
123	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.65	14.6	3.5	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	明石 赤色粒・ウンモ若干含む	やや軟	外:橙 5YR7/6 内:明黄褐 10YR7/6	8/12		005-10
124	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.28	14.6	3.5	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒・白色粒若干含む	良好	灰黄褐 7.5YR6/4	9/12		006-00
125	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.34	14.6	3.4	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	白色粒(ウンモ)若干含む	良好	橙 5YR7/6	完形		007-06
126	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.6	2.9	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	明石	良好	橙 5YR6/6	5/12		019-09
127	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.6	3.7	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干含む	良好	灰黄褐 7.5YR6/4	完形	外面1/2迄くすぶる	016-10
128	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.6	4.7	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	明石 白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	4/12		023-06
129	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.66	14.6	3.9	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒・白色粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12		024-09
130	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.64	14.7	2.9	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形		002-02
131	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.26	14.7	3.0	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	雲母粒多く含む、ウンモ含む	良好	橙 5YR6/6	完形		004-10
132	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.7	3.1	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干含む	良好	灰黄褐 10YR6/4	口縁完形		012-03
133	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.7	3.0	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	白色粒若干含	良好	橙 5Y6/6	4/12		015-08
134	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.7	3.1	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	微細なウンモ含む	良好	橙 2.5YR6/6	4/12		018-08
135	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.7	3.7	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、白色粒ウンモ若干含む	良好	橙 5YR7/8	1/12		019-01
137	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.1	14.7	3.4	—	外:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	白色粒・ウンモ若干含	良好	橙 5Y6/6	5/12		024-08
137	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.1	14.8	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	白色粒少量含む	良好	橙 5Y6/8	完形	内面わずかに黒変	002-05
138	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.3	14.8	3.6	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	白色粒若干含む	良好 焼きかも甘い	橙 2.5YR6/6	完形	内面外面に黒斑あり 口縁部歪に変形有	003-09
139	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	2.8	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	白色砂粒若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR6/4	完形		004-01
140	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.3	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	明石 ウンモ若干含む	やや軟	橙 7.5YR7/6	7/12		005-07
141	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	白色粒若干含	良好	橙 5Y7/6	7/12		006-03
142	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.46	14.8	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、ウンモ若干含む	良好	橙 2.5YR7/6	口縁完形		007-01
143	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.59	14.8	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	白色砂粒含	良好	橙 5YR7/6	7/12		008-06
144	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.63	14.8	3.0	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り	白色粒・ウンモ若干含	良好	橙 7.5YR7/6	3/12		008-09
145	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	2.9	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒若干多く、白色粒ウンモ若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	6/12	口縁やや歪む	011-05
146	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.3	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒若干多く、白色粒ウンモ若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	口縁完形	内面黒変	012-07
147	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	白色粒・ウンモ含む	良好	橙 2.5YR7/6	3/12		012-09
148	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	2.6	—	外:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒若干含む	良好	灰黄褐 7.5YR6/6	口縁完形	外面赤く焼付ており、内面は黒ずんでいる 内面を磨く	013-08
149	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.0	—	外:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒若干・微細なウンモ含む	良好	明赤褐色 2.5YR5/6	7/12		013-07
150	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.1	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、白色粒ウンモ若干含	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	5/12		014-10
151	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.68	14.8	2.9	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	白色粒若干含む	良好	灰黄褐 7.5YR6/4	5/12		016-09
152	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.60	14.8	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干含む	良好	橙 5Y6/6	4/12		016-10
153	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く含む	良好	灰黄褐 10YR6/4	3/12		018-09
154	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.1	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒若干多く、ウンモ若干含む	良好	橙 5Y6/6	3/12		020-01
155	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒若干・白色粒若干含	良好	橙 5Y7/6	10/12		020-10
156	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.1	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干含む	良好	橙 5Y7/6	2/12	口縁部歪の一部に焼付有	021-05
157	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.0	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干含む	良好	橙 5Y7/6	3/12	底部黒変	021-07
158	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干含む	良好	橙 5Y7/6	2/12		024-01
159	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.8	2.9	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	白色砂粒若干含	良好	橙 5Y6/8	口縁完形		003-05
160	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.52	14.9	3.1	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	微細なウンモ含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	5/12		009-02
161	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.61	14.9	3.1	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、白色粒ウンモ若干含む	良好	灰黄褐 7.5YR6/4	5/12		017-05
162	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.9	3.0	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	3/12		024-02
163	1区間	西A	S 10・v28 SK842	14.9	3.4	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干・ウンモ多く含む	良好	橙 5Y6/8	7/12		006-06
164	1区間	西A	S 10・v28 SK842	15.0	3.3	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、白色粒若干含む	良好	橙 5Y6/8	口縁完形	口縁部歪に焼付有 他土器入れない	010-03
165	1区間	西A	S 10・v28 SK842	15.0	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く含む	良好	橙 2.5YR7/6	9/12	内面に黒斑 口縁部歪および一部に焼付有	013-10
166	1区間	西A	S 10・v28 SK842	15.0	2.9	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒若干多く、白色粒ウンモ若干含む	良好	橙 5Y7/6	8/12		015-04
167	1区間	西A	S 10・v28 SK842	15.0	2.6	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、白色粒若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	3/12		023-05
168	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.31	15.1	3.1	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、白色粒若干含む	良好	橙 2.5YR6/6	12/12		006-02
169	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.21	15.1	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、白色粒若干含む	良好	橙 5Y7/6	12/12		007-04
170	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.63	15.1	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く含む	良好	橙 5Y7/6	口縁完形		007-06
171	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.67	15.1	2.6	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	微細な白色粒含む	良好	橙 7.5YR7/6	6/12		017-06
172	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.12	15.1	2.8	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、白色粒若干含む	良好	橙 5Y7/6	3/12		020-09
173	1区間	西A	S 10・v28 SK842	15.2	2.9	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	白色粒少	良好	橙 5Y7/6	4/12		011-07
174	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.66	15.2	2.6	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干・白色粒若干含	良好	橙 5Y7/8	5/12		017-04
175	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.11	15.3	3.2	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	微細な白色粒若干含む	良好	橙 5Y7/6	3/12	口縁部歪一部に焼付有	013-09
176	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.3	15.4	3.5	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/3	6/12		008-02
177	1区間	西A	S 10・v28 SK842	15.6	3.0	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干・白色粒若干含	良好	橙 5Y6/8	2/12		011-03
178	1区間	西A	S 10・v28 SK842	15.6	3.3	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	赤色粒若干多く、白色粒ウンモ若干含む	良好	橙 5Y6/6	5/12		011-10
179	1区間	西A	S 10・v28 SK842 No.11	15.6	2.8	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	白色粒・ウンモ多く含む	良好	橙 5Y6/6	3/12		018-04
180	1区間	西A	S 10・v28 SK842	15.7	3.5	—	外:口縁部ヨコナデ、体部へ底部ナデ・ヘラ削り 内:口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ヘラ削り	白色粒若干含む	良好	C.5Y-橙 5YR6/4	2/12	口縁部歪に焼付有	020-07

第Ⅱ－7表　第140次調査区出土遺物観察表 (3)

番号	出土遺物 種類	器形	法量	径 口径	長 胴径	底 底径	高 器高	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	所存地	備考	登録番号
181	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	15.8	3.7	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	白色粒・石英粒多く含む	良好	橙 2.5YR6/6	8/12		018-10
182	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	12.8	3.1	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	6/12		014-03
183	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.80	14.0	3.5	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	雲母	良好	橙 5YR6/8	8/12		009-04
184	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.0	3.0	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	白色粒多く含む 赤色黒粒多く含む、白色粒・ウンモを若干含む	良好	橙 5YR6/6	5/12	外面黒斑あり	016-04
185	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.0	3.2	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	4/12	口縁端部の一部に煤付着	019-07
186	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.68	14.1	3.4	—	—	外：口縁部横ナデ、胴部一次ヘラ削り→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	白色粒・石英粒多く含む ウンモを若干含む	良好	橙 5YR6/6	7/12		025-07
187	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.46	14.2	4.0	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：ヨコ・ヨコ	雲母	良好	橙 5YR6/8	4/12		059-03
188	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.67	14.2	3.4	—	—	外：口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り→二次ヘラ削り 内：ヨコ・ヨコ	雲母	良好	橙 2.5YR7/6	完形	口縁端部に煤付着	012-04
189	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.46	14.2	3.2	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	6/12	口縁端部に煤付着	025-01
190	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.4	3.3	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒多く含む、雲母少量含む	良好	橙 2.5YR7/6	7/12		010-07
191	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.4	3.4	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒・白色粒・雲母多く含む	良好	橙 2.5YR6/8	7/12		011-06
192	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.4	3.7	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒多く含む、白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	5/12	底部一部煤色	023-04
193	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.6	3.6	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	4/12	口縁部一部に煤付着	004-02
194	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.12	14.6	3.2	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒若干含む	良好	明黄橙 10YR7/6	7/12		017-09
195	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.12	14.6	3.6	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	白粒多く含む	良好	橙 5YR6/8～7.5YR7/6	10/12		006-09
196	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.100	14.6	3.6	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	白粒若干含む	良好	橙 5YR7/8	4/12	口縁部一部に煤付着	009-03
197	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.6	3.7	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：ヨコ・ヨコ	雲母 赤色黒粒含む	良好	橙 5YR7/6	9/12		013-06
198	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.20	14.5	4.3	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：ヨコ・ヨコ(?)	白粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	6/12		009-07
199	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.6	4.0	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ	赤色黒粒・ウンモを若干含む	良好	橙 5YR6/6	底部のみ残存	内面にススあり	014-07
200	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.6	3.3	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ	白粒多く含む	良好	橙 2.5YR6/6	2/12	内面黒斑大	019-02
201	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.13	14.6	3.4	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒多く、白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	完形		002-01
202	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.9	14.6	3.5	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	白粒・ウンモ含む	良好	橙 2.5YR6/8	6/12		008-07
203	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.6	3.4	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形	内面1/3～1/2に黒斑	011-02
204	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.8	3.4	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	雲母・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	7/12		022-02
205	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.8	3.5	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：ヨコ・ヨコ	赤色黒粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	9/12	口縁端部に煤付着	012-01
206	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.68	14.8	3.3	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒含む	やや軟	浅黄橙 10YR8/4	底部完形		004-06
207	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.22	14.8	3.6	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR6/8	9/12		005-04
208	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.8	3.3	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒・白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	4/12		013-02
209	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.9	2.9	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12		015-10
210	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.38	15.0	3.2	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	雲母 白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	底部完形		003-03
211	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	15.0	3.1	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	6/12		015-02
212	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.65	15.1	3.6	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	赤色黒粒若干含む	良好	浅黄橙 10YR8/3	底部完形		021-06
213	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.71	15.2	3.7	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：ヨコ・ヨコ(?)	雲母	良好	橙 5YR7/6	完形		002-02
214	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	15.2	3.2	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	赤色黒粒多く含む 白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	7/12		016-06
215	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	15.2	3.0	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	赤色黒粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	4/12		009-06
216	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	15.3	3.6	—	—	外：口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	赤色黒粒・白色粒多く含む、ウンモを多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	2/12		008-04
217	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	15.4	3.7	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	赤色黒粒多く、白色粒・ウンモを若干含む	良好	橙 5YR7/6	1/12		021-01
218	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.31	15.4	3.7	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	雲母	良好	橙 5YR6/8	底部完形		023-09
219	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	15.5	3.9	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	赤色黒粒・雲母・白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	5/12	上胴部第一段黒変	013-04
220	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	15.5	3.4	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	白色粒・ウンモを若干含む	良好	橙 2.5YR6/8	8/12		016-01
221	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	15.5	4.1	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	赤色黒粒多く、白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	9/12		029-03
222	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.70	15.6	3.8	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ	赤色黒粒・白色粒含む ウンモを多く含む	良好・軟 やや軟	橙 2.5YR6/8	10/12	底部内面に黒斑あり	009-10
223	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	15.8	3.8	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ	赤色黒粒・白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	2/12	外面黒変か?	018-07
224	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.67	16.1	3.7	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ(?)、ヨコ	赤色黒粒多く、白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	底部完形		007-03
225	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	16.1	3.6	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：ヨコ・ヨコ	赤色黒粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	7/12	底部に黒斑大	022-08
226	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	16.2	4.0	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：ヨコ・ヨコ	赤色黒粒多く、白色粒・ウンモを若干含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/6	2/12		005-03
227	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	16.4	4.2	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	9/12		006-08
228	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	16.4	3.4	—	—	外：口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	赤色黒粒多く、ウンモを若干含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		024-02
229	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.39	16.7	2.9	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	白色粒若干含む	良好	橙 2.5YR6/8	3/12		015-04
230	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.15	16.8	3.9	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	赤黒粒・赤色黒粒含む	良好	橙 2.5YR6/8	9/12		013-05
231	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.12	17.2	4.6	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	4/12	内面に黒斑	006-01
232	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	18.0	—	—	—	外：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り→二次ヘラ削り 内：ヨコ	赤色黒粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	6/12		025-03
233	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.12	21.6	5.5	—	—	外：口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り→二次ヘラ削り、底部ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り、底部ヘラ削り(?)、ヨコ	赤色黒粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	1/12		001-06
234	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	19.9	4.4	—	—	外：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部ヘラ削り	赤黒・赤色黒粒・ウンモを含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		008-04
235	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	20.8	4.8	—	—	外：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、体部一次横ナデ	白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	4/12	底部内面外面煤変色	023-01
236	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.0	1.7	—	—	外：口縁部横ナデ、底部ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、底部ナデ	赤色黒粒・ウンモ含む	良好	橙 2.5YR7/6	2/12		024-05
237	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.3	1.2	—	—	外：口縁部横ナデ、底部ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、底部ナデ	赤黒・赤色黒粒少量含む	良好	明黄橙 10YR7/6	2/12		058-05
238	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862	14.3	2.3	—	—	外：口縁部横ナデ、底部ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、底部ナデ→二次ヘラ削り	白粒多く含む 赤黒粒若干含む	良好	橙 2.5YR6/8	完形		004-05
240	土師器	甕A	S 10～x18 SK0862 No.100	14.6	1.8	—	—	外：口縁部横ナデ、底部ナデ→二次ヘラ削り 内：口縁部横ナデ、底部ナデ→二次ヘラ削り	赤色黒粒・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	完形		008-04

第Ⅱ－8表　第140次調査区出土遺物観察表（4）

番号	出土遺物		出土遺構	法量(cm)			調整・技法の特徴		胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
	器種	器形		口径	器高	その他								
241	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.0	1.8	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		白色粒含む	良好	橙 7.5YR6/6	3/12		921-04
242	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.0	2.0	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒顕著で、ウンモ多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	3/12		915-01
243	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.11	14.2	2.2	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒顕著で、白色粒・ウンモ含む	良好	橙 2.5YR6/8	6/12		917-09
244	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.7	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：ナデ		赤色粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/6	3/12		958-03
245	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.13	14.8	2.9	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		白色粒・ウンモ含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形	底部外面に黒斑	983-06
246	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.8	2.1	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒顕著で、白色粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		939-01
247	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.100	15.0	1.8	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		白色粒多く含む	良好	黄 5YR7/6	1/12		996-07
248	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.14	15.2	2.2	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		白色粒多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	9/12		989-03
249	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.2	2.7	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		白色粒含む	良好	橙 2.5YR6/8	5/12	焼き歪みあり	919-04
250	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.18	15.3	2.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒多く含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	6/12		919-02
251	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.3	2.2	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒多く含む、ウンモ若干含む	良好	にぶい橙 5YR7/4	5/12		914-06
252	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.2	2.2	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒・微細な石英含む	良好	橙 5YR6/6	6/12		922-07
253	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.34	15.7	2.4	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒顕著で、白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	5/12		920-03
254	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.96	15.4	1.7	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		雲母	良好	浅黄橙 10YR8/4	完形		991-04
255	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.65	15.4	2.2	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒顕著で少々、白色粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	10/12		993-09
256	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.69	15.4	1.8	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		白色粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	完形		992-10
257	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.9	15.4	2.0	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒顕著で、白色粒・ウンモ若干含む	良好	橙 5YR6/8	2/12		919-01
258	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.4	1.7	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	3/12		921-05
259	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.8	2.0	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	6/12		922-05
260	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.6	2.0	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	5/12		920-05
261	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.6	1.7	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		白色粒・ウンモ若干含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	4/12		922-04
262	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.6	1.8	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ		赤色粒顕著・白色粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	3/12		923-07
263	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.7	1.9	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	5/12		918-09
264	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.28	15.8	1.8	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形		942-07
265	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.8	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕著・白色粒・ウンモ若干含む	良好	橙 5YR7/6	3/12		918-06
266	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.8	2.1	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕著で、白色粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	3/12		924-03
267	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	16.0	1.7	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押、高速度工具による列痕あり		赤色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	4/12	外面一部黒斑	883-09
268	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.35	16.0	2.3	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	4/12		896-07
269	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	16.0	2.0	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押、体部一部ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕著で多く含む	良好	にぶい橙 7.5YR6/4	3/12		926-07
270	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	16.2	2.0	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	4/12		925-01
271	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	16.1	2.1	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕著で多く含む	良好	明・黄 10YR7/6 明：にぶい橙 7.5YR7/4	4/12		923-02
272	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	13.6	1.9	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	明黄橙 2.5YR8/4	8/12		914-04
273	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.0	1.9	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕著、ウンモ若干含む	良好	橙 2.5YR6/8	1/12	底部内側の一部に黒斑	985-02
274	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.0	1.3	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		雲母粒・ウンモ多く含む	良好	黄橙 10YR8/6	5/12		989-02
275	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	—	2.4	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押、体部一部ユビ押		ウンモ若干含む	良好	橙 5YR6/6	1/12		922-05
276	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.1	2.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	10/12		922-01
277	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.38	14.1	1.7	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒若干含む	良好	浅黄橙 10YR8/3	9/12	底部内面に小黒斑あり	922-09
278	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.2	2.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む、白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	11/12	底部外面に黒斑	991-09
279	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.2	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	6/12		920-08
280	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.2	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕著・ウンモ多く含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形		907-02
281	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.4	1.8	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	3/12		912-01
282	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.4	1.5	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	5/12		905-08
283	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.26	14.6	2.1	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕著・白色粒・ウンモ若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	完形		904-07
284	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.5	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	2/12	底部内側の一部に黒斑	907-05
285	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.5	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		微細な白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		915-03
286	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.6	1.8	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		微細な白色粒若干含む	良好	黄橙 7.5YR7/8	11/12		949-06
287	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.7	1.9	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	9/12		942-04
288	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.4	2.1	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕著・白色粒若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	3/12		926-09
289	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.8	1.8	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	5/12		913-03
290	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.8	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		白色粒若干含む	良好	橙 2.5YR6/8	完形		908-05
291	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.8	1.8	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	7/12		914-03
292	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.0	1.3	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	8/12		919-10
293	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	14.9	1.5	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕・微細な石英若干含む	良好	橙 5YR6/6	4/12		913-01
294	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.0	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		926-02
295	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.0	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		白色粒若干含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	8/12	底部外面の一部黒変	923-03
296	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.1	1.9	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕著で、白色粒若干含む	良好	橙 5YR7/6	11/12		909-05
297	土師器	甕A	S-10・v18 SK842	15.1	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒多く含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/4	3/12		913-10
298	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.60	15.1	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		微細な白色粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	11/12		902-08
299	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.46	15.2	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		赤色粒顕・白色粒若干含む	良好	橙 5YR6/6	9/12		898-08
300	土師器	甕A	S-10・v18 SK842 No.67	15.2	1.7	—	内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押 外：口縁部ヨコナデ、底部ナデ・ユビ押		白色粒若干含む	良好	橙 7.5YR7/6	9/12		906-05

第Ⅱ－9表　第140次調査区出土遺物観察表 (5)

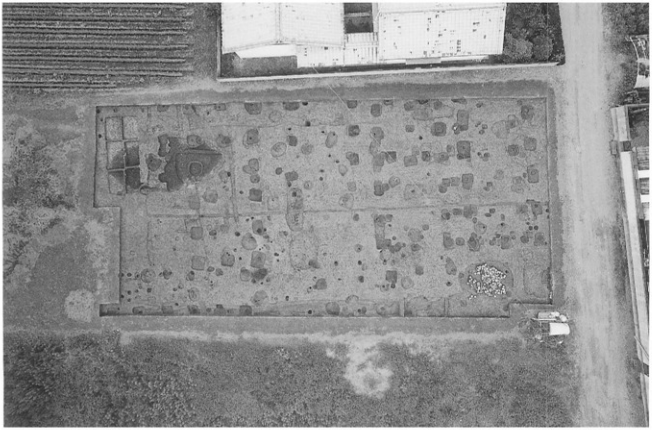
番号	出土遺構		出土遺物	法量(cm)			調査・復元の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
	遺構名	器種	器種	口径	器高	その他							
301	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.2	1.2	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 7.5YR7/6	6/12		019-046
302	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.2	1.7	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR6/6	3/12		021-101
303	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.2	1.4	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	6/12		022-102
304	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.2	1.6	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	9/12		024-103
305	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.2	1.7	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・雲母・白色粒含む	良好	橙 5YR6/8	9/12	内面ごく一部に黒斑	014-002
306	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.01	15.3	～2.0	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR7/8	完形		009-031
307	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.3	1.6	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	雲母	良好	橙 5YR6/6	6/12		015-015
308	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.5	1.7	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR6/6	7/12		014-001
309	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.2	1.2	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	6/12		009-025
310	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.3	1.6	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR7/8	10/12		025-021
311	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.50	15.4	1.5	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・雲母・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	11/12 完形		017-010
312	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.4	1.7	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	5/12		015-016
313	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.19	15.2	2.1	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	5/12		017-017
314	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.20	15.6	1.5	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR7/8	完形		003-001
315	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.6	1.6	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	雲母・白色粒・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	完形		004-002
316	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.6	2.2	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・雲母・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	6/12		015-017
317	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.7	1.6	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・雲母・白色粒含む	良好	橙 5YR6/6	11/12 完形		014-003
318	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.06	15.8	1.7	—	外：口縁部ヨコナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、底部ナデ	赤色粒子・雲母・白色粒含む	良好	橙 5YR6/6	5/12		017-011
319	土師器	椀B	S 10 ～ s18 SK8462 No.04	15.2	3.0	高台径 7.2	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ→板状工具押ナデ→ナデ、高台部ナデ	赤色粒・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR6/6	1/12 高台欠損		017-006
320	土師器	椀B	S 10 ～ s18 SK8462 No.02	15.4	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ	赤色粒子・雲母・白色粒含む	良好	橙 5YR6/8	6/12 高台欠損		020-036
321	土師器	椀B	S 10 ～ s18 SK8462 No.26	15.5	3.1	高台径 7.4	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ、高台部ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ→板状工具による軽ナデ、高台部ナデ	赤色粒子・雲母・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	11/12 高台欠損		017-110
322	土師器	椀B	S 10 ～ s18 SK8462	16.8	3.8	高台径 7.2	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ、高台部ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ→板状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ	赤色粒子・雲母・白色粒含む	良好	にぶい橙 7.5YR7/4	1/12 高台欠損		022-043
323	土師器	椀B	S 10 ～ s18 SK8462 No.1	16.4	3.2	高台径 7.6	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ、高台部ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR6/8	11/12 完形		001-005
324	土師器	椀B	S 10 ～ s18 SK8462	16.1	3.2	高台径 7.6	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、体～底部ナデ→ヘラ切ナデ、高台部ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ	赤色粒子・雲母・白色粒含む	良好	橙 5YR6/8	1/12 高台欠損		015-007
325	土師器	椀B	S 10 ～ s18 SK8462 No.03	17.8	4.1	高台径 9.1	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ、高台部ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ→板状工具ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR7/6	1/12 高台欠損	外面に煤付着痕有り 口径 21.7/12	002-006
326	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	—	—	—	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ 内：板状工具ナデ	赤色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR6/8	破片 9/12		004-021
327	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	—	—	—	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ 内：板状工具ナデ	赤色粒子・白色粒含む	良好	橙 5YR7/8	破片 10/12		004-020
328	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	13.6	1.2	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ	ウンモ石含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	口縁部完存 体部 6/12	外面一次被熱による変色 底部内面に炭化物付着	014-004
329	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	14.6	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ	白色粒子・ウンモ石含む	良好	浅黄橙 10YR8/3	2/12		024-047
330	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.5	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ→板状工具ナデ→ナデ→ヘラ状工具ナデ→ナデ	白色粒子・雲母	良好	浅黄橙 10YR8/4	10/12	口縁部内面及び体部外面に煤付着 体部内面の一部と内底面に炭化	015-012
331	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	17.9	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ状工具ナデ→ナデ、底部ヘラ状工具ナデ→ナデ→ヘラ状工具ナデ→ナデ	赤粒子・白色粒含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	口縁部完存 底部欠損	外面煤付着 内面底部炭化物付着	014-006
332	土師器	椀C	S 10 ～ s18 SK8462	24.0	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ状工具ナデ→ナデ、底部板状工具ナデ	雲母	良好	黄橙 10YR8/6	3/12	外面煤付着 内面底部炭化物付着	024-048
333	土師器	皿	S 10 ～ s18 SK8462	29.1	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部板状工具ナデ→ナデ、底部板状工具ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	2/12	外面煤付着 内面底部一部に黒斑 口径 29.1/12	025-023
334	土師器	皿	S 10 ～ s18 SK8462	30.0	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部板状工具ナデ→ナデ、底部板状工具ナデ→ナデ	白色粒子・ウンモ石含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	5/12		024-046
335	土師器	皿	S 10 ～ s18 SK8462	27.0	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部板状工具ナデ→ナデ、底部板状工具ナデ→ナデ	白色粒子・ウンモ石含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	9/12		024-022
336	土師器	皿	S 10 ～ s18 SK8462	30.2	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部板状工具ナデ→ナデ、底部板状工具ナデ→ナデ	白色粒子・ウンモ石含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	3/12		024-049
337	土師器	皿B	S 10 ～ s18 SK8462 No.31	27.6	9.2	13.2	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・ウンモ石含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	1/12 高台欠損		015-018
338	土師器	甕B	S 10 ～ s18 SK8462 No.32	32.6	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・ウンモ石含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	2/12		025-032
339	土師器	甕B	S 10 ～ s18 SK8462 No.33	33.6	9.2	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・ウンモ石含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	2/12		025-033
340	土師器	甕B	S 10 ～ s18 SK8462	34.6	—	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・ウンモ石含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	3/12		025-040
341	須恵器	椀	S 10 ～ s18 SK8462 No.07	31.4	10.4	15.0	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	～20mm 程度含む白色粒子	良好	明黄褐 10YR7/6	8/12	外面下半二次被熱による変色	013-001
342	須恵器	椀	S 10 ～ s18 SK8462	15.6	4.2	高台径 7.0	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ、高台部ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ナデ→ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ	白色粒子・雲母	良好	暗灰黄 2.5Y5/2	1/12 高台欠損		001-002
343	須恵器	椀	S 10 ～ s18 SK8462	17.7	3.8	7.7	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ、内面底部無調整	雲母	良好	暗灰 N3/ 2.5Y5/2 黒褐 2.5Y3/2	1/12 高台欠損		025-025
344	須恵器	椀	S 10 ～ s18 SK8462	14.5	4.6	7.1	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ、内面底部無調整	白色粒子・雲母	良好	暗灰 2.5Y5/2	2/12		025-023
345	須恵器	椀	S 10 ～ s18 SK8462	15.6	2.3	高台径 7.0	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ、外面一部～内面底部無調整	白色粒子・雲母	良好	暗灰 N3/ 2.5Y5/2 黒褐 2.5Y3/2	1/12 高台欠損		024-044
346	須恵器	皿	S 10 ～ s18 SK8462	16.6	—	—	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ	雲母・砂粒	良好	暗灰 N3/ 黒褐 2.5Y3/2	2/12		003-004
347	須恵器	皿	S 10 ～ s18 SK8462 No.34	15.3	2.6	高台径 6.0	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ、外面底部無調整	砂礫、雲母	良好	暗灰 N3/ 黒褐 2.5Y3/2	11/12		001-001
348	須恵器	皿	S 10 ～ s18 SK8462	—	—	高台径 6.0	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ、内面底部無調整	白色粒子・雲母	良好	暗灰 N3/ 黒褐 2.5Y3/2	破片 10/12		003-003
349	須恵器	椀	S 10 ～ s18 SK8462	—	—	高台径 7.0	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ	雲母、砂礫	良好	暗灰 N3/ 黒褐 2.5Y3/2	破片 7/12		002-001
350	須恵器	皿	S 10 ～ s18 SK8462 No.35	—	—	高台径 6.0	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ 内：ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ	雲母、砂礫	良好	暗灰 N3/ 黒褐 2.5Y3/2	破片 7/12		002-002
351	須恵器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.36	29.6	7.0	高台径 9.0	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ 内：ヘラ状工具ナデ→ナデ、高台部ナデ→板状工具ナデ→ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	暗灰 N3/ 黒褐 2.5Y3/2	1/12 高台欠損	外面に煤付着	025-024
352	須恵器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.8	3.5	—	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ 内：ヘラ状工具ナデ→ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	暗灰 N3/ 黒褐 2.5Y3/2	1/12 高台欠損	内面中心部に黒斑	025-035
353	須恵器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	16.1	3.6	—	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ 内：ヘラ状工具ナデ→ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	暗灰 N3/ 黒褐 2.5Y3/2	1/12 高台欠損		025-036
354	須恵器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	17.3	3.9	—	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ 内：ヘラ状工具ナデ→ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	暗灰 N3/ 黒褐 2.5Y3/2	1/12 高台欠損		025-037
355	須恵器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.37	13.4	3.5	—	外：ヘラ状工具ナデ→ナデ 内：ヘラ状工具ナデ→ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	暗灰 N3/ 黒褐 2.5Y3/2	1/12 高台欠損		025-038
356	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.38	13.1	2.5	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR6/8	2/12	内面に黒斑	025-042
357	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.39	13.6	2.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-041
358	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	15.2	3.2	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	6/12		025-039
359	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	16.3	3.3	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母	良好	橙 5YR6/8	11/12 完形	内面中心に黒斑	025-031
360	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	16.8	3.5	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	3/12		025-034
361	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	16.1	3.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-035
362	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462	17.3	3.7	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-033
363	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.40	16.8	3.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-034
364	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.41	16.1	3.4	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-036
365	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.42	16.1	3.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-037
366	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.43	16.1	3.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-038
367	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.44	16.1	3.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-039
368	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.45	16.1	3.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-040
369	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.46	16.1	3.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-041
370	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.47	16.1	3.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-042
371	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.48	16.1	3.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-043
372	土師器	椀A	S 10 ～ s18 SK8462 No.49	16.1	3.6	—	外：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ削り→ナデ、底部ヘラ切ナデ→ナデ 内：口縁部ヨコナデ、体部ヘラ～底部ナデ	白色粒子・雲母・ウンモ石含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		025-044

第Ⅱ－10表　第140次調査区出土遺物観察表（6）

番号	出土遺物 器種	器形	出土遺構 遺構名	出土遺物 口径	最高	その他	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	図版番号
361	灰釉陶器	碗	S D ～ x18 SK861	14.0	2.0	底20%	内：ロクロナデ，高台ハケ目 外：ロクロナデ	白色粒多く含む	良好	暗：内黄 2.5Y7/3 底面：黒褐 2.5Y7/1	3/12	底部外面に三又トチン痕	035-09
362	灰釉陶器	皿	S D ～ x18 SK861	14.4	2.7	6.8	内：ロクロナデ，高台ハケ目 外：ロクロナデ	白色粒多く含む	良好	暗：内黄 2.5Y7/3 底面：明灰 5Y7/1	口縁部 3/12 底部完存	歪み大 底部内面に三又トチン痕，釉薬は「ナ」字形の引き上げ	035-10
363	緑釉陶器	椀A	S D ～ x18 SK861	9.8	3.3	—	内：口縁部横ナデ，底部回転ヘラケズリ 外：口縁部ナデ	白色粒多く含む	良好	明 7.5Y6/1	4/12		035-08
364	須恵器	台付小皿	S D ～ x18 SK861 Na1	9.4	2.1	高台内径 5.4	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ	白色粒多く含む	良好	暗 2.5Y6/8	完形		035-10
365	陶器	小椀	S D ～ x18 SK861 Na1	9.4	3.0	5.0	内：ロクロナデ，底部回転ヘラケズリ 外：ロクロナデ	白色粒多く含む	良好	口縁部：明 2.5Y7/1 底部：黒灰 2.5Y6/3	7/12		035-09
366	土師器	椀	S D ～ x11 SK862 Na1	12.5	2.2	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	白色粒多く含む	良好	明 2.5YR6/2	口縁部欠損 底部 6/12	内面一部黒化	034-02
367	土師器	甲A	S D ～ x11 SK862	14.7	2.5	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	白色粒多量，ラン母多含む	良好	橙 2Y7/6/6	1/12		031-07
368	土師器	甲A	S D ～ x18 SK866	15.0	2.5	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	白色粒多量，ラン母多含む	良好	橙 2Y7/6/8	2/12		031-02
369	土師器	甲A	S D ～ x18 SK866	14.6	—	—	内：口縁部ヨコナデ，体部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ白色粒多含む	良好	橙 7.5YR7/6	2/12		031-04
370	土師器	甲A	S D ～ x18 SK866	14.0	2.9	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ白色粒多含む	良好	橙 7.5YR7/6	2/12		031-05
371	土師器	皿A	S D ～ x18 SK866	15.1	1.5	—	内：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ白色粒多含む	良好	橙 7.5YR7/6	3/12		031-03
372	土師器	皿A	S D ～ x18 SK866	15.7	—	—	内：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目	精良	良好	橙 7.5YR6/6	2/12		031-06
373	土師器	椀A	S D ～ x14 SK865	14.2	3.6	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：ハケ	赤色粒目立つ，白色粒多含む	やや軟	橙橙 2.5YR7/6	口縁部 1/12 底部完存		033-06
374	土師器	椀A	S D ～ x13 SK865 Na2	—	3.0	—	内：ヨコナデ 外：ヨコナデ	赤色粒目立つ白色粒多含む	良好	橙橙 2.5YR7/6	小片		032-06
375	土師器	皿A	S D ～ x13 SK865	15.1	2.0	—	内：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目 外：ヨコナデ	白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/8	8/12		032-06
376	土師器	皿A	S D ～ x13 SK865 Na2	16.3	2.2	—	内：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目 外：ヨコナデ，底部ナデ	白色粒多量，ラン母多含む	良好	橙 7.5Y3/6/6	3/12		032-05
377	土師器	甲A	S D ～ x13 SK865	15.8	3.4	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：ヨコナデ，底部ナデ	白色粒目立つ赤色粒多含む	良好	橙 5YR6/8	7/12		034-03
378	土師器	甲	S D ～ x13 SK865	25.6	—	—	内：口縁部ヨコナデ，体部ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部ハケ目	白色粒多く，ラン母少量含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	3/12		032-08
379	土師器	甲A	S D ～ x16 SK865	13.4	—	—	内：口縁部ヨコナデ，体部ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部ハケ目	白色粒多く，ラン母少量含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	3/12	外面一部黒化	033-04
380	須恵器	鉢	S D ～ x17 SK865	15.2	6.0	平底	内：口縁部ヨコナデ，底部ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，底部ヘラケズリ	白色粒多く，ラン母少量含む	良好	灰黄 2.5Y7/4 ～黄灰 2.5Y6/4	口縁部 5/12 底部完存		033-05
381	灰釉白磁	合付小皿	S D ～ x15 SK866	—	—	—	底部回転ヘラ切，回転ナデ 外：回転ナデ 底部：回転糸切	赤色粒目立つ白色粒多含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	高台片		035-01
382	陶器	折縁皿	S D ～ x16 SK866	16.0	3.6	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部ナデ ハケ目	白色粒多く含む	良好	暗 2Y3/7/6～黒 N/0	2/12		035-03
383	土師器	皿A	S D ～ x16 SK866	20.1	2.2	—	内：口縁部ヨコナデ，底部ハケ目 外：ヨコナデ	赤色粒目立つ白色粒多含む	良好	橙 5YR6/8	1/12		035-02
384	土師器	椀A	S D ～ x18 SK866	14.0	3.5	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	白色粒・ラン母多量含む	良好	明赤褐 2.5YR5/8	5/12		033-07
385	土師器	甲A	S D ～ x18 SK866	14.0	—	—	内：口縁部ヨコナデ，体部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部ナデ ハケ目	白色粒・ラン母多量含む	良好	にぶい黄橙 10YR7/4	3/12		032-04
386	土師器	椀A	S D ～ x16 SK866	13.0	3.5	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部ナデ	白色粒多く含む	良好	橙 5YR6/6	2/12		032-03
387	土師器	椀A	S D ～ x17 SK866	16.0	3.4	—	内：口縁部ヨコナデ，体部ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部ハケ目	赤色粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	2/12		033-02
388	緑釉陶器	皿	S D ～ x17 SK866	—	—	—	内：ヨコナデ，底部ヘラケズリ 外：ヨコナデ	精良	良好	暗：白緑 10Y8/2 底面：黒褐 2.5Y3/2	口縁小片	内面に施釉	032-11
389	土師器	甲A	S D ～ x19 SK862 Na1	14.9	2.7	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ，白色粒多含む	良好	橙 5YR7/6	口縁完形		031-01
390	土師器	甲A	S D ～ x19 SK862 Na1	14.6	2.5	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒多く，白色粒少量含む	良好	橙 7.5YR7/6	口縁部 6/12 底部 7/12	歪み大	030-07
391	土師器	甲A	S D ～ x19 SK862 Na1	14.4	3.0	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ，ラン母多含む	良好	橙 7.5YR7/6	口縁完形	外面一部黒化	030-03
392	土師器	甲A	S D ～ x19 SK862 Na1	14.4	3.2	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ，ラン母多含む	良好	橙 7.5YR7/6	口縁完形		030-06
393	土師器	甲A	S D ～ x19 SK862 Na1	14.0	3.0	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ，ラン母多含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形		030-04
394	土師器	甲A	S D ～ x19 SK862 Na1	13.7	3.3	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒多く含む	良好	橙 5YR7/6	10/12		030-10
395	土師器	椀A	S D ～ x19 SK862	17.0	4.0	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ，ラン母多含む	良好	橙 7.5YR7/6	6/12		030-09
396	土師器	皿A	S D ～ x19 SK862 Na1	14.2	1.6	—	内：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ多く，ラン母多含む	良好	橙 5YR6/6	完形		030-01
397	土師器	皿A	S D ～ x19 SK862 Na1	14.4	1.5	—	内：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ，白色粒少量含む	良好	橙 5YR6/8	5/12		030-08
398	土師器	皿A	S D ～ x19 SK862 Na1	13.8	1.7	—	内：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ，ラン母多含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/6	口縁完形		030-05
399	土師器	皿A	S D ～ x19 SK862 Na1	14.1	1.4	—	内：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ，ラン母多含む	良好	浅黄橙 7.5YR8/6	完形		030-02
400	灰釉陶器	皿	S D ～ x19 SK862 Na1	14.6	1.8	7.0	内：ロクロナデ，底部ヘラケズリ 外：ロクロナデ，底部ヘラケズリ	白色粒多量含む	良好	暗：灰黄 2.5Y7/2 底面：黒褐 5Y3/1	口縁部 3/12 底部完存		033-07
401	緑釉陶器	皿	S D ～ x19 SK862 Na1	14.8	3.0	6.6	内：ロクロナデ，全面施釉 外：ロクロナデ，全面施釉	精良	良好	暗：黒褐色 N/0 ～暗赤 10R3/3 底面：浅黄 2.5Y8/4	口縁部 3/12 底部完存		033-08
402	土師器	甲G	S D ～ x14 F2	14.8	4.0	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：ナデ	～25mm 程度多く含む	良好	浅橙 10YR8/6	11/12	口縁端部に煤付着	034-08
403	土師器	甲A	S D ～ x17 F4	14.0	2.8	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒多く，白色粒少量含む	良好	橙 7.5YR7/6	完形		034-03
404	土師器	甲A	S D ～ x17 F4	15.2	3.2	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒目立つ白色粒多含む	良好	橙 5YR6/8	6/12		034-05
405	土師器	椀A	S D ～ x17 F4	14.0	3.2	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目	赤色粒多く含む，3mm 程度黒色粒含む	良好	橙 7.5YR7/6	10/12		034-04
406	土師器	皿	S D ～ x17 F4	15.2	1.5	—	内：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，底部ナデ ハケ目	赤色粒多く，ラン母多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	10/12		034-04
407	土師器	甲A	S D ～ x17 F4	13.6	—	—	内：口縁部ヨコナデ，体部～底部ナデ ハケ目 外：口縁部ヨコナデ，体部ハケ目	白色粒多く含む	良好	浅黄橙 10YR8/4	4/12		034-07
408	緑釉陶器	皿	S D ～ x18 SK866	16.7	3.0	高台内径 8.0	内：口縁部ヨコナデ，底部ヘラケズリ 外：ロクロナデ，底部ヘラケズリ 底面：回転糸切	白色粒多く含む，精緻	良好	暗：オリーブ黒 5Y3/2 底面：にぶい黄橙 2.5Y6/3	1/12	SK866出土赤土	035-06

第Ⅱ－11表　第140次調査区出土遺物観察表（7）

調査区遠景（上空南から）



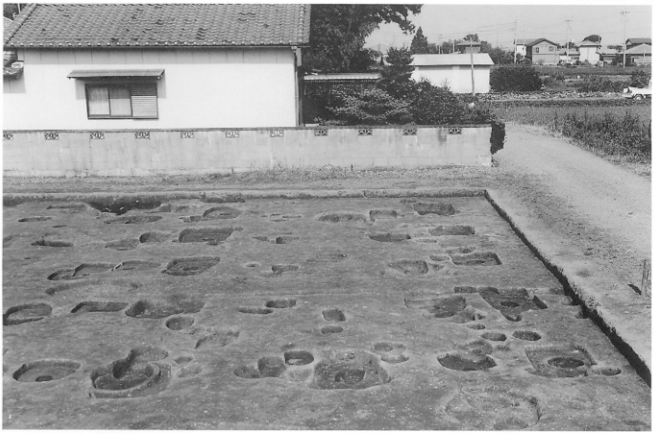
調査区全景（上空から）

調査区全景（北から）

ＳＨ 8845、ＳＫ 8846、ＳＥ 8850（北から）

ＳＢ 8854・8855（西から）

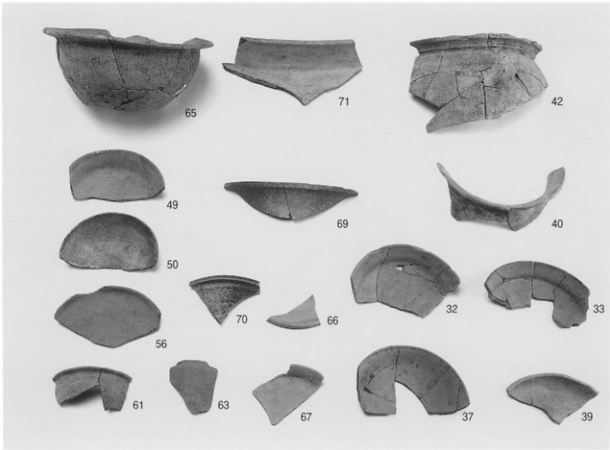
ＳＢ 8858・8859・8860（西から）

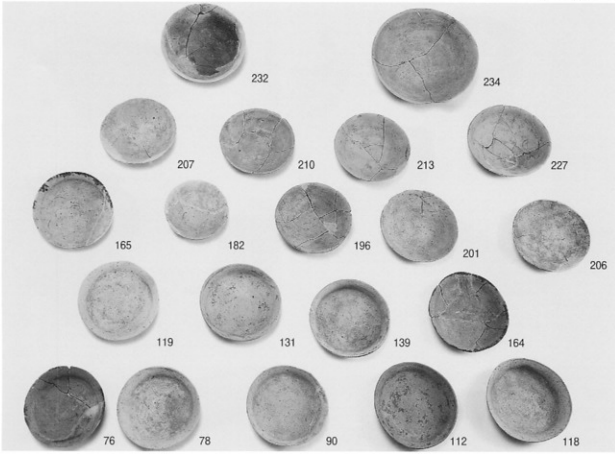


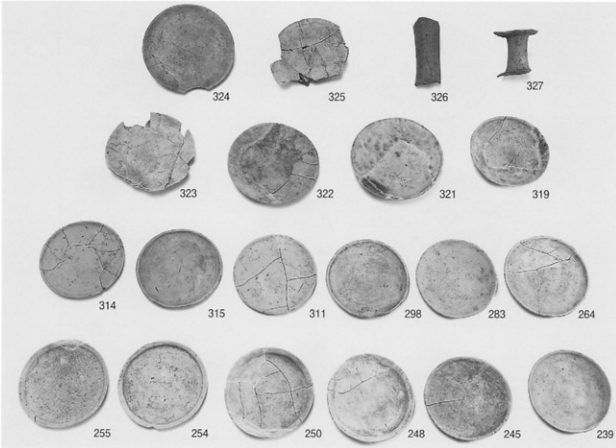
ＳＢ 8861・8862・8863（西から）

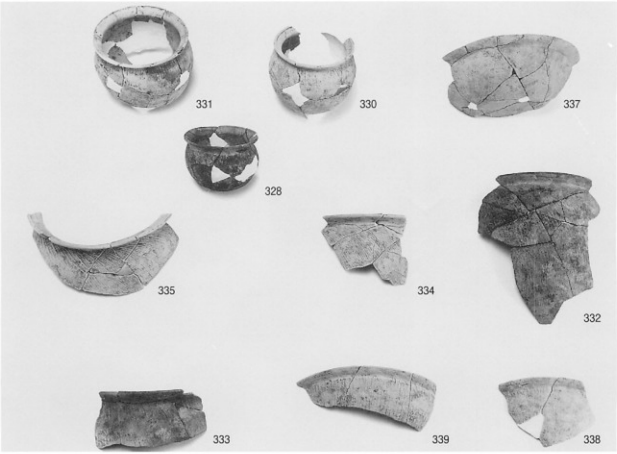
ＳＫ 8842（西から）

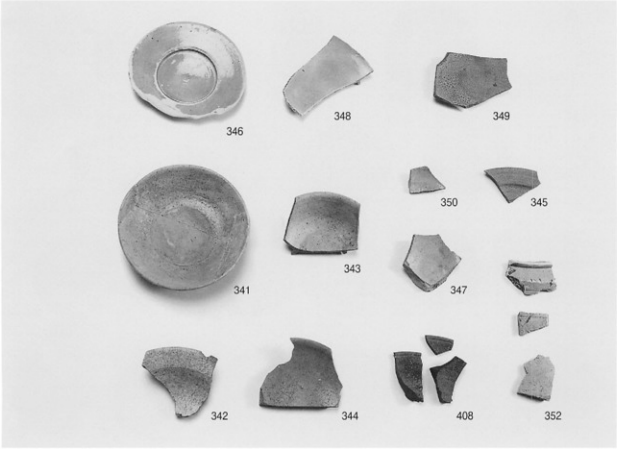
27
24
26
31
23
25
28
29
20
6
4
8
10
13


65
71
42
49
69
40
50
70
66
32
33
56
61
63
67
37
39


232
234
207
210
213
227
165
182
196
201
206
119
131
139
164
76
78
90
112
118

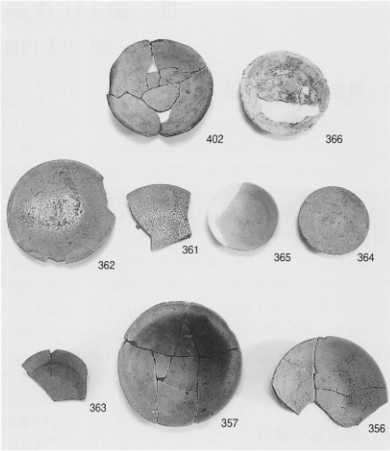

324
325
326
327
323
322
321
319
314
315
311
298
283
264
255
254
250
248
245
239

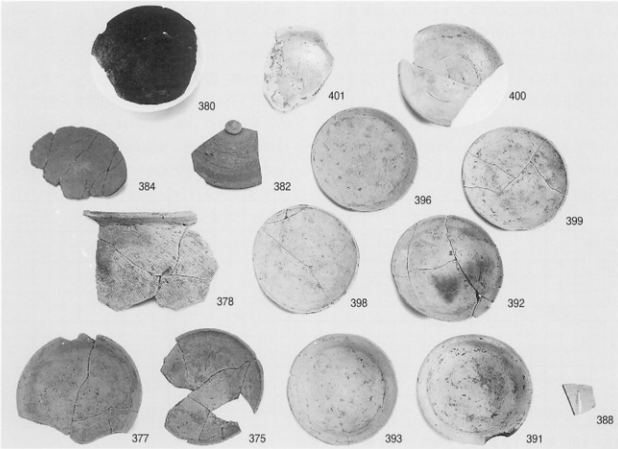

331
330
337
328
335
334
332
333
339
338


346
348
349
350
345
343
341
347
342
344
408
352

340

351


402
366
362
361
365
364
363
357
356


380
401
400
384
382
396
399
378
398
392
377
375
393
391
388

Ⅲ　第141次調査

(6AG9・H9　中垣内地区)

1　調査の経緯と経過

第141次調査は、斎宮歴史博物館から南に約500m、明和町竹川字中垣内に所在し、現況は畑地であった。一昨年度から、史跡西部地域の解明のため、調査を行っている。本調査はその2年目にあたる。第137次調査を行った部分の最も南より、さらに南の近鉄線に近い場所で調査を行った。調査区については、幅4mのトレンチとした。第Ⅵ系旧国土座標の方向に合わせて、斎宮跡で設定している大・小地区にほぼ沿うように調査区を設定した（第Ⅰ－4、Ⅲ－1図参照)。調査面積は533㎡であった。調査は、平成15（2003）年8月19日に開始し、同年11月12日に現地作業を終了した。現地説明会は同年10月25日に行い、133名の参加を得た。

2　調査区の層位

0.30～0.40m程度の耕作土を除去後、黒褐色あるいは黒色土層（10YR3/1など）を0.20～0.50m程度確認した。黒褐色土層のほぼ直下で橙色土（5YR6/6）あるいは黄褐色土（2.5Y5/6）の遺構検出面（第2検出面）を確認した。これらを検出する途上で、黒褐色土層直上の一部でも遺構を検出することができた（第1検出面)。なお、レベル的には高低があるものの時期差ではなく、遺構の確認ができるかできないかの差である。本来ならば、黒褐色あるいは黒色土上面での検出がなされなければいけないのだろうが、遺構検出面と遺構の埋土が同系統の色調であるため判別が困難なのである。また、土層の状況から、遺構検出面のレベルが西から東に徐々に低くなっていくことがわかる。

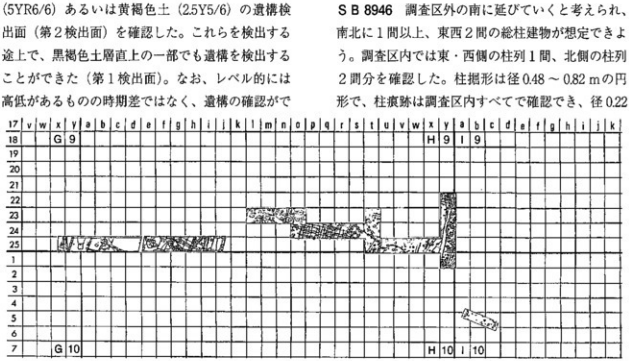
3　遺構

第141次調査では、弥生時代から中世にわたる時期の遺構を確認した。ここでは、主だった遺構を報告するにとどめ、本文中に記載がないものについては、掲載の遺構一覧表などを参照していただきたい。なお、遺構の時期を決定するにあたり、古代の土器については、斎宮編年[1]を参照し、斎宮○－○段階という表記をしている。

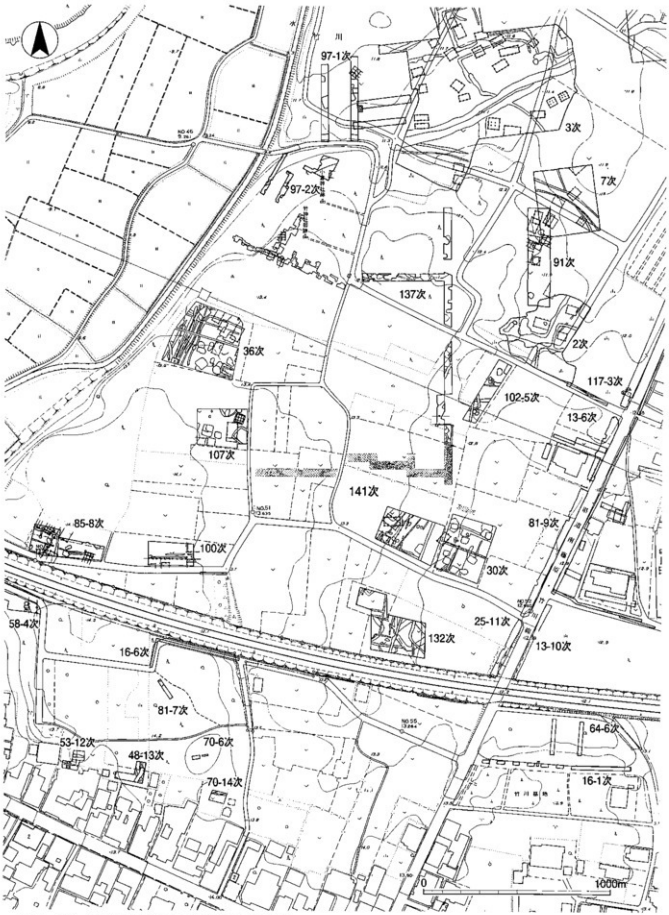
(1) 第1検出面の遺構

黒褐色土の上面で検出できた遺構群については、掘立柱建物・溝・土坑である。所属時期については、平安～中世というように時期幅がある。ここでは掘立柱建物について報告をする。

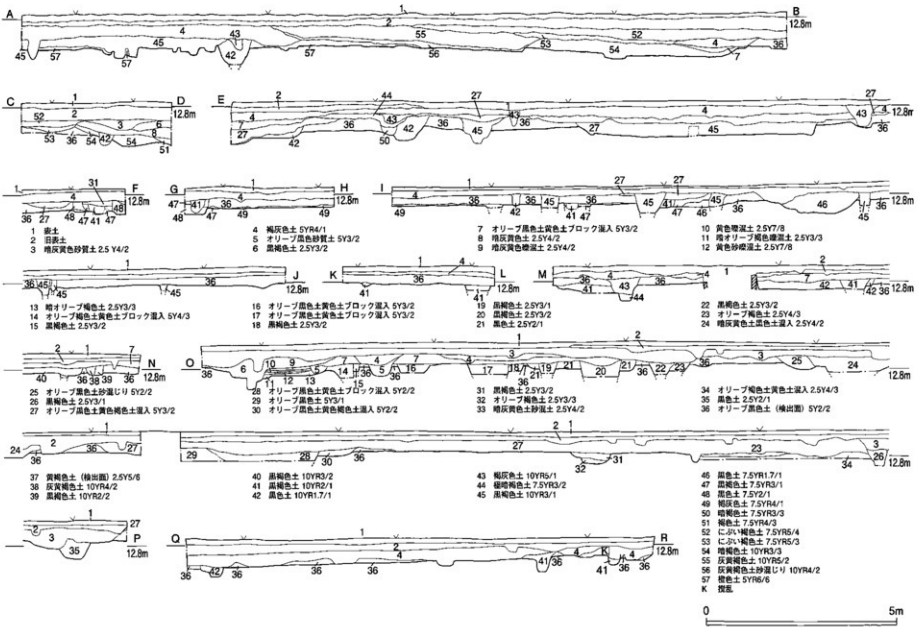
ＳＢ8946　調査区外の南に延びていくと考えられ、南北に1間以上、東西2間の総柱建物が想定できよう。調査区内では東・西側の柱列1間、北側の柱列2間分を確認した。柱掘形は径0.48～0.82mの円形で、柱痕跡は調査区内すべてで確認でき、径0.22

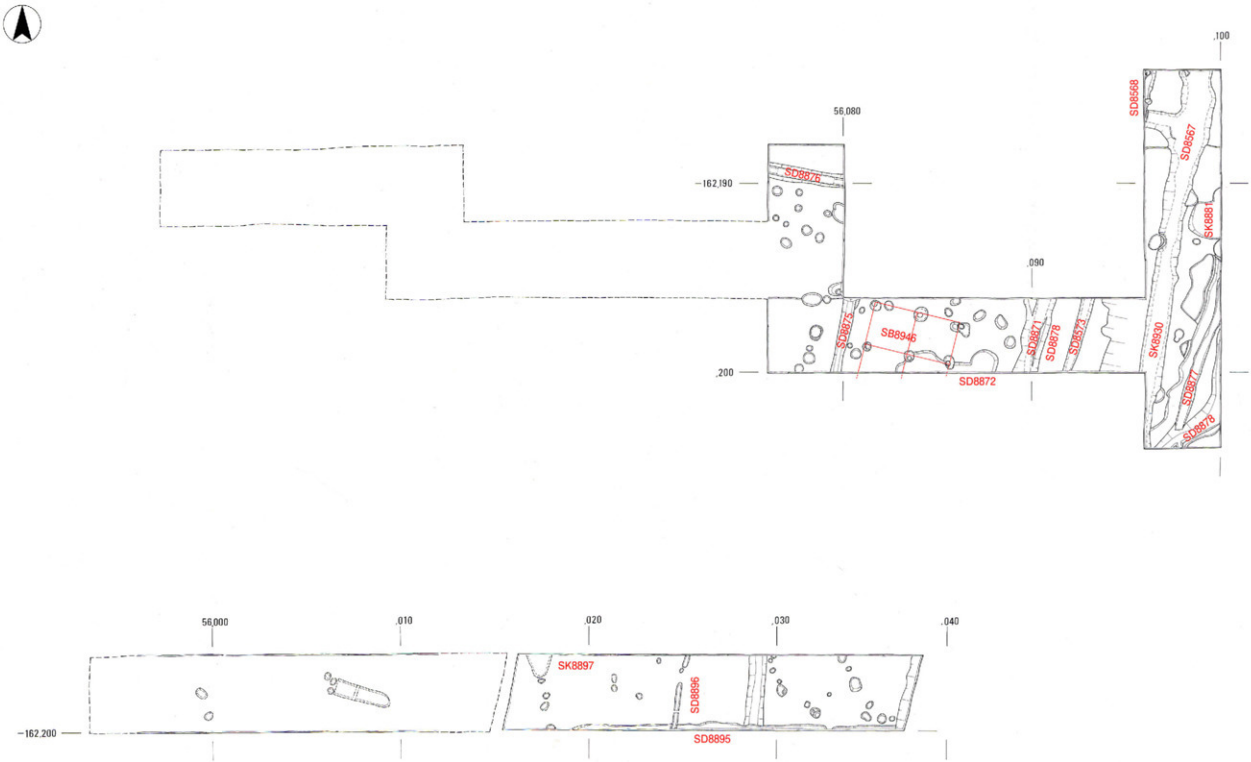


第Ⅲ－1図　第141次調査区　大地区・ｸﾞﾘｯﾄﾞ図（1：1,000)

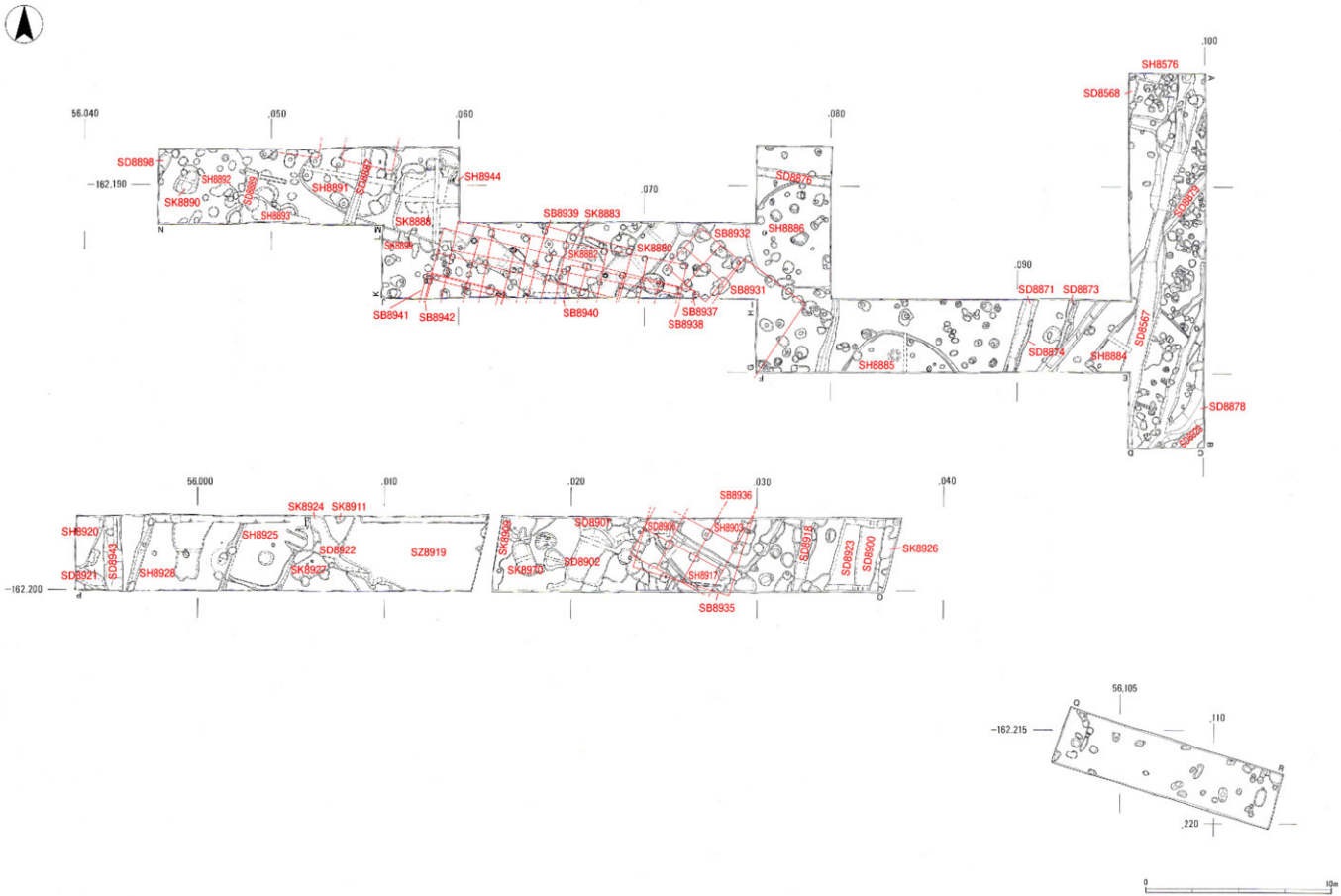


第Ⅲ－２図　第１４１次調査区　位置図（1：2,000）


1 表土
2 旧表土
3 暗灰黄色砂質土 2.5 Y4/2
4 褐灰色土 5YR4/1
5 オリーブ黒色砂質土 5Y3/2
6 黒褐色土 2.5Y3/2
7 オリーブ黒色土黄色土ブロック混入 5Y3/2
8 暗灰黄色土 2.5Y4/2
9 暗灰黄色礫混土 2.5Y4/2
10 黄色粗混土 2.5Y7/8
11 暗オリーブ褐色礫混土 2.5Y3/3
12 黄色砂礫混土 2.5Y7/8
13 暗オリーブ褐色土 2.5Y3/3
14 オリーブ褐色土黄色土ブロック混入 5Y4/3
15 黒褐色土 2.5Y3/2
16 オリーブ黒色土黄色土ブロック混入 5Y3/2
17 オリーブ黒色土黄色土ブロック混入 5Y3/2
18 黒褐色土 2.5Y3/2
19 黒褐色土 2.5Y3/1
20 黒褐色土 2.5Y3/2
21 黒色土 2.5Y2/1
22 黒褐色土 2.5Y3/2
23 オリーブ褐色土 2.5Y4/3
24 暗灰黄色土黄色土混入 2.5Y4/2
25 オリーブ黒色土砂混じり 5Y2/2
26 黒褐色土 2.5Y3/1
27 オリーブ黒色土黄色褐色土混入 5Y3/2
28 オリーブ黒色土黄色土ブロック混入 5Y2/2
29 オリーブ黒色土 5Y3/1
30 オリーブ黒色土黄色褐色土混入 5Y2/2
31 黒褐色土 2.5Y3/2
32 オリーブ褐色土 2.5Y3/3
33 暗灰黄色土砂質土 2.5Y4/2
34 オリーブ褐色土黄色土混入 2.5Y4/3
35 黒色土 2.5Y2/1
36 オリーブ黒色土（検出面）5Y2/2
37 黄褐色土（検出面）2.5Y5/6
38 灰黄褐色土 10YR4/2
39 黒褐色土 10YR2/2
40 黒褐色土 10YR3/2
41 黒褐色土 10YR2/1
42 黒色土 10YR1.7/1
43 褐灰色土 10YR5/1
44 緑暗褐色土 7.5YR3/2
45 黒褐色土 10YR3/1
46 黒色土 7.5YR1.7/1
47 黒褐色土 7.5YR3/1
48 黒色土 7.5Y2/1
49 褐灰色土 7.5YR4/1
50 暗褐色土 7.5YR3/3
51 褐色土 7.5YR4/3
52 にぶい褐色土 7.5YR5/4
53 にぶい褐色土 7.5YR5/3
54 暗褐色土 10YR3/3
55 灰黄褐色土 10YR5/2
56 灰黄褐色土砂混じり 10YR4/2
57 褐色土 5YR6/6
K 抜根
0
5m



第Ⅲ－４図　第１４１次調査区　遺構平面図　第一検出面部分（1：200）



第Ⅲ－５図　第１４１次調査区　遺構平面図　第二検出面部分（１：200）

～0.36 mの円形を呈している。柱穴からいわゆるロクロ製土師器椀が出土していることから、斎宮Ⅲ期に属するものと考えられる。

（2）第２検出面の遺構

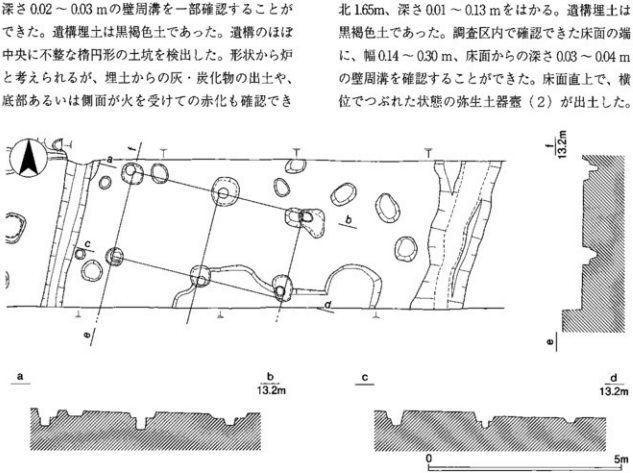
a　古代以前の遺構

ＳＨ 8885　遺構の全体は検出できなかった。調査区外の南に延びる、円形の竪穴住居と考えられる。調査区内で確認できた規模は東西 6.14m、南北 2.22m、深さ 0.16 ～ 0.26m をはかる。遺構埋土は黒褐色土であった。調査区内の床面の端には、幅 0.15 ～ 0.22 m、床面からの深さ 0.01 ～ 0.04m の壁周溝を確認することができた。遺構の埋土から弥生土器甕・壺が少量出土している。小片ばかりで判断に苦しむが弥生時代中期に属するものと思われる。

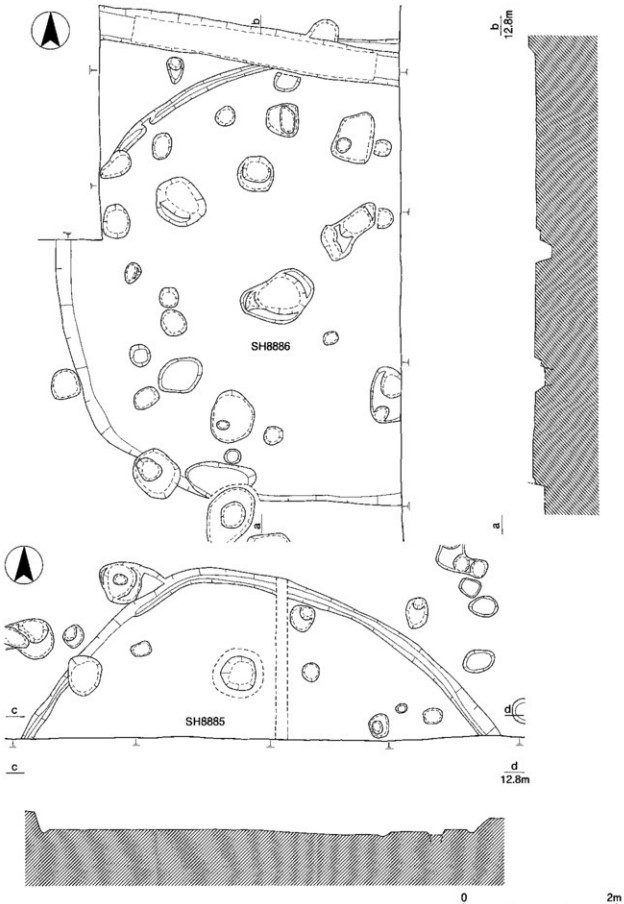
ＳＨ 8886　調査区の制約があり遺構の全体は検出できなかった。調査区の東に延びていく、円形の竪穴住居と思われる。確認できた規模は東西 4.4m、南北 5.68m、深さ 0.01 ～ 0.19 m をはかる。調査区内の床面の端には、幅 0.19 ～ 0.21 m、床面からの深さ 0.02 ～ 0.03 m の壁周溝を一部確認することができた。遺構埋土は黒褐色土であった。遺構のほぼ中央に不整な楕円形の土坑を検出した。形状から炉と考えられるが、埋土からの灰・炭化物の出土や、底部あるいは側面が火を受けての赤化も確認できなかった。遺構埋土からの遺物の出土は確認できなかったため判断に苦しむが、ＳＨ 8885 と同時期のものか。

ＳＨ 8892　調査区の制約で遺構の全てを検出するに至っていない。調査区外の南・北・西方向に延びていく。時期の新しい遺構に切られているため、形状の判別が難しいが、円形の竪穴住居と考えられる。調査区内で確認できた規模は東西 4.60m、南北 3.95m、深さ 0.09 ～ 0.25m をはかる。遺構埋土は黒褐色土であった。調査区内では壁周溝を確認することはできなかった。住居の中央と考えられる部分に楕円形のＳＫ 8890 があり、形状から炉と考えられる。埋土からの灰または炭化物の出土や、底部あるいは側面が火を受けての赤化も確認できなかった。遺構埋土から遺物の出土が確認できなかったため判断に苦しむが、形状からＳＨ 8885 と同時期であろう。

ＳＨ 8917　調査区の北側に延びていく円形の竪穴住居か。後世の遺構 SH8903、SD8906 などに切られていた。調査区内で確認できた部分は、東西 4.80m、南北 1.65m、深さ 0.01 ～ 0.13 m をはかる。遺構埋土は黒褐色土であった。調査区内で確認できた床面の端に、幅 0.14 ～ 0.30 m、床面からの深さ 0.03 ～ 0.04 m の壁周溝を確認することができた。床面直上で、横位でつぶれた状態の弥生土器甕（２）が出土した。



第Ⅲ－６図　第１４１次調査区　ＳＢ 8946 平面・断面図（１：100）



第Ⅲ－７図　第１４１次調査区　ＳＨ 8885・8886 平面・断面図（1：50）

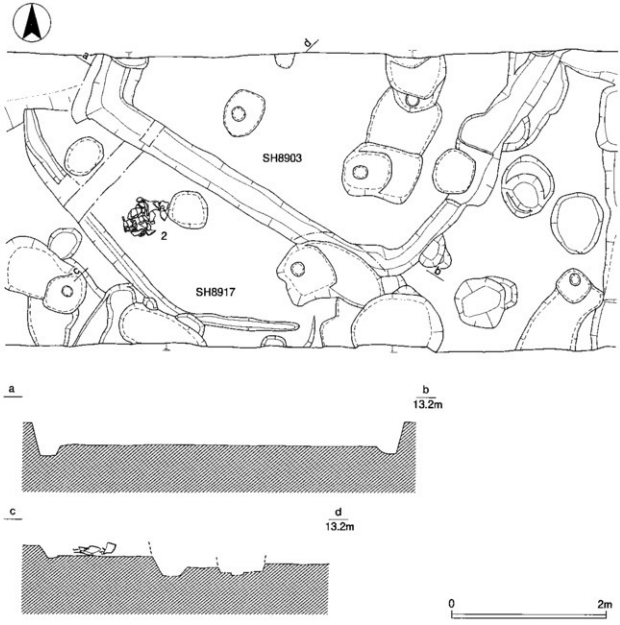
遺構の時期は弥生時代中期に属するものと思われる。

ＳＸ 8880　幅 1.81 ～ 1.92m、深さ 0.32 ～ 0.42 m の溝に囲まれた方形周溝墓と考えられる。調査区の制約もあり、全体を検出することはできなかったが、周溝の屈曲部分が掘削されないものと思われる。なお、周溝に囲まれたほぼ中央部に楕円形のＳＫ 8883 を確認した。埋土は周溝のものと同一で、主体部の可能性がある。周溝、主体部は全掘していないため遺物の出土が少ないが、前述の竪穴住居跡群と同時期と思われる。

b　古代の遺構

ＳＢ 8931　調査区内では東西２間・南北２間の柱列を確認した。柱穴については、柱掘形が長辺 0.65 ～ 0.78 m の不整円形を呈し、柱痕跡は径 0.14 ～ 0.34 m の円形で、一部の柱穴で確認することができた。調査区外の南に延びていく、桁行２間以上、梁行２間の掘立柱建物になると考えられる。柱穴からの出土遺物が少量で判断に苦しむが、斎宮Ⅱ期の範疇であろうか。柱穴の切り合いから判断すればＳＢ 8932 より新しい。

ＳＢ 8932　東西２間・南北２間の総柱建物と考えられる。建物東側の柱穴１ヶ所が未検出で、調査区外の南に延びる。柱穴については、柱掘形が長辺 0.53 ～ 0.84 m の隅丸方形あるいは楕円形を呈し、柱痕



第Ⅲ－８図　第１４１次調査区　ＳＨ 8903・8917 平面・断面図（１：50）

跡は径0.15～0.25ｍの円形で、一部の柱穴で確認することができた。出土遺物が小片ばかりで判断に苦しむが、斎宮Ⅰ期のものと考えられる。また、この建物の柱穴と重複する柱穴の存在があり、同じ場所での建て替えなどの可能性がある。

ＳＢ8933　調査区内では東西２間・南北１間分を確認した。調査区外の北側に延びる掘立柱建物と考えられる。柱穴については、柱掘形が長辺0.56～0.68ｍの隅丸方形を呈し、柱痕跡は径0.18～0.34ｍの円形で、一部の柱穴で確認することができた。東西の柱列の柱穴１ヶ所は、ＳＤ8887に切られていて検出することができなかった。出土遺物が小片ばかりで判断に苦しむが、斎宮Ⅰ期のものと思われる。

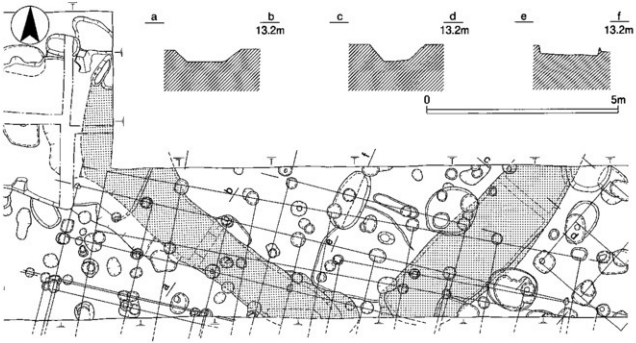
ＳＢ8934　調査区内では東西２間分を確認した。調査区外の北側に延びる掘立柱建物と考えられる。柱穴については、柱掘形が長辺0.64～0.77ｍの隅丸方形を呈し、柱痕跡は径0.19～0.20ｍの円形であることが確認できた。出土遺物が小片ばかりで判断に苦しむが、斎宮Ⅰ期のものと考えられる。

ＳＢ8935　調査区外に延びていくと考えられ、南北に３間、東西３間の掘立柱建物が想定できよう。調査区内では東・南側の柱列２間、西側の柱列１間分を確認した。柱掘形は長辺0.72～0.92ｍの隅丸方形あるいは楕円形を呈している。柱痕跡は径0.14ｍの円形を呈し、一部の柱穴で確認することができた。柱穴からの出土遺物が小片ばかりで判断に苦しむが、斎宮Ⅰ期に属するものと思われる。

ＳＢ8936　東西３間・南北３間の総柱建物が想定できよう。調査区内では北から３列目の東西束柱列については、３間分を確認することができた。柱穴については、柱掘形が長辺0.56～1.08ｍの隅丸方形あるいは楕円形を呈している。柱痕跡は径0.15～0.18ｍの円形で、一部の柱穴で確認することができた。柱穴からの出土遺物が小片ばかりで判断に苦しむが、斎宮Ⅰ－２～３段階のものと考えられる。

ＳＨ8884　後世の遺構であるＳＤ8567・8877などに切られ判別が難しいが壁周溝が残存している部分もあったので、竪穴住居と判断した。壁周溝は全周に巡っているわけではないが北・西・南辺で確認できた。幅0.21～0.40ｍ、深さは床面から0.02～0.04ｍの規模であった。平面形は、長辺4.90ｍ、短辺4.08ｍの隅の丸い長方形である。溝さは遺構検出面より0.09～0.25ｍであった。竈跡については確認することはできなかった。埋土からは、斎宮Ⅰ－２段階に属すると考えられる土師器皿・甕、弥生土器小片、炭化物を少量ではあるが確認した。

ＳＨ8888　調査区の制約があるため遺構の全部を検出することはできなかった。平面形については、

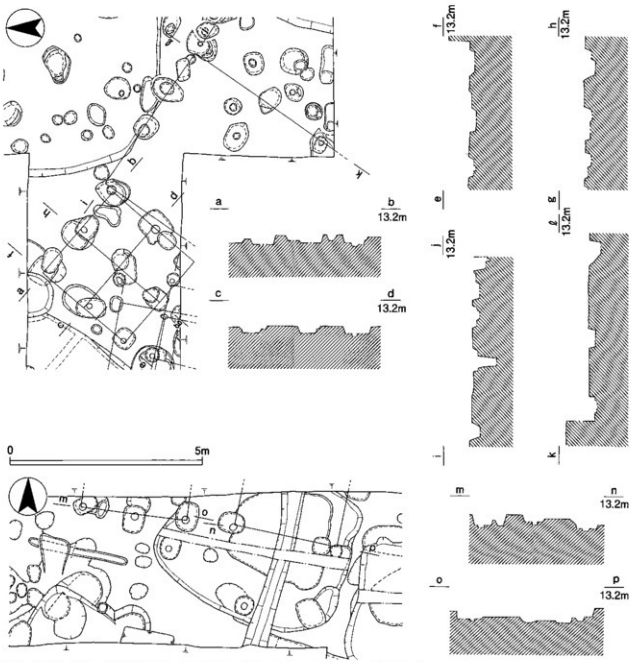


第Ⅲ－９図　第１４１次調査区　ＳＫ8883、ＳＸ8880平面・断面図（１：100）　※網点部分が周溝。

長辺4.36 m、短辺3.80 mの隅の丸い長方形である。深さは遺構検出面から0.14～0.30 mであった。壁周溝は確認することができなかった。竈跡については、北辺のほぼ中央でみられた。火熱を受け赤変している部分が北端にみられ硬化が一部ではあるが確認できた。また、竈部分から東へ約1mのところで、竈跡の半分程度をもう1基確認した。所属時期の新旧は判然としないが、竪穴住居が重複していたのであろう。埋土からは、斎宮Ⅰ－2段階と思われる土師器杯・皿・甕・高杯や須恵器杯蓋の出土を確認した。

ＳＨ8891　調査区の制約やＳＤ8887などの後世の遺構に切られているため遺構の全体を確認することはできなかったが、平面形については、長辺4.72 m、短辺3.8 mの隅の丸い長方形であろう。深さは遺構検出面より0.19～0.26 mであった。竈跡については確認することはできなかった。埋土からは、斎宮Ⅰ－2段階に属すると考えられる土師器杯・皿・甕・甑・高杯や須恵器杯・杯蓋、また弥生土器壺片が出土した。

ＳＨ8893　調査区の制約、近現代の井戸や中近世の溝に切られているため遺構の全容は判然としないが、竪穴住居跡の北西隅と思われる部分を確認する



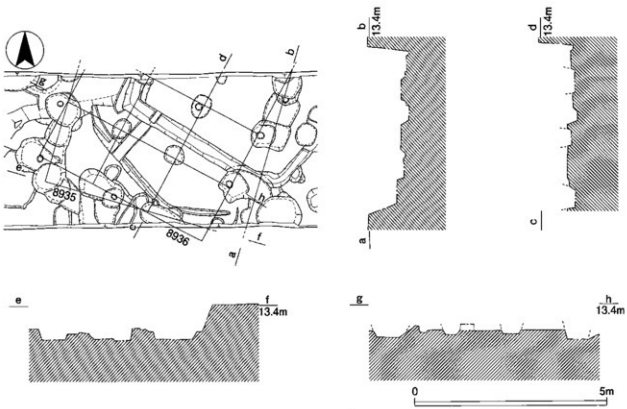
第Ⅲ－10図　第141次調査区　ＳＢ8931・8932・8933・8934平面・断面図（1：100）

ことができた。平面形は隅丸方形であろうか。東西2.24 m、南北1.70 mを確認することができた。深さは遺構検出面から0.09～0.25 mであった。壁周溝は確認することができなかった。近現代の井戸に切られる状況であるため全体は判然としないが、竈跡の基底部半分程度を確認することができた。西側の袖を補強するためであろうか、土師器甕が逆位で据え付けてあった。支柱石についても1ヶ所確認することができた。埋土からは、斎宮Ⅰ期に属すると考えられる土師器皿・甕や弥生土器壺・甕片を少量ではあるが確認した。

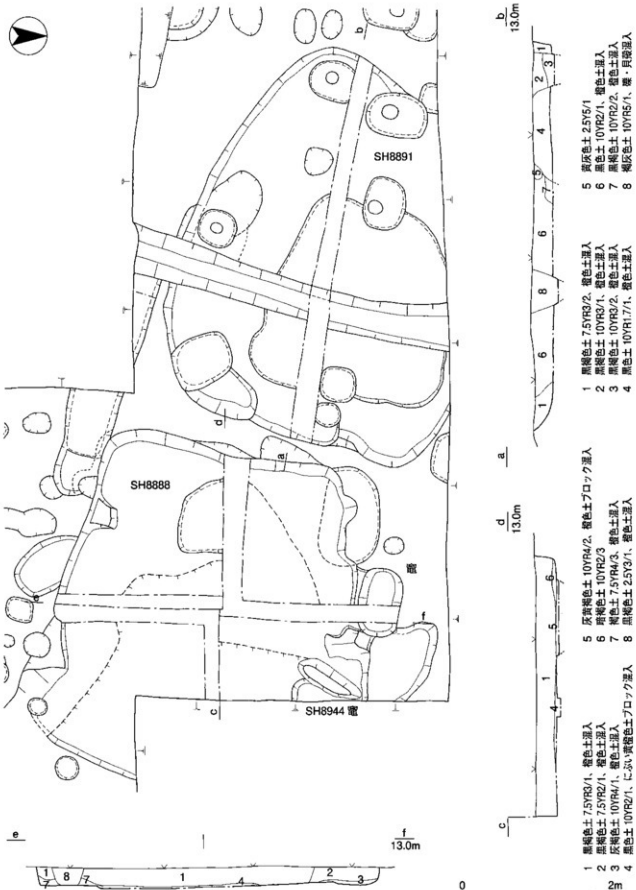
ＳＨ 8903　調査区の制約もあり、遺構の全体を確認することはできなかった。平面形は隅丸方形で、一辺4.84 mの規模がある。深さは遺構検出面より0.24～0.32 mであった。壁周溝については、調査区内で確認した部分の全てを巡っていた。幅0.30～0.48 m、深さは床面から0.08～0.11 mであった。竈跡は確認することはできなかった。埋土からは、斎宮Ⅰ－２～３段階に属すると考えられる土師器杯・甕・鍋や須恵器甕・高杯、土錘や弥生土器壺・甕片も出土した。

ＳＨ 8920　調査区の西端で一部を検出した。調査区の制約もあり、遺構の全体を確認することはできなかったが、遺構の規模や形状から竪穴住居と判断した。調査区内では住居跡の東南隅と思われる部分を確認することができた。平面形は隅丸方形であろう。東西1.32 m、南北2.8 mを検出することができた。深さは遺構検出面から0.18～0.22 mであった。壁周溝や竈跡は確認することができなかった。埋土からは、斎宮Ⅰ－３～４段階に属すると考えられる土師器杯・皿・甕、弥生土器壺片が出土した。

ＳＨ 8925　調査区の制約もあり、遺構の全ての検出はできなかった。調査区内では竪穴住居跡の東南隅と思われる部分を検出した。平面形については隅丸方形と思われる。東西3.14 m、南北4.06 mの部分を確認することができた。深さは遺構検出面から0.15～0.22 mであった。壁周溝については、調査区内で確認した部分の全てを巡っていた。幅0.30～0.36 m、深さは床面から0.18～0.38 mの規模であった。竈跡については東辺に基底部を確認することができた。埋土からは、斎宮Ⅰ－２～３段階に属すると考えられる土師器杯・皿・甕・甑が出土した。



第Ⅲ－11図　第１４１次調査区　ＳＢ 8935・8936 平面・断面図（１：100）



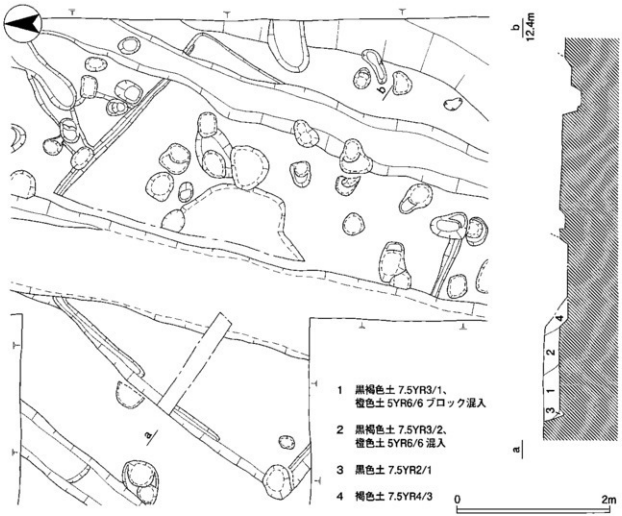
第Ⅲ－12図　第141次調査区　SH 8888・8891 平面・断面図（1：50）

なお、隣接するＳＨ 8928 に切られていた。

ＳＨ 8928　調査区の制約もあり、遺構全体を確認することはできなかった。遺構の東辺と西辺には、壁周溝と考えられる溝を確認することができた。このことや遺構の形状から、竪穴住居であると判断した。結果的に、この住居跡の中央を調査区が横断することとなった。一辺 5.90 mをはかり、深さは遺構検出面から 0.20 ～ 0.28 mであった。壁周溝については、調査区内で確認した部分の全てでみられた。幅 0.19 ～ 0.50 m、深さは床面から 0.08 ～ 0.10 mの規模であった。竈跡については東辺に確認することができたが、床面が円形に赤変していた部分と若干の窪みのみの残存状況であった。埋土からは、斎宮Ｉ－２段階に属すると考えられる土師器杯・皿・甕・甑・鍋・高杯・鍔付円筒土器や須恵器杯・甕が出土した。

ＳＦ 8945　過去の調査成果から、北は通称奈良古道の付近、南は近鉄の線路周辺にまで延びる直線的な道路遺構と考えられる。ＳＤ 8879 が西、ＳＤ 8929 が東の側溝にあたるものであろう。ＳＤ 8879 は幅 0.48 ～ 0.65 m、深さは遺構検出面から 0.25 ～ 0.54 m、一方ＳＤ 8929 は幅 0.31 m、深さは遺構検出面から 0.06 ～ 0.11 mの規模であった。ＳＤ 8929 については、後世の遺構ＳＤ 8878 などに切られていることもあって残りが良くない。ＳＤ 8879 とＳＤ 8929 の間が道路となり、溝心心 8.1 mの幅員がある。調査区内の成果や過去の調査成果においても道路の硬化面は確認されていない。ＳＤ 8879 の埋土から、斎宮Ｉ－２～３段階に属すると考えられる土師器杯・甕や須恵器甕が出土した。

ＳＺ 8919　調査区の制約もあり、遺構の全体を確認することはできなかった。また、同系統の色調の埋土であり、平面及び断面を観察しても切り合い関係が判然としなかったため、「落ち込み」とした。



第Ⅱ－13図　第１４１次調査区　ＳＨ 8884 平面・断面図（1：50）

遺物についても「落ち込み」と一括して取り上げた。埋土からは、弥生時代中期の土器から室町期までの遺物が混在している。弥生、古代、中世の遺構が複数重複していることが想定できよう。遺構群の切り合い関係については、周辺の面的調査の結果を待ちたいと思う。

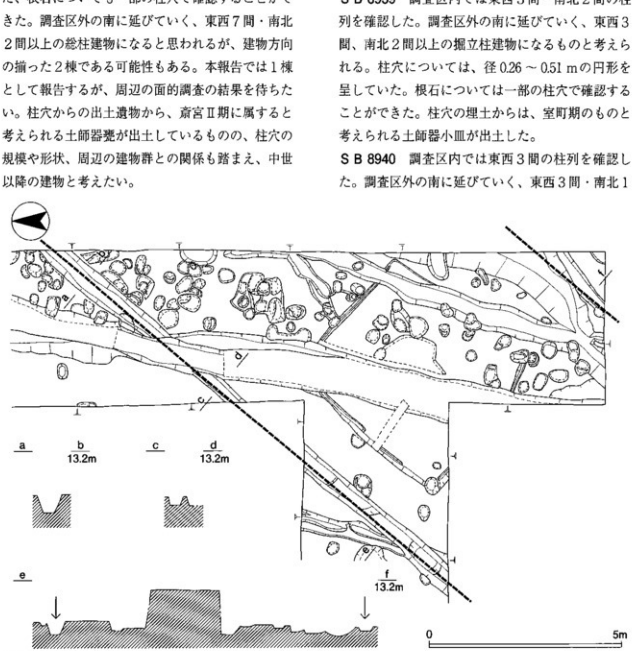
c　中世の遺構

ＳＢ 8937　調査区内では東西７間・南北２間分の柱列を確認した。柱穴については、柱掘形が径 0.21 ～ 0.44 m の円形を呈し、柱痕跡は径 0.12 ～ 0.15 m の円形で、一部の柱穴で確認することができた。また、根石についても一部の柱穴で確認することができた。調査区外の南に延びていく、東西７間・南北２間以上の総柱建物になると思われるが、建物方向の揃った２棟である可能性もある。本報告では１棟として報告するが、周辺の面的調査の結果を待ちたい。柱穴からの出土遺物から、斎宮Ⅱ期に属すると考えられる土師器甕が出土しているものの、柱穴の規模や形状、周辺の建物群との関係も踏まえ、中世以降の建物と考えたい。

ＳＢ 8938　調査区の制約で柱穴の全てを確認することはできなかった。調査区内では東西６間・南北２間分の柱列を確認した。柱穴については、径 0.26 ～ 0.51 m の円形を呈していた。柱痕跡及び根石については確認することができなかった。調査区外の南に延びていく、東西６間・南北２間以上の総柱建物になると思われるが、建物方向の揃った２棟である可能性もある。本稿では１棟として報告するが、周辺の調査の進捗を待ちたい。柱穴からの出土遺物については、室町期のものと考えられる土師器小皿片を確認した。

ＳＢ 8939　調査区内では東西３間・南北２間の柱列を確認した。調査区外の南に延びていく、東西３間、南北２間以上の掘立柱建物になるものと考えられる。柱穴については、径 0.26 ～ 0.51 m の円形を呈していた。根石については一部の柱穴で確認することができた。柱穴の埋土からは、室町期のものと考えられる土師器小皿が出土した。

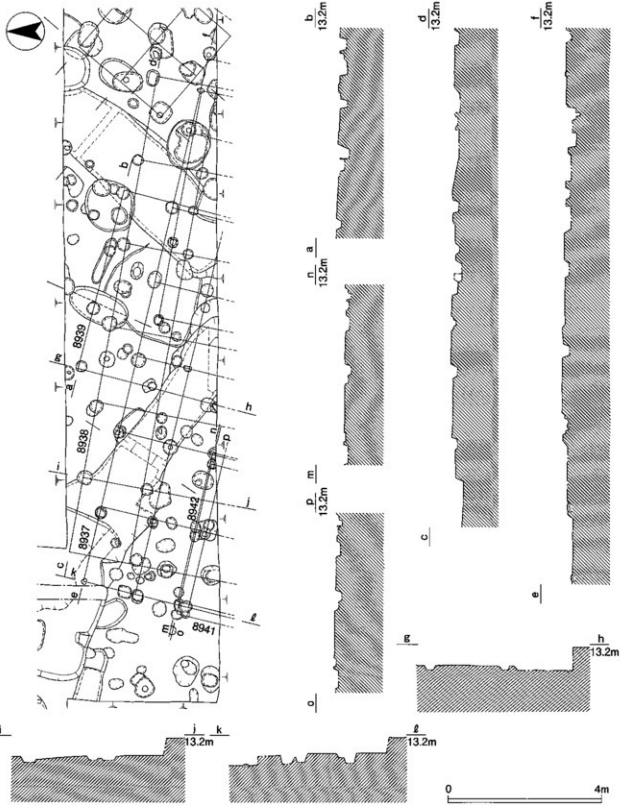
ＳＢ 8940　調査区内では東西３間の柱列を確認した。調査区外の南に延びていく、東西３間・南北１



第Ⅲ－14図　第１４１次調査区　ＳＦ 8945 平面・断面図（1：100）

間以上の掘立柱建物になると思われる。柱穴については、径0.20～0.28ｍの円形を呈し、根石についても一部の柱穴で確認することができた。建物の全容については、周辺の調査の進捗を待ちたい。調査区内の柱穴から遺物の出土がないため、所属時期の判断に苦しむが、柱穴の規模や形状、周辺の建物群との関係も踏まえ、中世以降の建物であろう。

ＳＢ 8941　調査区内では東西２間分の柱列を確認



第Ⅲ－15図　第１４１次調査区　ＳＢ 8937・8938・8939・8940・8941・8942 平面・断面図（1：100）

遺構番号	性格	次数	調査時遺構名	地区	グリッド	時期	倉宮編年	遺構の性格・遺物　・その他
SK8870	土坑	141	土坑43	H9	e25	奈良	Ⅰ	弥生土器、土師器杯・甕が出土。
SD8871	溝	141	溝1	H9	w25	室町		土師器甕・皿・小皿、須恵器杯、陶器片が出土。
SD8872	溝	141	溝2	H9	v25	平安後	Ⅲ-3	土師器皿・甕・台付皿か椀・小皿、須恵器台付杯が出土。
SD8873	溝	141	溝3	H9	x25	室町		土師器皿・甕、須恵器甕が出土。出土遺物の時期幅あり。
SD8874	溝	141	溝4	H9	w25	平安末～室町		土師器小皿・甕・南伊勢系皿、陶器片、山茶椀が出土。
SD8567	溝	137	溝5	H9・10	y22～y1	鎌倉		土師器甕が出土。出土遺物の時期幅あり。
SD8875	溝	141	溝6	H9	u25	室町		土師器甕・杯・南伊勢系皿、土錘、陶器片が出土。
SD8876	溝	141	溝7	H9	t23	室町		土師器甕・皿・南伊勢系小皿、須恵器小片が出土。
SD8877	溝	141	溝8	H9・10	y24～y1	中世？		遺物なし。
SD8878	溝	141	溝9	H9・10	y25～y1	中世？		遺物なし。
SD8568	溝	137	溝10	H9	y22	古代～鎌倉		山茶椀、陶器片が出土。
SD8879	溝	141	溝11	H9	x25～x5	奈良前～中	Ⅰ-2～3	土師器甕、須恵器瓶・甕、弥生土器片が出土。西側道路側溝。
SX8880	方形周溝墓	141	周溝墓12	H9	q24～r24	弥生中期		弥生土器甕・壺が出土。
SK8881	土坑	141	土坑61	H9	y23～y4	室町		土師器甕・甕、南伊勢系鍋、陶器が出土。
SK8882	土坑	141	土坑14	H9	q24	鎌倉		土師器皿、須恵器杯蓋、陶器片、山茶椀、南伊勢系皿・小皿が出土。
SK8883	土坑	141	土坑15	H9	q24	弥生中期		方形周溝墓の主体部？
SD8887	溝	141	溝19	H9	n23	鎌倉～室町		山茶椀（6～7型式）、土師器（南伊勢系）鍋体部・皿・小皿が出土。
SD8889	溝	141	溝21	H9	m23	中世？		SH8892を切る。攪側中に消滅。
SK8890	土坑	141	土坑22	H9	l23	奈良	Ⅰ	弥生壺、土師器甕、須恵器杯が出土。
SD8894	溝	141	溝26	H9	i25・j25	奈良	Ⅰ	土師器皿・甕が出土。
SD8895	溝	141	溝27	H9	e25～f25	奈良前～中	Ⅰ-2～3	土師器皿・甕、須恵器蓋が出土。
SD8896	溝	141	溝28	H9	g25	奈良	Ⅰ	土師器杯小片、弥生小片が出土。
SK8897	土坑	141	土坑29	H9	e25	中世		土師器甕、陶器片が出土。
SD8898	溝	141	溝30	H9	l23	奈良	Ⅰ	弥生小片、土師器甕が出土。
SK8899	土坑	141	土坑31	H9	o24	奈良	Ⅰ	土師器甕・杯、弥生壺・甕が出土。
SD8900	溝	141	溝32	H9	j25	鎌倉～室町		土師器皿、山茶椀（6型式）、陶器片が出土。
SD8901	溝	141	溝33	H9	h25	中世？		SH8903・8917を切る。調査中に消滅。
SD8902	溝	141	溝34	H9	h25	奈良前～中	Ⅰ-2～3	土師器杯・皿・高杯が出土。
SK8904	土坑	141	土坑36	H9	g25	奈良	Ⅰ	土師器杯・甕が出土。調査中に SB8936 を構成する柱穴に。
SK8905	土坑	141	土坑37	H9	g25	奈良	Ⅰ	土師器甕、須恵器小片が出土。調査中に消滅。
SD8906	溝	141	溝38	H9	f25	奈良	Ⅰ	土師器甕が出土。調査中に SB8936 を構成する柱穴に。
SD8907	溝	141	溝39	H9	f25・g25	奈良前	Ⅰ-2	土師器皿・甕・鍋、弥生壺・甕が出土。SD8906と同一か。
SK8908	土坑	141	土坑40	H9	f25	奈良		SB8935を構成する柱穴に。
SK8909	土坑	141	土坑41	H9	e25	奈良中～後	Ⅰ-3～4	土師器鍋・杯、須恵器甕・杯蓋が出土。
SK8910	土坑	141	土坑42	H9	c25	奈良～鎌倉		土師器甕・皿、須恵器杯、山茶椀が出土。
SK8911	土坑	141	土坑43	H9	b25	平安後	Ⅲ-3	土師器甕・杯、弥生甕・壺が出土。
SD8912	溝	141	溝44	H9	a25	奈良	Ⅰ	土師器甕・皿が出土。
SD8913	溝	141	溝45	H9	a25	奈良	Ⅰ-2	土師器甕・杯・皿、須恵器台付杯・甕・杯蓋・壺が出土。調査中に消滅。
SD8914	溝	141	溝46	H9	x25	奈良	Ⅰ-2	土師器皿・甕、須恵器杯・甕が出土。調査中に消滅。
SD8915	溝	141	溝47	H9	x25	奈良	Ⅰ-2～3	土師器杯蓋・甕、須恵器甕体部片が出土。調査中に消滅。
SK8916	土坑	141	土坑48	H9	f25	奈良	Ⅰ	弥生壺、土師器甕が出土。調査中に SB8936 を構成する柱穴に。
SD8918	溝	141	溝50	H9	i25	鎌倉		土師器甕・皿、山茶椀（6～7型式）が出土。
SZ8919	落ち込み	141	落ち込み51	H9	b25	弥生中期～室町		土師器長胴甕・甕・杯蓋・杯・皿・鍋、須恵器甕・杯・壺・杯蓋が出土。複数の遺構の重複。出土遺物の時期幅あり。
SD8921	溝	141	溝53	G9	x25	中世？		遺物なし。
SD8922	溝	141	溝54	H9	a25・b25	奈良前～中	Ⅰ-2～3	土師器高杯、須恵器杯蓋が出土。
SD8923	溝	141	溝55	H9	i25	奈良	Ⅰ	土師器甕・皿が出土。
SK8924	土坑	141	土坑56	H9	b25	奈良	Ⅰ	土師器甕・杯が出土。
SK8926	土坑	141	土坑58	H9	j25	奈良	Ⅰ-2～3	土師器甕・皿が出土。
SK8927	土坑	141	土坑59	H9	b25	弥生		弥生土器甕が出土。
SD8929	土坑	141	溝13	H10	y1	奈良	Ⅰ	遺物なし。東側道路側溝。
SK8930	土坑	141	土坑62	H9	x25	鎌倉		土師器皿・甕、山茶椀（6型式）が出土。
SD8943	溝	141	溝78	G9	x25	不明		遺物なし。
SF8945	道路	141		H9・10	x5～x5 y1	奈良	Ⅰ-2～3	SD8879・8929が側溝に相当。

第Ⅲ－1表　第141次調査区遺構一覧表

通番 遺構番号	調査時 番号	地区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	規模（m） （東西×南北）	建物方向 （北から）	深さ（m）	柱穴	カマド	時期	斎宮編年	特記事項
S H 8884	竪穴 16	H9	x25 ～ y25	4.08 × 4.90	N39.2° E	0.09 ～ 0.25	-	-	奈良前	Ⅰ・2	土師器甕・皿、弥生片、炭化物が出土。
S H 8885	竪穴 17	H9	u25 ～ v25	6.14 × 2.22+		0.16 ～ 0.26	-	-	弥生		弥生土器壺が出土。壁周溝検出。
S H 8886	竪穴 18	H9	s24 t23 ～ 24	4.68+ × 4.52+		0.01 ～ 0.19	-	-	弥生		壁周溝及び炉跡検出。
S H 8888	竪穴 20	H9	o23 ～ 24	4.36 × 3.8	N18.0° E	0.14 ～ 0.30	-	北	奈良前	Ⅰ・2	土師器甕・皿・高杯、須恵器杯蓋が出土。
S H 8891	竪穴 23	H9	n23 ～ o23	4.72 × 3.98	N18.0° E	0.19 ～ 0.26	-	-	奈良前	Ⅰ・2	土師器杯・皿・高杯・甕・甑、須恵器杯蓋・杯、弥生土器壺が出土。
S H 8892	竪穴 24	H9	m23	4.6+ × 3.95+		0.03 ～ 0.06	-	-	弥生		遺物少量。炉跡検出。泥入遺物あり。
S H 8893	竪穴 25	H9	t23 ～ m23	2.24+ × 1.70+	N34.4° E	0.09 ～ 0.25	-	北東	奈良	Ⅰ	土師器皿・甕、弥生土器壺・甕が出土。
S H 8903	竪穴 35	H9	h25	4.84 × 3.82+	N31.2° E	0.24 ～ 0.32	-	-	奈良前～中	Ⅰ・2～3	土師器甕・杯・鍋、須恵器高杯・甕、弥生土器片、土錘が出土。
S H 8917	竪穴 49	H9	g25	4.0+ × 1.65+		0.01 ～ 0.13	-	-	弥生中期		弥生土器壺、土師器杯・甑・甕が出土。
S H 8920	竪穴 52	G9	x25	1.32+ × 2.80+	N21.0° E	0.18 ～ 0.22	-	-	奈良中～後	Ⅰ・3～4	弥生土器壺、土師器杯・甕が出土。
S H 8925	竪穴 57	H9	a25 ～ b25	3.14+ × 4.06	N16.3° E	0.20 ～ 0.22	-	南東	奈良前～中	Ⅰ・2～3	土師器杯・皿・甕・甑が出土。
S H 8928	竪穴 60	H9	a25	5.04 × 4.12+	N16.1° E	0.20 ～ 0.28	-	南東	奈良前	Ⅰ－2	土師器皿・杯・高杯・甕・甑・鍋、須恵器甕・杯が出土。
S H 8576	H9y22pit	H9	y22	3.00 × 3.00	N41.0° E	0.20 ～ 0.22	-	南？	奈良	Ⅰ	第 137 次調査で検出。
S H 8944	-	H9	o23 ～ 24	×	-	-	-	○	奈良？		カマドのみ検出。S H 8888 と重複。

第Ⅲ－２表　第１４１次調査区竪穴住居一覧表

通番 遺構名	整理時 遺構名	地区	グリッド	ピット番号	ピット遺物の時期	建物 時期	規模 東西間(m)×南北間(m)	柱間 (東西－南北)	主軸	方位 (N 基準)	備　考
SB8931	掘立柱建物 66	H9	r24	pit12	Ⅱの範疇	Ⅱ？	2(4.2)×2+(4.2)	2.1-2.1	南北	N34.5° E	SB8932 より新しい。
			r25	pit9							
			s24	pit2							
SB8932	掘立柱建物 67	H9	s24	pit4・5・7・10・11・14	pit14：Ⅰの範疇	Ⅰ	2(2.8)×2(2.8)	1.4-1.4			総柱建物
SB8933	掘立柱建物 68	H9	n23	pit10	Ⅰの範疇	Ⅰ	2(2.8)×1+(1.4)	1.4-1.4			
			o23	pit3	Ⅰの範疇						
SB8934	掘立柱建物 69	H9	m23	pit2・8	Ⅰの範疇	Ⅰ	2(2.8)×＊	1.4・＊			
SB8935	掘立柱建物 70	H9	f25	pit7・10、SK8908	Ⅰの範疇	Ⅰ	3(5.4)×3(4.5)	1.8-1.5			
			h25	pit15・16・17	Ⅰの範疇						
SB8936	掘立柱建物 71	H9	f25	pit9・11、SK8916、SD8906	Ⅰの範疇	Ⅰ・2～3	3(4.8)×3(4.8)	1.6-1.6			総柱建物
			g25	pit11・17・19、SK8904	Ⅰ・2～3						
			h25	pit14	Ⅰの範疇						
SB8937	掘立柱建物 72	H9	p24	pit17		中世	7(14.0)×2+(2.8)	2.0-1.4	東西	N13.5° E	総柱建物
			q24	pit5							
			r24	pit3	pit16：Ⅲの範疇						
			s24	pit12							
SB8938	掘立柱建物 73	H9	o24	pit21・24	pit21：土師器小皿、室町	室町	6(12.6)×2+(3.4)	1.6-2.0-2.2	東西	N10.3° E	総柱建物
			p24	pit3							
			q24	pit7・13	pit13：土師器小皿、室町						
			r24	pit19	pit19：土師器小皿、室町						
SB8939	掘立柱建物 74	H9	q24	pit8・10・15・17	pit17：土師器小皿、室町	室町	3(4.8)×2+(3.6)	1.6-1.6・2.0	南北	N14.4° E	総柱建物
SB8940	掘立柱建物 75	H9	r24	pit9	pit9：土師器小皿	中世	4(8.0)＋×＊	2.0・＊	東西	N11.0° E	
SB8941	掘立柱建物 76	H9	o24	pit25		中世	2(4.0)＋×＊	2.0・＊	東西	N13.5° E	
SB8942	掘立柱建物 77	H9	p24	pit15・19		中世	2(4.0)＋×＊	2.0・＊	東西	N13.5° E	
SB8946	掘立柱建物 65	H9	o25	pit2・4		Ⅲ	2(4.6)×1+(2.3)	2.3-2.3	南北	N13.9° E	総柱建物
			v25	pit5・6	pit5：ロクロ製土師器椀、Ⅲ期						

第Ⅲ－３表　第１４１次調査区掘立柱建物一覧表

した。調査区外の南に延びていく、東西２間・南北１間以上の掘立柱建物になると思われる。柱穴については、径 0.20 ～ 0.28 m の円形を呈していた。根石については一部の柱穴で確認することができた。建物の全容については、周辺の面的調査の成果を待ちたいと思う。調査区内の柱穴から遺物の出土がないため、所属時期の判断に苦しむが、柱穴の規模や形状、周辺の建物群との関係も踏まえ、中世以降の建物と思われる。

ＳＢ 8942　調査区内では東西２間分の柱列を確認した。柱穴については、径 0.20 ～ 0.28 m の円形を呈していた。調査区外の南に延びていく、東西２間・南北１間以上の掘立柱建物になると思われる。建物の全容については、周辺の調査の進捗を待ちたいと思う。調査区内の柱穴から遺物の出土がないため、所属時期の判断に苦しむが、柱穴の規模や形状、周辺の建物群との関係も踏まえ、中世以降の建物と考えたい。

4　遺物

第 141 次調査区からの出土遺物は、整理箱に換算して約 70 箱である。内訳は大部分が土器類で、石器、金属製品が少量出土している。

ここでは、主だった遺物について、斎宮分類・編年及び平城・長岡・平安京における編年を参照している[23]。

ＳＨ 8885 出土遺物（１）　底部にまでミガキがみられる弥生土器壺か。弥生時代中期に属するものであろう。

ＳＨ 8917 出土遺物（２）　頸部には櫛状工具による直線文、体部上半には流水状の文様が施されている弥生土器壺である。伊勢Ⅲ様式前半[33]に属するものと考えられる。

ＳＨ 8917 出土遺物（３）　口縁部直下から頸部上半にかけて、櫛状工具による直線文が施されている弥生土器壺である。伊勢Ⅲ様式に比定できよう。

ＳＨ 8888 出土遺物（４～７）　４は土師器杯Ｇである。口縁部がやや内弯気味のものである。５は土師器皿Ｂ。器面の残存が良好でないため調整は判然としない。６は土師器甕Ａ。口縁端部に面がみられる。小形甕である。７は須恵器杯蓋である。口縁部に小さいカエリがみられる。これらは、斎宮Ⅰ－２段階に相当するものと考えられる。

ＳＨ 8891 出土遺物（８～14）　８は底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がる土師器杯Ｇ。９は土師器皿Ｂ。器面の残存が良好でないため調整は判然としない。10 は口縁端部に面取りがみられる土師器甕Ａである。11 は土師器甑の体部下半から底部にかけてのものである。12 は口縁端部が直立気味の須恵器杯蓋である。13 は須恵器杯Ｇ。底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がる。在地系のものと考えられる。14 は高台の付く須恵器壺Ｋの底部片である。これらは、斎宮Ⅰ－２段階に比定できよう。

ＳＨ 8892 出土遺物（15）　底部がやや丸みをもち、口縁端部がやや外反する須恵器杯Ａである。斎宮Ⅰ－２～３段階のものと思われる。混入遺物である。

ＳＨ 8903 出土遺物（16 ～ 21）　16 は土師器杯Ｇ。口縁部がやや内弯気味のものである。17 は土師器甕Ｃか。口縁部が大きく外反し、端部には面がみられる。18 は口縁端部に面取りがみられる土師器鍋Ａと考えられる。19 は口縁端部が少し外反し、底部から口縁部にかけてやや丸みのある須恵器杯である。これらは、斎宮Ⅰ－２～３段階に相当しよう。20 は球形の土玉である。21 は円筒状の土製土錘である。

ＳＨ 8925 出土遺物（22 ～ 26）　22 は口縁部が外傾気味の土師器皿Ａである。23 は底部から口縁部にかけてがやや内弯気味の土師器杯Ｇである。24 は口縁部が大きく外反し体部が丸く張り出す小形の土師器甕Ａである。これらは、斎宮Ⅰ－２段階に比定できよう。25 は口縁部にカエリがみられる須恵器杯蓋。美濃須衛窯産か。26 は須恵器平瓶である。丸みを帯びた体部から斜め上方に口縁部が外反気味に斜位に延びる。風船技法により製作されたものである[4]。これらは７世紀末のものと思われる。

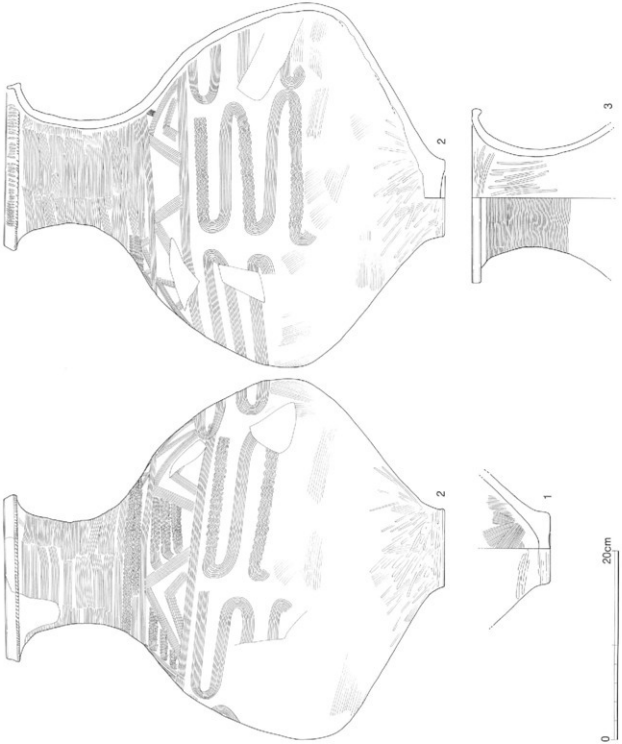
ＳＨ 8928 出土遺物（27・28）　27 は土師器皿の底部であろうか。底部外面に線刻がみられるが小片であるため全容は不明である。28 は口縁部から体部上半にかけて直線的な土師器甑である。これらは、斎宮Ⅰ－２段階のものと思われる。

ＳＨ 8920 出土遺物（29・30）　29 は底部から口縁部が内弯気味にたちあがる土師器杯Ｇである。30 は小形の土師器甕Ａである。口縁部の屈曲はそれほ

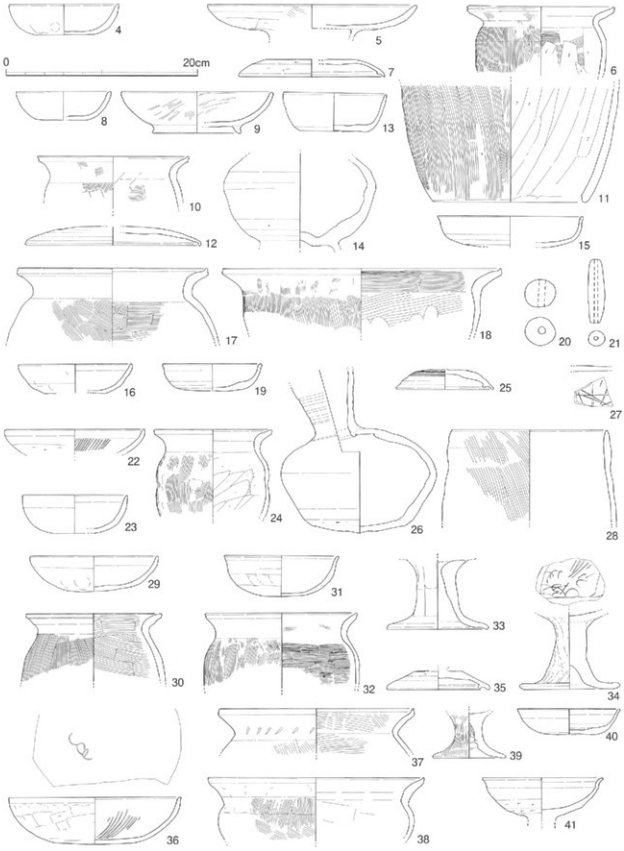
ど強くない。これらは、斎宮Ⅰ－３～４段階に相当しよう。

ＳＫ 8909 出土遺物（31 ～ 33） 31 は底部から口縁部にかけてが内弯気味にたちあがる土師器杯Ｇである。32 は小形の土師器甕Ａである。口縁部の屈曲はそれほど強くない。33 は土師器高杯の脚部である。脚内は中空で、裾部は水平に延びる。これらは、斎宮Ⅰ－３～４段階に比定できよう。

ＳＤ 8922 出土遺物（34･35） 34 は高杯脚部である。脚内は中実で、裾部は水平に延び、端部は上方に若干反る。杯部の内面には放射状暗文と螺旋状暗文が施されている。35 は口縁部にカエリがみられる須恵器杯蓋。これらは、斎宮Ⅰ－２～３段階に比定できよう。

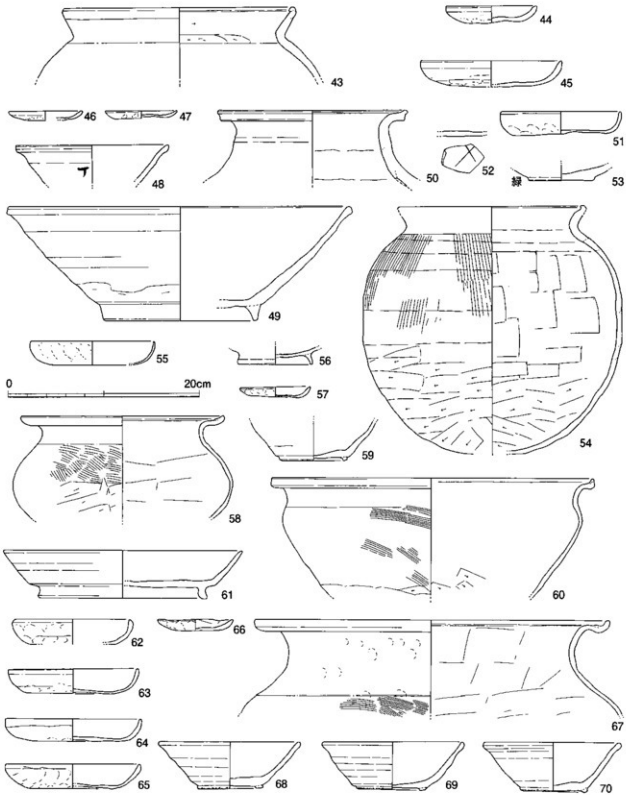


第Ⅲ－16図　第１４１次調査区　出土遺物実測図（1）（1：4）



4～7：ＳＨ 8888　8～14：ＳＨ 8891　15：ＳＨ 8892　16～21：ＳＨ 8903
22～26：ＳＨ 8925　27・28：ＳＨ 8928　29・30：ＳＨ 8920　31～33：ＳＫ 8909
34・35：ＳＤ 8922　36～41：ＳＤ 8902　42：ＳＤ 8907

第Ⅲ－17図　第１４１次調査区　出土遺物実測図（2）（1：4）



43：ＳＫ８９１１　44：ＳＤ８８７２　45：ＳＢ８９３８　46～50：ＳＫ８８８２　51～54：ＳＤ８５６７
55～56：ＳＤ８８７３　57～59：ＳＤ８８７４　60：ＳＤ８８７５　61～70：ＳＤ８８８７

第Ⅲ－18図　第１４１次調査区　出土遺物実測図（3）（1：4）

ＳＤ 8902 出土遺物（36～41）　36 は土師器杯Ｃである。器面の残りは良好でないが、口縁部直下の外面にケズリ、内面の底部近くにミガキがみられる。37 は口縁部が外反し、端部には面取りがみられる土師器甕Ｃであろうか。38 は土師器甕Ａ。口縁部が若干外傾気味で、体部が球形になるものである。39 は高杯脚部である。脚内は中空で、裾部は徐々に広がっていくものである。外面にはハケメが施されている。40 は須恵器杯Ｇである。41 は口縁部が外反する須恵器高杯杯部である。これらは、斎宮Ⅰ－２～３段階の範疇と考えられるが、41 は時期が遡るものか。

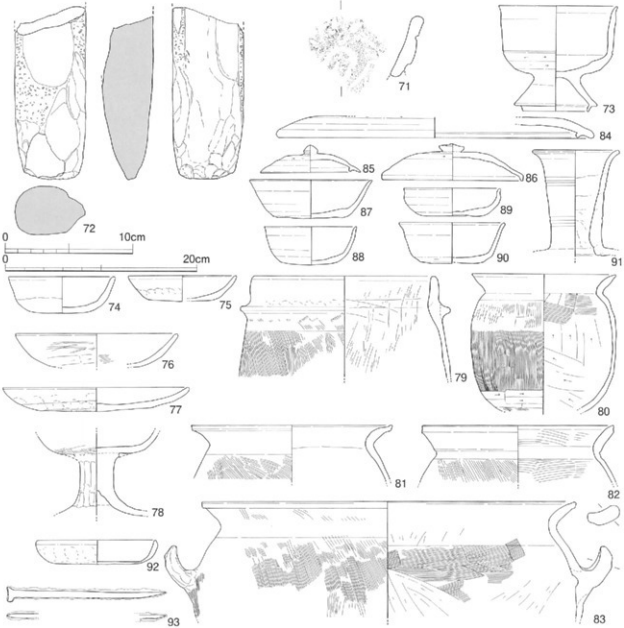
ＳＤ 8907 出土遺物（42）　口縁部が外傾気味の土師器杯Ｇである。斎宮Ⅰ－２段階に相当するものであろう。

ＳＫ 8911 出土遺物（43）　口縁端部が内側に巻き込むように肥厚している土師器甕である。斎宮Ⅲ－３段階に比定できよう。

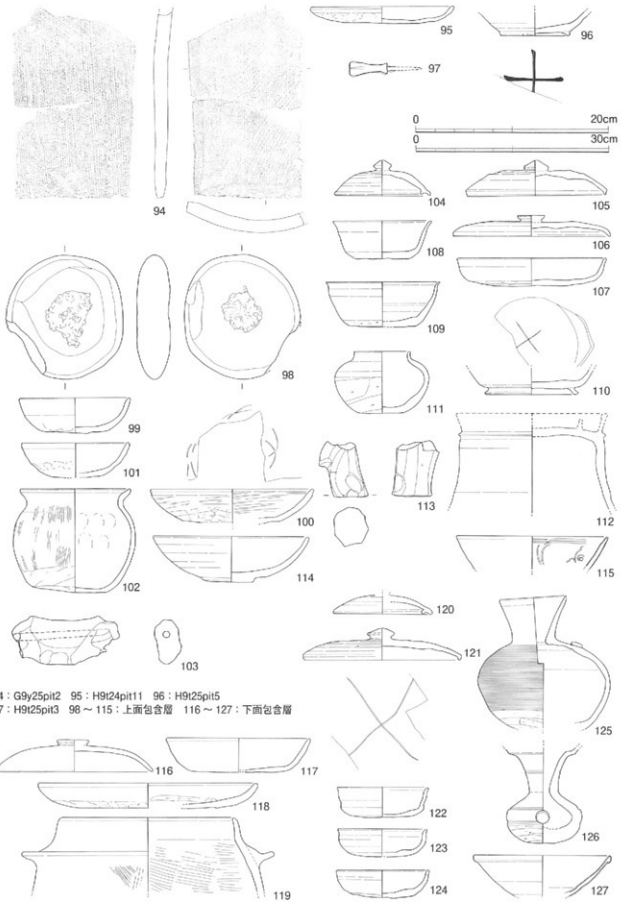
ＳＤ 8872 出土遺物（44）　粗製の土師器皿である。斎宮Ⅲ－３段階のものと思われる。

ＳＢ 8938 出土遺物（45）　口縁部ヨコナデの粗製の土師器皿である。斎宮Ⅲ－３段階に属するものと考えられる。遺構の時期より遡るものである。

ＳＫ 8882 出土遺物（46～49）　46・47 は底部か



第Ⅲ－19図　第141次調査区　出土遺物実測図（4）（1：4、71は1：3、ＳＺ 8919 出土）



94：G9y25pit2　95：H9t24pit11　96：H9t25pit5
97：H9t25pit3　98～115：上面包含層　116～127：下面包含層

第Ⅲ－20図　第141次調査区　出土遺物実測図（5）（1：4、94は1：6）

ら口縁部にかけて直線的に外反する薄手の土師器皿である。48は底部から口縁部にかけて直線的に外反する通称「山茶椀」といわれている陶器椀である。藤澤編年6型式に[5]相当しよう。49は陶器練鉢である。これらは、概ね13世紀前半に属するものと考えられる。50は常滑産壺の口縁部付近のものである。時期は若干遡るものか。

ＳＤ8567出土遺物（51～54） 51は底部から口縁部にかけて内弯している土師器皿である。器壁が非常に薄いものである。伊藤編年Ⅱｂ期[6]に相当しよう。52は底部外面に線刻がみられる土師器皿である。斎宮Ⅰ期の範疇のものであろう。53は緑釉陶器の底部片である。皿の類か。斎宮Ⅱ期に属するものと考えられる。54は口縁端部が内側に巻き込むように肥厚している土師器甕である。斎宮Ⅲ－３段階に相当するものか。

ＳＤ8873出土遺物（55・56） 55は底部から口縁部にかけて内弯している土師器皿である。器壁が非常に薄い。伊藤編年Ⅲａ期に属するものであろう。56は黒色土器椀の底部で、高台部分が残存している。斎宮Ⅲ－１段階に相当しよう。

ＳＤ8874出土遺物（57～59） 57は底部から口縁部にかけて直線的に外反する薄手の土師器皿である。13世紀前半のものと思われる。58は口縁部から頸部にかけて大きく屈曲する南伊勢系土師器鍋である。伊藤編年第１段階[7]に属するものと考えられる。59は「山茶椀」といわれている陶器椀である。藤澤編年６～７型式に相当しよう。

ＳＤ8875出土遺物（60） 口縁部が大きく屈曲し、口縁端部が上方に延びる薄手の南伊勢系土師器鍋である。伊藤編年第４段階に属するものと思われる。

ＳＤ8887出土遺物（61～70） 61は底部から口縁部にかけて直線的に外傾する須恵器皿Ｂである。斎宮Ⅰ期１～２段階に相当するものと考えられる。62～65は底部から口縁部にかけて内弯している土師器皿である。器壁が非常に薄いものである。伊藤編年Ⅱｂ期に相当しよう。66は底部から口縁部にかけて直線的に外反する薄手の土師器皿である。13世紀代のものか。67は口縁部から頸部にかけて大きく屈曲する大形の南伊勢系土師器鍋である。伊藤編年第１段階に属するものと思われる。68～70は底部から口縁部にかけて直線的に外反する陶器椀で、通称「山茶椀」である。藤澤編年６型式に相当しよう。

ＳＺ8919出土遺物（71～93） 先述のように、この遺構については、複数遺構の重複であり、したがって出土遺物の時期もかなりの時期幅がみられる。71は縄文土器の波状口縁の波頂部分である。外面には沈線文が施されている。中津式期の範疇であろう。72は磨製石斧。刃部のみ磨かれている。材質は、ハイアロクラスタイトと思われる。弥生時代に属するものと考えられる。73は須恵器高杯である。脚部の端部には、杯蓋のようなカエリがみられる。在地系のものか。７世紀前半のものであろう。74は底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がる土師器杯Ｇである。75・76は土師器杯Ａである。ともに器面の残存が良好ではないが、76については、土器外面にミガキ、土器内面には暗文が一部で確認できる。77は口縁部が外傾する土師器高杯の杯部か。78は面取りされた脚部をもつ土師器高杯の脚部である。脚内は中実で、裾部は水平に延びるものか。79は鍔付円筒形土器である。80は口縁部が外反し丸底の小形の土師器甕Ａである。81・82は大形の土師器甕Ｃ。口縁部が屈曲し、端部に面がみられる。83は土師器鍋Ｂである。把手が２ヶ所残存している。84は須恵器杯蓋である。85は須恵器杯蓋。天井部には高いツマミがみられ、口縁端部のカエリは低く内折する。86は須恵器杯蓋。天井部には扁平なツマミがみられ、口縁端部のカエリは直立する。87は底部から口縁部にかけて直線的に外反する須恵器杯Ａである。88～90は底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がり、口縁端部が若干外反する須恵器杯Ｇである。91は須恵器長頸壺である。在地系のものか。体部から直線的に立ち上がり口縁端部付近で外反する。これらは斎宮Ⅰ期１～２段階の範疇のものと考えられる。92は底部から口縁部にかけて内弯している土師器皿である。器壁が非常に薄いものである。伊藤編年Ⅱａ期に相当しよう。93は釘である。

柱穴出土遺物（94～97） 94は平瓦である。古代のものと考えられる。95は底部から口縁部にかけて外傾する土師器皿Ａである。斎宮Ⅱ－１段階に属するものと思われる。96は通称「山茶椀」といわれている陶器椀である。藤澤編年５～６型式に相当

しよう。底部外面には「＋」の墨書がみられる。97は鉄鏃である。

上面包含層出土遺物（98～114） 第1検出面を検出するまでに出土した遺物である。98は円形の扁平な敲石である。石材は砂岩系のものと考えられる。縄文時代に属するものか。99は底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がる土師器杯Gである。100は口縁部が外傾する土師器杯Aである。内面には暗文、外面はミガキがみられる。これらは、斎宮Ⅰ－2段階のものと考えられる。101は土師器杯である。102は口縁部が外反し底部が平になる小形の土師器甕Aである。これらは斎宮Ⅱ期1～2段階に比定できよう。103は不明土製品である。土馬の胴部である可能性がある。古代のものと思われる。104は須恵器杯蓋。天井部には高いツマミがみられ、口縁端部のカエリは低く内折する。105は須恵器杯蓋である。天井部には扁平なツマミがみられ、口縁端部のカエリは直立する。106は須恵器杯蓋。天井部には扁平なツマミがみられ、口縁端部のカエリは直線的に外反する。器高が低い。107は口縁部が外傾する須恵器皿である。尾北産と考えられる。108は底部から口縁部に向かい直線的に立ち上がり、口縁端部が若干外反する須恵器杯である。109は底部から口縁部に向かい内弯しながら立ち上がり、口縁端部が若干外反する須恵器杯である。金属器の写しと考えられる。110は須恵器杯Bである。底部内面に「×」の線刻が施されている。111は口縁部が短く直立する須恵器短頸壺である。112は脚が高い円面硯である。これらは7世紀後半のもと考えられる。113は須恵器薬壺の脚部である。8世紀代のものか。114はロクロ製土師器椀である。斎宮Ⅲ－3段階に属するものと考えられる。115は青磁椀である。龍泉窯産のものと考えられる[36]。

下面包含層出土遺物（116～127） 第2検出面を検出するまでに出土した遺物である。116は土師器杯蓋である。天井部には扁平なツマミがみられる。117は土師器杯Aである。118は口縁部が外傾する土師器皿Aである。内面、外面ともケズリがみられる。これらは、斎宮Ⅰ－2～3段階のものと考えられる。119は鍔付円筒形土器である。斎宮Ⅰ－1段階に比定できよう。120は須恵器杯蓋。口縁端部のカエリは低く内折する。121は須恵器杯蓋。天井部には高いツマミがみられ、口縁端部のカエリは直立する。内面には「×」の線刻がみられる。122～124は底部から口縁部に向かい内弯気味に立ち上がり、口縁端部が少し外反する須恵器杯Gである。125は須恵器平瓶である。これらは7世紀後半から末にかけてのものと考えられる。126は須恵器甕である。これらは6世紀末のものと考えられる。在地産のものか。127は玉縁で底部付近から口縁にかけて丸みを帯びつつ外傾する白磁椀である。大宰府陶磁器分類のⅣ類[37]に相当しよう。

5 まとめと検討

ここでは、主な遺構及び遺物について述べ、まとめとしたい。

（1）遺構・遺物の検出状況

弥生時代から中世の遺構を確認することができた。弥生時代のものとしては、竪穴住居4棟・方形周溝墓1基などを、奈良時代のものとしては、掘立柱建物5棟・竪穴住居9棟・土坑11基・道路遺構などを、平安時代のものとしては、掘立柱建物1棟などを、中世のものとしては掘立柱建物6棟などを確認することができた。遺物については、縄文土器、弥生土器をはじめ、奈良時代から中世までの土師器類、須恵器類、緑釉陶器、土馬や金属製品などの出土を確認した。

（2）道路遺構ＳＦ8945の検討

今回の調査区の東端で、ＳＤ8879・8929を確認することができた。

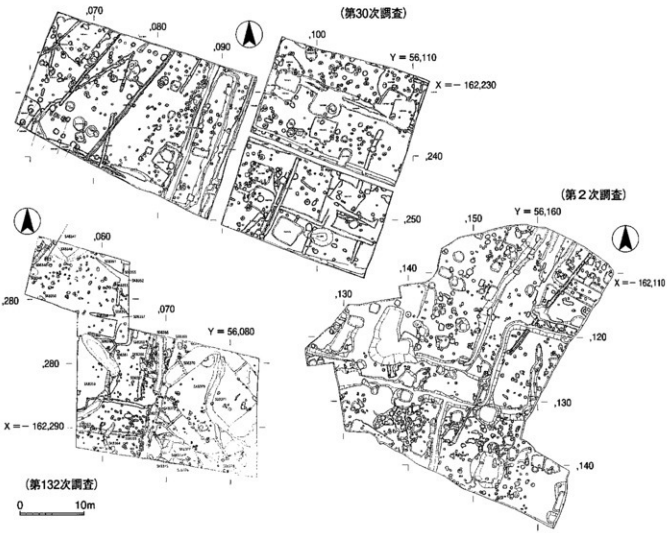
ＳＤ8879は、今回の調査区より約150ｍ北東で第2次調査（古里Ａ遺跡・1971年度調査）で検出された溝と調査区の約30ｍ南で行われた第30次調査（1980年度調査）で検出されたＳＤ1622とつながるものと考えられる。また、ＳＤ8929は、今回の調査区の約30ｍ南で行われた第30次調査において検出されたＳＤ1635と今回の調査区から約80ｍ南で行われた第132次調査（2001年度調査）で検出されたＳＤ8346とつながるものと考えられる。なお、この2条の溝は平行でもある。これらのことから、この2条の溝は道路側溝と考えられる。この側溝の間が道路遺構ということになろう。第30次

調査では溝心心で8.2 m、第141次調査では溝心心で8.1 mであった。古代官道である通称奈良古道の幅員は9 mであるので、規模的には若干小さくなる。

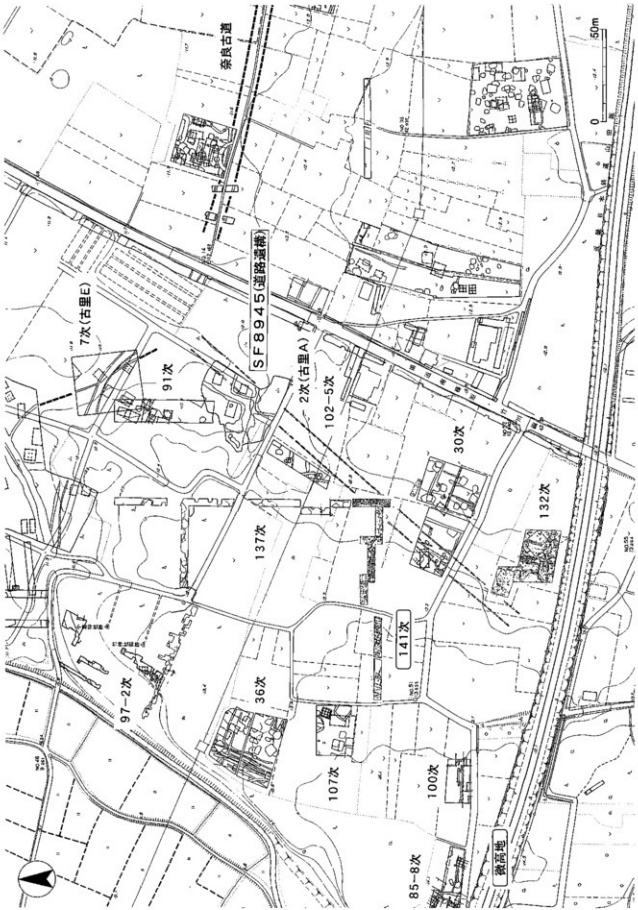
この2条の溝は一部分で遺構の深い浅いはあるものの、これまでの調査成果から約200 mは平行に直線的に延びていることが想定できる。この想定の南の延長線上には、近鉄の線路の南側で行われた第70-6次調査区がある。調査区内ではこのような溝は検出されておらず、その部分までは到達しないことがいえよう。また、想定の北の延長線上には古代官道である通称奈良古道と交差する部分がある。古代官道の北側で行われた第76-15次調査区でも溝は検出されていないため、その部分までは到達しないことがいえよう。古代官道との交差地点は調査が行われていないので、現時点では断定できないが、SF 8945と古代官道が合流する可能性も考えられる。

道路側溝から出土した遺物の所属時期については、SD 8346は奈良時代前期、SD 1622・1635は奈良時代、という調査成果を得ている。SD 8929からは遺物の出土は確認できなかったが、SD 8879からは斎宮Ⅰ－2～3段階に属すると考えられる土師器小片の出土を確認できた。これらのことから、この道路側溝は奈良時代に属するものと考えられ、これまでの調査成果から斎宮Ⅰ－3段階までは側溝が機能していた可能性がある。

道路側溝と想定しているものの方向はN 40° Eで、これは斎宮跡が立地する台地の縁辺の方向あるいは若干低くなる谷地形に沿ったものと考えられる。また、この方向にほぼ合致する掘立柱建物群も存在している。これらは字でいうところの古里・中垣内に集中していることが、これまでの調査の成果から判明している。また、道路の西側が微高地であ



第Ⅲ－21図　道路側溝検出状況（1：600）



第Ⅲ－22図　道路跡想定図（1：2,000）

No	遺構番号	器種	産地	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録No.
1	10Sx25 SH8896	須恵土器 壺	産研	7.0 × 7.5	外：ナデ→ミガキ→ナデ，内：ハケメ 3本/cm	やや軟	良	浅黄橙 10YR8/4	頸安寸	外面にスス付着	025-04
2	10Sx23 SH8917	須恵土器 壺	口径	17.5	口：低ネガミ，外：横位文→ハケメ→ミガキ，内：ナデ	密	堅	橙 2.5YR6/6，にぶい橙 7.5YR6/4，にぶい褐 7.5YR5/3	口4/12 頸安寸		032-01
3	10Sx25 SH8897	須恵土器 壺	口径	10.1	口：ヨコナデ，外：ヨコ横位 2段 間本 /2.5cm→ナデ，内：ミガキ	やや軟	堅	にぶい橙 7.5YR6/4	口4/12		031-01
4	10Sx23 SH8880	土師器 甕	口径	11.5	口：ヨコナデ，外：ナデ→ナメ，内：ナデ→ナメ	密	良	外：灰 白 2.5YR8/2，内：にぶい黄橙 10YR7/2	口3/12		020-04
5	10Sx24 SH8882	土師器 甕	口径	21.9	口：ヨコナデ，外：ナデ→ケズリ→ナデ，内：ナデ	密	良	外：にぶい橙 7.5YR7/4，内：にぶい橙 7.5YR6/4	口2/12	内面にスス付着	022-03
6	10Sx23 SH8886	土師器 壺A	口径	15.25	口：ヨコナデ，外：ヨコナデ→ハケメ 7本/cm，内：ハケ後ケズリ	やや密	良	にぶい橙 10YR7/4	口1/12		023-03
7	10Sx23 SH8888	須恵器 甕	口径	14.4	口：ロクロナデ，外：ロクロロクリ，内：ロクロナデ	密	良	灰 7.5Y6/1	3/12		026-02
8	10Sx23 SH8891	土師器 椀C	口径 器高	16.0 2.95	口：ヨコナデ，外：ナデ，内：ナデ	やや密	良	橙 5YR7/6	口1/12		007-03
9	10Sx23 SH8892	土師器 鉢B	口径 器高	15.8 4.3	口：ミガキ，外：ミガキ？→ハケ残る→見付ナデ，内：ミガキ	やや密	良	橙 5YR6/6	口1/12 内5/12		008-05
10	10Sx23 SH8893	土師器 壺A	口径	15.8	口：ヨコナデ，外：ハケメ 10本/cm 横ケズリ，内：ミガキ？	やや密	良	橙 7.5YR7/6	口3/12	内面に炭化物付着	007-02
11	10Sx23 SH8894	土師器 甕	底径	16.0	外：ケズリ後ハケメ 6～7本/cm→ナデ，内：ケズリ	密	良	にぶい橙 10YR7/4	底 4/12		002-01
12	10Sx23 SH8895	須恵器 椀B	口径	18.4	口：ロクロナデ，外：ロクロナデ→ロクロケズリ→見付ナデ，内：ロクロナデ	やや密	良	外：灰白 7.5Y7/1，内：灰黄 2.5Y6/2	口1/12		002-04
13	10Sx23 SH8899	須恵器 椀C	口径 器高	10.9 4.0	口：ロクロナデ，外：ロクロナデ→ヘラおこし，内：ロクロナデ	密	良	灰白 N7/0	口1/12 以下		006-02
14	10Sx23 SH8900	須恵器 壺H	頸径	16.6	外：ロクロナデ→ロクロケズリ→ロクロナデ，内：ロクロナデ	密	良	灰 N5/0～灰白 N7/0	頸部のみ		006-03
15	10Sx23 SH8903	須恵器 椀C	口径	15.1	口：ロクロナデ，外：ロクロナデ→ロクロケズリ，内：ロクロナデ	密	良	灰 5Y5/1	口9/12		005-04
16	10Sx25 SH8903	土師器 椀C	口径	12.0	口：ヨコナデ，外：ナデ→オサエ，内：ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口3/12		026-02
17	10Sx25 SH8903	土師器 壺C	口径	20.0	口：ヨコナデ，外：ハケメ 8本/cm，内：ハケメ 8本/cm	やや密	良	橙 7.5YR7/6	口4/12		017-01
18	10Sx25 SH8903	土師器 壺H	口径	29.1	口：ヨコナデ，外：ハケ後ナデ→ハケメ 7本/cm→ミガキ，内：ハケメ 7本/cm→ミガキ/cm	やや密	良	外：淡黄橙 10YR8/3，内：にぶい黄橙 10YR6/3	口2/12	口縁にスス付着	025-01
19	10Sx25 SH8903	須恵器 壺H	口径	10.4	口：ロクロナデ，外：ロクロナデ→ヘラ切り後ナデ，内：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5Y8/1	口1/12		005-07
20	10Sx25 SH8903	土玉	最大径 最大幅	2.8 3.3	ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4・橙 7.5YR7/6	径2.5g	重さ：25.2g	021-05
21	10Sx25 SH8903	石製土錘	最大径 最大幅	6.6 1.7	ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	径2.5g	重さ：16.43g	021-04
22	10Sx25 SH8905	土師器 壺A	口径	14.6	口：ヨコナデ，外：ナデ→ケズリ，内：ミガキ	やや密	良	明赤褐 5YR5/6，内：橙 5YR5/6	口1/12		020-01
23	10Sx25 SH8905	土師器 椀C	口径 器高	11.0 3.0	口：ヨコナデ，外：ナデ→オサエ，内：ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	口1/12		020-03
24	10Sx25 SH8905	土師器 壺A	口径	12.4	口：ヨコナデ，外：ハケメ，内：ナデ→ケズリ	やや密	良	外：にぶい橙 7.5YR7/4，内：にぶい橙 7.5YR7/4・にぶい黄橙 10YR7/4	口4/12		021-03
25	10Sx25 SH8905	須恵器 椀B	口径	10.1	口：ロクロナデ，外：ロクロナデ→ヨモギ→ロクロナデ，内：ロクロナデ	密	良	灰 5Y6/1	口3/12		022-02
26	10Sx25 SH8905	須恵器 甕H	頸部	16.3	外：ロクロナデ→ロクロケズリ→ロクロナデ，内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 N7/0・灰 N6/0	頸部のみ		006-01
27	10Sx25 SH8906	土師器 皿			外：ナデ？，内：ナデ	やや密	良	明赤褐 5YR5/6	小片	輪積	008-07
28	10 SH8908	土師器 椀	口径	16.0	口：ヨコナデ，外：ハケメ 5本/cm→横風撫しい，内：ナデ→オサエ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR6/4	口3/12		031-02
29	10Sx25 SH8920	土師器 椀C	口径 器高	12.5～13.4 3.8	口：ヨコナデ，外：ナデ→オサエ，内：ナデ	やや密	良	外：淡黄橙 10YR8/3，内：淡黄褐 10YR5/2・にぶい橙 10YR6/3	口2/12		035-05
30	10Sx25 SH8920	土師器 壺A	口径	14.2	口：ヨコナデ，外：ハケメ 10本/cm，内：ハケメ 7本/cm	やや密	良	橙 7.5YR7/6～にぶい橙 7.5YR6/4，内：にぶい橙 7.5YR7/4	口3/12		031-01
31	10Sx25 SH8909	土師器 椀C	口径 器高	12.0 4.3	口：ヨコナデ，外：ナデ→オサエ，内：ナデ→オサエ	やや密	良	にぶい橙 10YR7/4	口5/12		026-01
32	10Sx25 SH8909	土師器 壺A	口径	16.0	口：ヨコナデ，外：ハケメ 7本/cm，内：ハケメ 11本/cm	やや密	良	外：にぶい橙 5YR7/4，内：にぶい橙 7.5YR7/4	口3/12	煤付している	025-02
33	10Sx25 SH8909	土師器 壺H	台径	10.6	外：ミガキ→ヨコナデ→ナデ	密	良	橙 5YR7/6	台1/12 以下		023-02
34	10Sx25 SH8910	高杯	底径	10.5	外：ミガキ→ヨコナデ→ナデ，内：絞文	やや密	良	橙 5YR6/6・にぶい黄橙 10YR7/4	底 2/12		009-02
35	10Sx25 SH8912	須恵器 椀C	口径	10.7	口：ロクロナデ，外：ロクロナデ→ロクロケズリ→見付ナデ，内：ロクロナデ	密	良	灰 5Y5/1	口3/12		009-04
36	10Sx25 SH8912	土師器 椀C	口径 器高	10.0 5.1	口：ヨコナデ，外：ナデ→工具による？，内：ナデ→ミガキ，煤文	良	良	外：灰黄 5YR5/6，内：明赤褐 5YR5/6	口5/12	内面にスス付着	025-01
37	10Sx25 SH8912	土師器 壺C	口径	20.4	口：ヨコナデ，外：ヨコナデ→刷毛→ハケ 5本/cm，内：ハケ 5本/cm	密	良	淡黄橙 10YR8/3・にぶい黄橙 10YR6/3・灰黄褐 10YR4/2	口1/12		012-02
38	10Sx25 SH8912	土師器 壺A	口径	22.6	口：ヨコナデ・オサエ，外：ハケメ 7本/cm，内：ミガキ	やや密	良	淡黄橙 10YR8/3・にぶい黄橙 10YR7/3	口4/12		015-02
39	10Sx25 SH8912	高杯	底径	7.5	外：淡黄ケズリ→ハケメ 7本/cm→ヨコナデ，内：ナデ	やや密	良	淡黄橙 10YR8/3	底完存？		009-03
40	10Sx25 SH8913	須恵器 椀C	口径	10.7	口：ロクロナデ，外：ロクロナデ・底部未調整，内：ロクロナデ	密	良	灰白 7.5Y7/1	口1/5/12		036-05
41	10Sx25 SH8913	須恵器 高杯	口径	12.5	口：ロクロナデ，外：ロクロロクリ→ロクロケズリ後ナデ，内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 5Y7/1	口3/12	口縁歪み大きい	036-03
42	10Sx25 SH8917	土師器 椀C	口径	11.9	煤風の為調整不明	やや密	良	にぶい黄橙 10YR	口3/12		017-04
43	10Sx25 SH8918	土師器 壺	口径	24.0	口：ヨコナデ，外：ナデ？，内：ケズリ→ナデ	やや密	良	外：灰黄褐 10YR4/2，内：淡黄 2.5Y8/3	口3/12		025-03
44	10Sx25 SH8922	土師器 椀C	口径 器高	9.4 1.75	口：ヨコナデ，外：オサエ→ナデ，内：ヨコナデ→ナデ	やや密	良	淡黄橙 10YR8/3	口2/3		014-02
45	10Sx24 SH8926	土師器 椀C	口径 器高	14.7 2.7	口：ヨコナデ，外：オサエ→ナデ，内：ナデ	やや密	良	橙 7.5YR7/6	口4/12	pit19	017-02
46	10Sx24 SH8962	土師器 椀C	口径 器高	12.0 0.95	口：ナデ→オサエ，外：ナデ→オサエ，内：ナデ→オサエ	密	良	橙 7.5YR7/6	口6/12		027-04
47	10Sx24 SH8962	土師器 椀C	口径 器高	13.4 0.8	口：ナデ→オサエ，外：ナデ→オサエ，内：ナデ→オサエ	やや密	良	外：にぶい橙 10YR7/4，内：橙 5YR7/6	完形		008-03
48	10Sx24 SH8962	陶器 椀C	口径	16.0	口：ロクロナデ，外：ロクロナデ，内：ロクロナデ	密	良	外：灰白 5Y7/1，内：灰黄 2.5Y7/2	口2/12	由美焼	027-03
49	H 5～2.4 SH8962	陶器 椀B	口径 器高	10.2 3.8	口：ロクロナデ，外：ロクロナデ→ヘラケズリ→見付ナデ→ヘラ切り後ナデ，内：ロクロナデ	密	良	外：灰白 5Y7/1，内：灰黄 2.5Y7/2	口2/12 高台 1/12	内面に重ね焼	008-04
50	10Sx24 SH8962	須恵器 壺	口径	20.0	口：回転縦ナデ，外：横風・回転縦→合成，内：横風・回転縦	密	良	外：にぶい赤褐 5YR5/4，内：橙 5YR6/6	口2/12 体		016-02
51	10Sx22 SH8962	土師器 壺	口径 器高	17.7 2.5	口：ヨコナデ，外：ナデ→オサエ，内：ナデ	やや密	良	淡黄橙 10YR8/3	口1/12		030-02
52	10Sx22 SH8967	土師器 皿			外：ナデ，オサエ，ヘラ足り，内：ナデ	やや密	良	橙 2.5YR6/8	小片		008-05
53	10Sx22 SH8967	緑釉陶器	底径	6.8	外：横風（縦風）・ロクロ見込，内：風輪（縦風）・ロクロ見込	密	良	釉：ねこやな 5 RP5，素地：淡黄橙 10YR8/3	底 3/12		011-03

No.	出土遺跡	層位	法量 (cm)	遺構・検出の特徴	粘土	焼成	色調	残存度	備考	登録No.
54	10x-03 SC8872	土器溜 最上	口径 196	口:ロクロナデ、ハケメ3～4本/cm→ナデ又は、内:ロクロナデ→工具ナデ→ナデ	やや密	良	淡黄橙 10YR8/4・淡黄橙 10YR8/3	完形	外面スス、内部炭化物付着	012-01
55	10x-25 SC8872	土器溜 最上	口径 130	口:ロクロナデ後ナデ又は?、内:ロクロナデ?後ナデ又は?→ナデ、内:ロクロナデ?後ナデ又は?→ナデ	やや密	良	灰白 10YR8/2・淡黄橙 10YR8/3	口3/12		012-05
56	10x-25 SC8872	黒色土層 最底	底径 80	外:粗押痕→ナデ、内:ミガキ?	密	良	淡黄橙 10YR8/3・褐灰 N3/	5/12 強		012-03
57	10x-25 SC8872	土器溜 最上	口径 74	口:ナデ、オサエ、外:オサエ、内:ナデ	密	良	橙 7.5YR7/6	口完存		012-04
58	10x-25 SC8872	土器溜 最上	口径 213	口:ロクロナデ、又又状痕、外:ハケメ3～5本/cm→ナデ、内:ナデ→工具ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3・7/4	口1/12	海伊勢系	013-01
59	10x-25 SC8872	海蝕棚 最底	口径 72	口:ロクロナデ→粗押痕有→赤切り痕、内:ロクロナデ	やや粗	良	灰白 2.5Y7/1・灰黄褐 10YR6/2	3/12 強		014-01
60	10x-25 SC8875	土器溜 最上	口径 339	口:ロクロナデ、外:ハケメ5～6本/cm→ナデ又は、内:ロクロナデ→ナデ	やや密	良	外:にぶい黄橙 10YR7/3 内:にぶい橙 7.5YR7/4	口1/12	海伊勢系、外面にスス付着	024-01
61	10x-23 SC8887	土器溜 最古	口径 250	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→粗押痕有→ロクロケズリ、内:ロクロナデ→同心円?	密	良	灰白 2.5Y7/1	口1/12		005-05
62	10x-23 SC8887	土器溜 最上	口径 126	口:ロクロナデ、外:オサエ→ナデ、内:オサエ→ナデ	密	良	淡黄橙 10YR8/3・にぶい橙 7.5YR6/4	口4/12		017-03
63	10x-23 SC8887	土器溜 最上	口径 330 高	口:ロクロナデ、外:オサエ→ナデ、内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口完存		015-06
64	10x-23 SC8887	土器溜 最上	口径 142 高	口:ロクロナデ、外:オサエ、内:ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口6/12		015-05
65	10x-23 SC8887	土器溜 最上	口径 142 器高	口:ナデ、外:オサエ、内:ナデ	やや密	良	淡黄橙 10YR8/3	口3/12	油煙痕	008-04
66	10x-23 SC8887	土器溜 最上	口径 79 高 12	口:ナデ→ナデ、歪みあり、外:オサエ・ナデ、内:オサエ・ナデ	やや密	良	褐灰 10YR6/2	口10/12		008-03
67	10x-23 SC8887	土器溜 最上	口径 374	外:オサエ・ナデ→ハケメ2本/cm、内:工具ナデ	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4・にぶい黄橙 10YR7/4	口3/12	油煙痕	011-01
68	10x-23 SC8887	海蝕棚 最底	口径 149 底径 48	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→粗押すナデ→赤切り痕、内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 2.5Y7/1	口9/12	台完存、底部モミガラ痕	008-02
69	10x-23 SC8887	海蝕棚 最底	口径 150 高 48	口:ロクロナデ(凹線)、外:ロクロナデ→粗押すナデ→赤切り痕→モミガラ痕、内:ロクロナデ(凹線)	やや密	良	灰白 2.5Y7/1	口10/12	台完存	008-01
70	10x-23 SC8887	海蝕棚 最底	口径 144 器高 53	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→粗押痕有→モミガラ痕→ロクロケズリ、内:ロクロナデ	やや密	良	灰白 N7/0	口完存	台は完存	023-02
71	10x-25 SC8919	縄文土器		口:ナデ、沈線あり	やや密	安	にぶい黄橙 10YR7/3	口頸小片		011-05
72	10x-05 SC8919	粗製石斧	厚 [illegible] 刃部 [illegible]	刃部以鋭ミガき痕あ、全体的に敲打される。		良		2/3 強欠	黒き：12.9g ハイアロクラスタイト	023-01
73	10x-05 SC8919	低水路 最新	口径 124 器高 [illegible]	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→粗押すナデ、内:ロクロナデ	粗	良	灰白 N7/0・灰白 N8/0	口5/12 強 6/12 強	外内面に焼ふくれあり	013-03
74	10x-25 SC8919	土器溜 杯C	口径 112 器高 [illegible]	口:ロクロナデ、外:ナデ?、内:ナデ	やや密	良	淡黄橙 10YR8/4	口4/12		024-03
75	10x-25 SC8919	土器溜 杯A	口径 112 高 [illegible]	口:ヨコナデ、外:オサエ→ナデ、内:ナデ	密	良	外:橙 7.5YR6/6、内:橙 10YR7/8	口3/12		027-02
76	10x-25 SC8919	土器溜 杯A	口径 176	口:工具ナデ→ミガきあり?、外:ミガきあり?→ケズリ、内:工具ナデ?	密	良	橙 5YR6/8	口2/12		014-03
77	10x-05 SC8919	土器溜 高杯	口径 195	口:調整不明瞭、外:オサエ・ナデ、内:調整不明瞭	やや密	良	橙 5YR7/6・7/8	口6/12		013-02
78	10x-05 SC8919	土器溜 鉢		口:ヨコナデ、外:ヨコナデ、粗押すハケメ→ナデ→ケズリ、内:ヨコナデ	密	良	外:淡黄橙 10YR8/4、内:淡黄橙 7.5YR8/4	胴部 1/12		027-06
79	10x-05 SC8919	遺構内堆積 上層	口径 194 (推定)	口:ヨコナデ、外:ヨコナデ、粗押すハケメ→ナデ→赤切り痕、内:ヨコナデ	密	良	外:にぶい黄橙 10YR6/4、内:淡黄橙 10YR8/4	口完存		027-01
80	10x-25 SC8919	土器溜 杯A	口径 156	口:ヨコナデ、外:ハケ後ナデ→ハケメ→ヘラケズリ、内:ハケメ→ヘラケズリ	やや密	良	橙 7.5YR6/6・淡黄橙 10YR8/4	口2/12	内面炭化物付着	023-04
81	10x-25 SC8919	土器溜 杯C	口径 216	口:ヨコナデ、外:ヨコナデ→ハケメ、内:ナデ、ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口4/12		013-01
82	10x-25 SC8919	土器溜 杯C	口径 198	口:ヨコナデ、ハケ、外:ヨコナデ→ミガき、内:ヨコナデ→ハケメ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7/4	口4/12		014-01
83	10x-25 SC8919	土器溜 脚A	底径 390	口:ヨコナデ、外:ハケメ、内:ハケ後ケズリ	密	良	外:にぶい橙 7.5YR7/4、内:淡黄 2.5Y7/4	口4/12	内外面煤痕、把手部付	028-01
84	10x-05 SC8919	低水路 杯蓋	口径 330	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ、内:ロクロナデ	密	良	灰 5Y6/1	口1/12		023-03
85	10x-25 SC8919	低水路 杯蓋	口径 185 器高 [illegible]	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→粗押すナデ、内:ロクロナデ	密	良	灰白	口3/12		018-06
86	10x-25 SC8919	低水路 杯蓋	口径 146 器高 38	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→粗押すナデ、内:ロクロナデ	粗	良	灰 N6/0・灰 N5/0	口7/12 強		013-02
87	10x-25 SC8919	低水路 杯A	口径 120 高 40	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ヘラ切り痕すナデ、内:ロクロナデ→ヘラ切り痕すナデ	密	良	褐灰 2.5YR6/1・5/1、暗灰 N3/0	口2/12		016-08
88	10x-25 SC8919	低水路 杯G	口径 92 高 40	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ヘラ切り痕すナデ、内:ロクロナデ→ヘラ切りすナデ	密	良	灰 7.5Y5/1	口9/12		015-02
89	10x-25 SC8919	低水路 杯G	口径 200 高 28	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ、内:ロクロナデ→方向すナデ	密	良	灰白 2.5Y7/1	口1/12		015-04
90	10x-05 SC8919	低水路 杯G	口径 140 器高 42.5	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ケズリ後ナデ、内:ナデ→ハケメ	密	良	にぶい黄橙 10YR7/3	口4/12		027-05
91	10x-25 SC8919	低水路 長頸瓶	口径 [illegible] 頸部径 53	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→頸部2条、内:ロクロナデ→ナデ	密	良	灰 N6/0・5/0	口5/12 頸完存		016-01
92	10x-25 SC8919	土器溜 杯A	口径 122 器高 26	口:ヨコナデ、外:オサエ→ナデ、内:ヨコナデ→ナデ	やや粗	良	淡黄橙 7.5YR8/4・橙 7.5YR7/6	口11/12		013-01
93	10x-05 SC8919	貝	長軸 166 短軸 10			良		完形	厚さ：0.4cm	029-05
94	10x-05 [illegible]	平瓦		外:布目 コビキ痕→ケズリ、内:縄目・コビキ痕	密	良	にぶい黄橙 10YR6/4・7/4・橙 7.5YR7/6	1/2 程度	20x25 強表面剥土 補合	019-01
95	10x-24 [illegible]	土器溜 最上	口径 152 高 18	口:ヨコナデ、外:ナデ・オサエ、内:ナデ	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7/4	口11/12		018-02
96	10x-25 [illegible]	海蝕棚	高台径 73	外:0.9TP→粗ケズリ後ヨコナデ→赤切り痕、内:ロクロナデ、指圧痕	やや密	良	灰白 2.5Y7/1	高台 6/12	成形痕指圧痕「メ」形あり、底部モミガラ痕	025-02
97	10x-25 [illegible]	鉄滓	残存長 49 厚 15			良		1/2 程度		025-07
98	10x-05 [illegible]	鉄石	幅 [illegible] 厚 [illegible]	磁石吸		良		破片完形	700g	029-04
99	10x-25 [illegible]	土器溜 杯G	口径 116 高 [illegible]	口:ロクロナデ、外:ナデ・オサエ、内:ナデ	やや密	良	外:にぶい橙 7.5YR7/4、内:橙 7.5YR7/6	口5/12		016-02
100	10x-25 [illegible]	土器溜 杯A	口径 172	口:ヨコナデ、外:ミガき→ケズリ後ミガき、内:ミガき、輪文	やや密	良	橙 2.5YR6/6・6/8	口2/12		008-01
101	10x-23 [illegible]	土器溜 杯C	口径 142 器高 37	口:ヨコナデ、外:ナデ・オサエ、内:ナデ	密	良	淡黄 2.5Y8/3	4/12	内外面煤痕	010-01
102	10x-25 [illegible]	土器溜 鉢	口径 115 器高 16.5	口:ヨコナデ、外:ハケメ→ケズリ、内:ナデ・オサエ	やや密	良	明・黒褐 10YR3/2・淡黄橙 10YR8/3、内:にぶい黄橙 10YR6/3・淡黄橙 10YR8/3	口5/12	口縁炭化物、外面スス付着	005-01
103	10x-03 [illegible]	不明土製品			密	良	淡黄橙 10YR8/3・褐灰 N3/0		土師の側部か	020-02
104	10x-05 [illegible]	低水路 杯蓋	口径 102 器高 37	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→粗押すナデ、内:ロクロナデ	密	良	灰 N6/0	口完存		016-02
105	10x-25 [illegible]	低水路 杯蓋	口径 146	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→ヘラ切り痕すナデ、内:ロクロナデ→ナデ	密	良	明・灰 N5/0・暗灰 N3/0、内:灰 N5/0	4/12		020-06
106	10x-05 [illegible]	低水路 杯蓋	口径 165 器高 22	口:ロクロナデ、外:ロクロナデ→ロクロケズリ→粗押痕すナデ、内:ロクロナデ→底すナデ	密	良	灰 7.5Y5/1	口3/12		020-04

第Ⅱ－５表　第１４１次調査区出土遺物観察表 (2)

ることや第100次調査検出の横の存在を考え合わせると、初期斎宮の位置を考える上で貴重な成果を得ることができた。 （小瀬　学）

<註>

(1) 駒田利治・泉雄二・倉田直純「斎宮跡の土器」（『斎宮跡発掘調査報告』Ⅰ　斎宮歴史博物館、2001年）を参照した。

(2) (1) の文献及び『平城宮発掘調査報告』ⅩⅣ（奈良国立文化財研究所、1993年）や『古代の土器1　都城の土器集成』（古代の土器研究会、1992年）を参照した。

(3) 上村安生「伊勢・伊賀地域」（『弥生土器の様式と編年 東海編』木耳社、2002年）

(4) 木曽川学研究所 渡邊博人氏のご教示による。

(5) 藤澤良祐「山茶碗と中世集落」「尾呂』（瀬戸市教育委員会、1990年）、「山茶碗研究の現状と課題」（『研究紀要』第3号三重県埋蔵文化財センター、1994年）を参照した。

(6) 伊藤裕偉「Ⅵ　調査のまとめと検討」（『岩出地区内遺跡群発掘調査報告』、三重県埋蔵文化財センター、1996年）を参照した。

(7) 伊藤裕偉「伊勢の中世重弗用土器から東海をみる」（『鎖と環 - そのデザイン - 』　東海考古学フォーラム、1996年）を参照した。

(8) 三重県埋蔵文化財センター 伊藤裕偉氏のご教示をえた。

(9) 『大宰府条坊跡ⅩⅤ-陶磁器分類編-』（太宰府市教育委員会、2000年）を参照した。

No.	出土遺構	器種	法量 (cm)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録No.
02	19b23 上層	須恵器 瓶	口径 [illegible]	35.6	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ロクロケズリ、内：ロクロナデ	密	良	外：灰5Y6/1、内：にぶい黄2.5Y6/3	4/12		000-03
03	19b25 上層	須恵器 杯	口径 [illegible]	10.4	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ヘラ切りナデ、内：ロクロナデ、底部ナデ	密	良	灰N5/0	口1/12		006-03
04	19b25 上層	須恵器 杯	口径 [illegible]	12.0	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ロクロケズリ、内：ロクロナデ	やや密	良	外：灰N5/0・N4/0、内：灰N5/0	口3/12		004-01
05	19b23 上層	須恵器 杯B	高台径 [illegible]	9.0	外：ロクロナデ→ロクロケズリ→高台貼付ナデ→ロクロケズリ、内：ロクロナデ	密	良	外：褐灰10YR5/1、内：灰黄褐10YR5/2	底部8/12		002-02
06	19b25 上層	須恵器 短頸壺	口径 [illegible]	5.9	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ヘラケズリ後ナデ、内：ロクロナデ	やや密	良	灰白5Y7/1・灰白5Y8/1	口完存		013-04
07	19b23 上層	円面硯	脚径 [illegible]	15.4	外：ロクロナデ？、内：ロクロナデ？	やや密	良	灰N6/0・灰N5/0	1/2		014-04
08	19b25 上層	瓦器 椀底			ナデ	密	良	黄灰5Y6/1	椀部のみ		011-04
09	19b23 上層	土師器 鍋	口径 [illegible]	36.5	口：ロクロナデ、スス付着、外：ロクロナデ、スス付着→赤褐平板、内：ロクロナデ	やや密	良	灰黄褐10YR5/2	口1/12	ロクロ製成形	017-05
10	19b23 上層	須恵器 鍋	口径 [illegible]	35.0	口：ロクロナデ後指頭、外：ロクロナデ後指頭、内：ロクロナデ後指頭	密	良	灰白2.5Y7/1・褐系5YR 軸	口2/12	高台焼成	013-03
11	19b25 下層	土師器 杯A	口径 [illegible]	14.0	口：調整不明瞭、外：調整不明瞭→最終ナデ、内：調整不明瞭	やや密	良	明赤褐2.5YR5/8・橙5YR6/6	口2/12		015-03
12	19b25 下層	土師器 皿A	口径 [illegible]	15.2	口：ヨコナデ、外：ヨコナデ→ナデ、内：ヨコナデ→ナデ	密	良	橙2.5YR6/8、内：明赤褐2.5YR5/8	4/12	内内面剥離	003-02
13	19b25 下層	土師器 皿A	口径 [illegible]	23.0	口：ヨコナデ、外：オサエ・ナデ・工具痕？、内：ケズリ	密	良	橙2.5YR6/6	口2/12		002-05
14	19b25 下層	緑釉陶器 土師	口径 [illegible]	18.0	口：ヨコナデ、外：ヨコナデ→ユビオサエ→ナデ→ハケメ後、内：ハケメ＆ミガ(?)cm	密	良	外：にぶい黄橙10YR7/4、内：橙2.5YR7/6	口2/12 強	内内面剥離	003-03
15	19b25 下層	須恵器 杯B	口径 [illegible]	10.5	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付ナデ、内：ロクロナデ	密	良	外：灰N6/0、内：灰N4/0	口5/12		009-05
16	19b25 下層	須恵器 杯G	口径 [illegible]	14.7	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ロクロケズリ→貼付ナデ、内：ロクロナデ、ヘラ記号	やや密	良	灰白N7/0	口4/12 内面剥落		010-01
17	19b25 下層	須恵器 杯G	口径 [illegible]	9.8	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ヘラ切後ナデ、内：ロクロナデ	密	良	灰5Y6/1	口4/12		010-05
18	19b25 下層	須恵器 杯G	口径 [illegible]	9.4	口：ロクロナデ、自然釉、外：ロクロナデ→ヘラ切後ナデ、底部磨耗、内：ロクロナデ	密	良	N6/0 5Y7/1	口5/12		010-06
19	19b25 下層	須恵器 杯G	口径 [illegible]	9.8	口：ロクロナデ、外：ロクロナデ→ヘラ切後ケズリ、内：ロクロナデ	密	良	灰7.5Y6/1	口6/12		010-01
20	19b25 下層	須恵器 平瓶	体部径	13.8	外：ロクロナデ→貼付押文→カキメ→ロクロケズリ、内：ロクロナデ	やや密	良	外：オ7.5Y6/1・灰N5/、内：灰7.5Y6/1・灰N5/			005-02
21	19b25 下層	須恵器 瓶	頭部径	3.8	外：ロクロナデ・沈線→ロクロケズリ、内：ロクロナデ	密	良	外：灰N5/0～4/0、内：褐灰黄2.5Y5/2	破損箇所	壁面を強く叩かれた跡が内面に残る。一方のみ穿孔。	006-04
22	19b25 下層	石製 板	口径	14.4	口：ロクロナデ後指頭、外：ロクロナデ後指頭→ケズリ後、内：ロクロナデ後指頭	密	良	灰白N8/0・灰白7.5Y7/1 軸	口1/12		016-04

第Ⅱ－6表　第141次調査区出土遺物観察表 (3)

調査次数	大地区	グリッド	遺構・層名	緑釉破片数	備　考
141	H9y22	A 19	SD 8567	1	
141	H9		排土中	1	

第Ⅱ－7表　第141次調査区緑釉陶器出土地点・破片数一覧

調査区東端部分全景（北から）

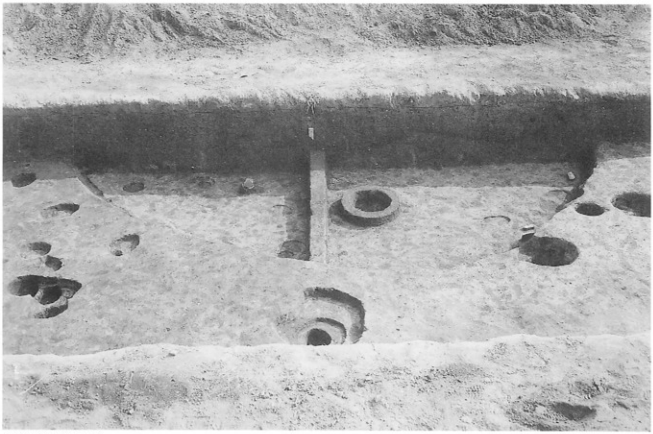
調査区東側部分全景（西から）

調査区西側部分全景（北東から）

調査区発掘体験塾部分全景（東から）

ＳＨ 8903・8917（南西から）

ＳＨ 8917 出土状況（南東から）



ＳＨ 8885（北から）

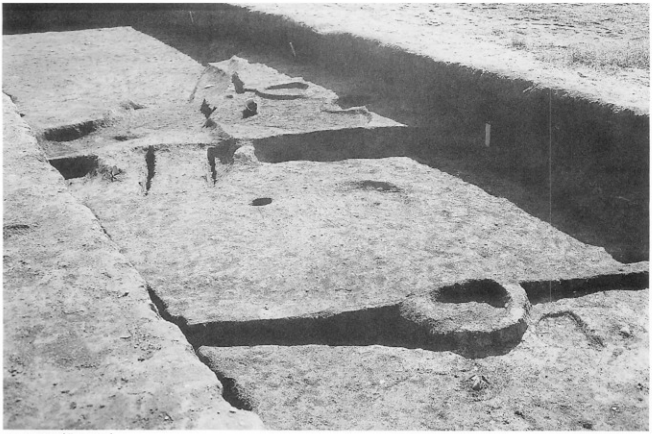
ＳＸ 8880、ＳＫ 8883（南東から）

ＳＢ 8935・8936（北西から）

ＳＨ 8888・8891（北西から）

ＳＨ 8888（南西から）

ＳＨ 8888 竈跡（南から）



ＳＨ 8925（北西から）

ＳＨ 8925 竈跡（西から）

ＳＨ 8893 竈跡（北から）

ＳＦ 8945（南西から）

ＳＺ 8919 出土状況（北西から）

ＳＺ 8919 掘削状況（北西から）

1

3

6

9

11

14

2

4

7

10

17

26

32

34

38

43

29

31

36

37

40

45

47

50

54

61

67

69

51

58

62

63

68

70

72

74

73

78

77

79

80

81

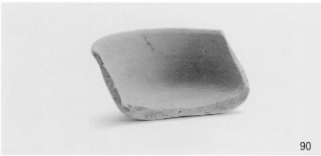
82

83

85

86

89


90

91

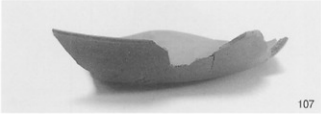
92

94 外

95

94 内

98


107

106

104

106

111

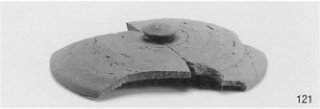
112

125

108

113

114


121

124

126

報告書抄録

ふりがな	しせきさいくうあと　へいせいじゅうごねんどはっくつちょうさがいほう
書名	史跡斎宮跡　平成15年度発掘調査概報
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	竹内英昭・小濱学・才木薫
編集機関	斎宮歴史博物館
所在地	〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川503　TEL0596-52-7027
発行年月日	西暦　2005年　3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
斎宮跡 (さいくうあと)	多気郡明和町 (たきぐんめいわちょう) 斎宮・竹川 (さいくう・たけがわ)	24442	210	34°31′55″ ～ 34°32′30″	136°36′16″ ～ 136°37′37″	20030401 ～ 20040331	535㎡ (第140次) 505㎡ (第141次)	学術調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
斎宮跡第140次	官衙	奈良　平安	掘立柱建物 土坑	土師器　須恵器 緑釉陶器　灰釉陶器 製塩土器　鉄釘 鉄鎌	寮庫と類似する遺構配置
斎宮跡第141次	官衙・集落	弥生　奈良　平安 鎌倉　室町以降	方形周溝墓 竪穴住居 掘立柱建物 土坑 道路跡	弥生土器　磨製石斧 土師器　須恵器 緑釉陶器　灰釉陶器 陶器（山茶椀・山皿）	ハイアロクラスタイト製の磨製石斧が出土

要約

第140次は、史跡斎宮跡の東部の方格地割内の主神司推定区画の調査で、平安時代前期を中心とした建物群の変遷が確認された。土坑から平安時代前期の土器が一括出土した。

第141次は、史跡を横断する奈良時代古道から分岐すると思われる北東～南西方向に延びる奈良時代の道路跡が確認された。

史跡 斎宮跡

平成15年度

発掘調査概報

２００５年３月

編集・発行　斎宮歴史博物館

印刷　文化印刷有限会社